

薬事・食品衛生審議会薬事分科会
平成25年度 第3回血液事業部会 議事次第

薬事・食品衛生審議会
血液事業部会
座席表

平成26年3月4日
厚生労働省専用第15・16会議室
午後4時から

日時:平成26年3月4日(火)16:00~18:00
場所:厚生労働省12階 専用第15~16会議室

濱部会長代理委員
半部田会委員長
審議官

速記

議題:

- 議題1 平成26年度の献血の推進に関する計画(案)について
- 議題2 平成26年度の献血の受入れに関する計画(案)の認可について
- 議題3 平成26年度の血液製剤の安定供給に関する計画(需給計画)(案)について
- 議題4 その他

配付資料:

- 座席表
- 委員名簿

議題1関連:

- 資料 1-1 平成26年度の献血の推進に関する計画(案)について
- 資料 1-2 平成26年度の献血の推進に関する計画(案)に対するパブリックコメントについて

議題2関連:

- 資料 2 平成26年度の献血の受入れに関する計画(案)の認可について

議題3関連:

- 資料 3 平成26年度の血液製剤の安定供給に関する計画(需給計画)(案)について

その他:

稲田委員						血液対策課長	事務局
大平委員						血液対策企画官	
岡田委員						日本赤十字社 田所経営会議委員	
小幡委員						日本赤十字社 江口副本部長	
嶋委員						日本赤十字社 西田副本部長	
千堂委員						日本赤十字社 庄野財務課長	
田崎委員						日本赤十字社 井上献血推進課長	
花井委員							
	前野委員	牧野委員	三谷委員	三村委員	吉澤委員	渡邊委員	

(欠席委員5名)
朝倉委員 大戸委員
鈴木委員 益子委員
山口委員

傍聴席

血液事業部会 委員名簿

氏 名	ふりがな	現 職
朝倉 正博	あさくら まさひろ	医療法人社団博栄会理事長
稲田 英一	いなだ えいいち	順天堂大学医学部麻酔科学ペインクリニック講座主任教授
大戸 斉	おおと ひとし	福島県立医科大学医学部長
大平 勝美	おおひら かつみ	はばたき福祉事業団理事長
岡田 義昭	おかだ よしあき	埼玉医科大学病院輸血・細胞移植部
小幡 純子	おばた じゅんこ	上智大学法科大学院教授
嶋 緑 倫	しま みどり	奈良県立医科大学小児科教授
鈴木 邦彦	すずき くにひこ	公益社団法人日本医師会常任理事
千堂 年昭	せんどう としあき	岡山大学病院薬剤部長・教授
田崎 哲典	たさき てつり	東京慈恵会医科大学附属病院輸血部長・教授
花井 十伍	はない じゅうご	特定非営利活動法人 ネットワーク医療と人権理事
濱口 功	はまぐち いさお	国立感染症研究所血液・安全性研究部長
◎ 半田 誠	はんた まこと	慶應義塾大学医学部輸血・細胞療法センター教授
前野 一雄	まえの かずお	国際医療福祉大学医療福祉学部教授
牧野 茂義	まきの しげよし	国家公務員共済組合連合会虎の門病院輸血部長
益子 邦洋	ましこ くにひろ	日本医科大学千葉北総病院救命救急センター教授
三谷 絹子	みたに きぬこ	獨協医科大学血液内科教授
三村 優美子	みむら ゆみこ	青山学院大学経営学部教授
山口 照英	やまぐち てるひで	国立医薬品食品衛生研究所生物薬品部研究員
吉澤 浩司	よしざわ ひろし	広島大学名誉教授
渡邊 治雄	わたなべ はるお	国立感染症研究所所長

(計21名、氏名五十音順)

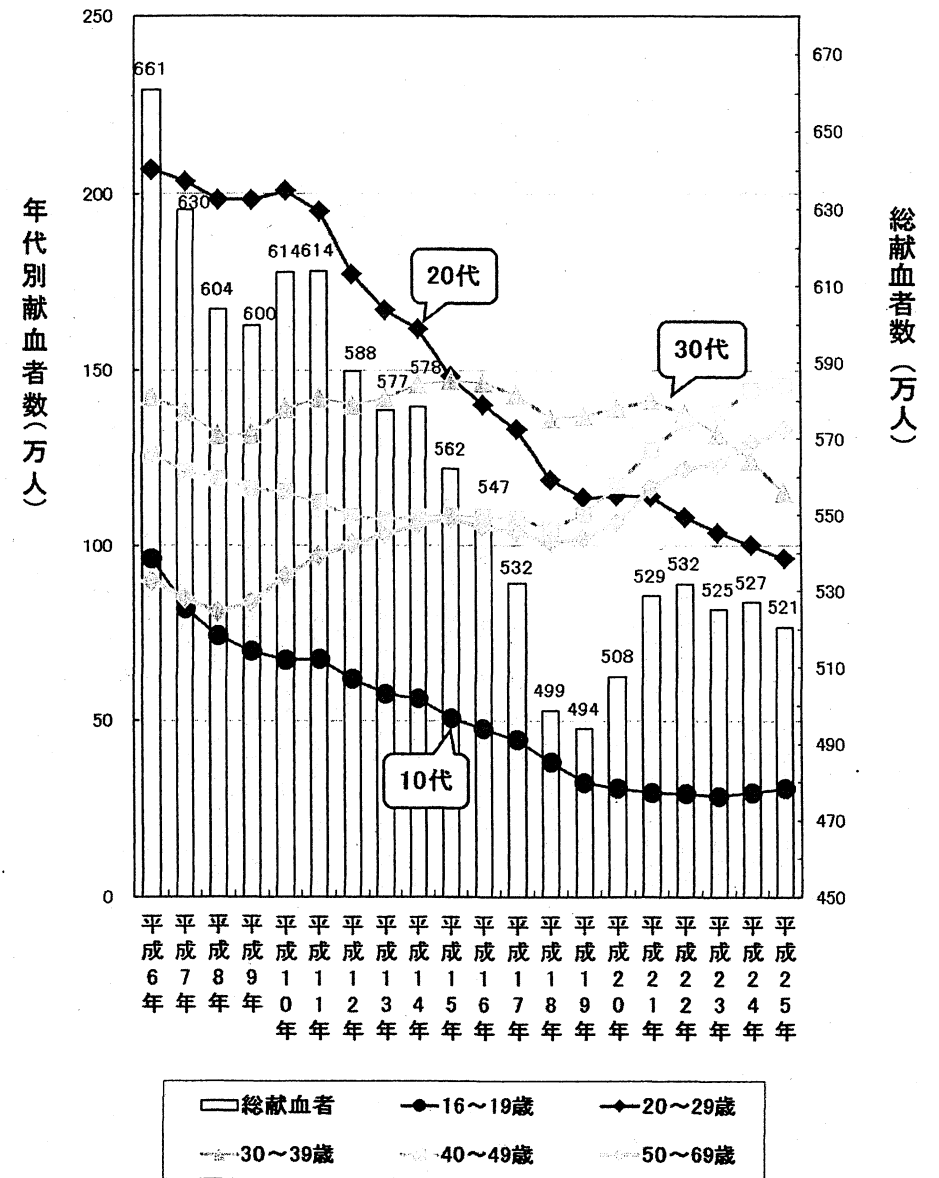
◎部会長

資料1-1

平成26年度の献血の推進に関する計画（案）について

- ・ 献血者の推移 1
- ・ 諮問書 2
- ・ 平成26年度の献血の推進に関する計画（案） 3

献血者数の推移

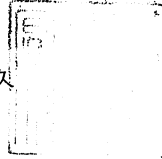


厚生労働省発薬食0225第60号

平成26年2月25日

薬事・食品衛生審議会会長
西島正弘 殿

厚生労働大臣 田村 憲久



諮 問 書

平成26年度の献血の推進に関する計画を定めることについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第3項において準用する同法第9条第4項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

平成26年度の献血の推進に 関する計画

平成26年 月 日

厚生労働省告示第 号

目次

前文	1
第1節 平成26年度に献血により確保すべき血液の目標量	1
第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項	1
1 献血に関する普及啓発活動の実施	1
① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進	
② 献血運動推進全国大会の開催等	
③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催	
④ 献血推進協議会の活用	
⑤ その他関係者による取組	
2 献血者が安心して献血できる環境の整備	5
第3節 その他献血の推進に関する重要事項	5
1 献血の推進に際し、考慮すべき事項	5
① 血液検査による健康管理サービスの充実	
② 献血者の利便性の向上	
③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進	
④ 採血基準の在り方の検討	
⑤ まれな血液型の血液の確保	
⑥ 200ミリリットル全血採血の在り方について	
2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応	6
3 災害時等における献血の確保等	6
4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価	7

平成26年度の献血の推進に関する計画

前文

- 本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第1項の規定に基づき定める平成26年度の献血の推進に関する計画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（平成25年厚生労働省告示第247号）に基づくものである。

第1節 平成26年度に献血により確保すべき血液の目標量

- 平成26年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤の量は、赤血球製剤53万リットル、血漿製剤28万リットル、血小板製剤17万リットルであり、それぞれ53万リットル、29万リットル、17万リットルが製造される見込みである。
- さらに、確保されるべき原料血漿の量の目標を勘案すると、平成26年度には、全血採血による143万リットル及び成分採血による62万リットル（血漿採血26万リットル及び血小板採血36万リットル）の計205万リットルの血液を献血により確保する必要がある。

第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

前年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成26年度の献血推進計画における具体的な措置を以下のように定める。

1 献血に関する普及啓発活動の実施

- 国は、都道府県、市町村（特別区を含む。以下同じ。）、採血事業者等の関係者の協力を得て、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の安定供給を確保し、その国内自給を推進する。そのため、広く国民に対し、治療に必要な血液製剤の確保が相互扶助と博愛精神による自発的な献血によって支えられていることや、血液製剤の適正使用が求められていること等を含め、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝え、その理解と献血への協力を求めるため、教育及び啓発を行う。
- 都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、地域の実情に応じ、対象となる年齢層への啓発、献血推進組織の育成等を行うことにより、献血への関心を高めることが必要である。
- 採血事業者は、国、都道府県、市町村等の関係者の協力を得て、献血者の安全に配慮するとともに、継続して献血に協力できる環境の整備を行うことが重要である。このため、国、都道府県、市町村等の関係者と協力して効果的なキャンペーンを実施すること等により、献血や血液製剤に関する一層の理解を促すとともに、献血への協力を呼びかけることが求められる。

- ・ 国、都道府県、市町村、採血事業者及び医療関係者は、国民に対し、病気や怪我のために輸血を受けた患者や、その家族の声を伝えること等により、血液製剤が患者の医療に欠くことのできない有限で貴重なものであることを含め、献血の正しい知識や必要性を啓発し、又は協力することが必要である。

また、少子高齢社会を迎えたことによる血液製剤を必要とする患者の増加や献血可能人口の減少、血液製剤の利用実態等について正確な情報を提供するとともに、献血者等の意見を踏まえつつ、これらの情報提供や普及啓発の手法等の改善に努めることが必要である。

さらに、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、HIV等の感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、平素から様々な広報手段を用いて、国民に周知徹底する必要がある。

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、平成22年1月27日に実施された英国滞在歴による献血制限の見直し及び平成23年4月1日に施行された採血基準の改正について、引き続き国民に対して十分に広報を行い、献血への協力を求める必要がある。
- ・ これらを踏まえ、以下に掲げる献血推進のための施策を実施する。

① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

- ・ 国は、献血量を確保しやすくするとともに、感染症等のリスクを低減させる等の利点がある400ミリリットル全血採血及び成分採血の推進及び普及のため、都道府県及び採血事業者とともに、7月に「愛の血液助け合い運動」を、1月及び2月に「はたちの献血」キャンペーンを実施するほか、血液の供給状況に応じて献血推進キャンペーン活動を緊急的に実施する。また、様々な広報手段を用いて献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかけるとともに、献血場所を確保するため、関係者に必要な協力を求める。
- ・ 都道府県、市町村及び採血事業者においても、これらの献血推進活動を実施することが重要である。また、市町村においては、地域における催物の機会等を活用する等、積極的に取り組むことが望ましい。
- ・ 血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持する必要がある。そのため、幼少期も含めた若年層、企業・団体、複数回献血者に対して、普及啓発の対象を明確にしたうえで、各世代に合わせた効果的な活動や重点的な献血者募集を実施し、以下の取組を行う。

ア 若年層を対象とした対策

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得るとともに、機能的な連携を図ることにより、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進及び献血体験の促進に組織的に取り組む。
また、若年層への啓発には、若年層向けの雑誌、放送媒体、SNS等インターネットを含む様々な広報手段を用いて、気軽に目に触れる機会を増やすとともに、実際に献血してもらえるよう、学生献血推進ボランティア等の同世代からの働きかけ

や、献血についての広告に国が作成した献血推進キャラクターを活用する等、実効性のある取組が必要である。

特に10代層への啓発には、採血基準の改正により、男性に限り400ミリリットル全血採血が17歳から可能となったこと等について情報を伝え、献血者の協力を得る。

さらに、子育て中の20歳代後半から30歳代を中心に、血液の大切さや助け合いの心について、親子向けの雑誌等の広報手段や血液センター等を活用して啓発を行うとともに、次世代の献血者を育てていくために親から子へ献血や血液製剤の意義を伝えることが重要であることから、ボランティア組織と連携した親子が参加しやすい献血推進活動の実施、地域の特性に応じて採血所に託児施設の整備を行う等、親子が献血に触れ合う機会や利用しやすい環境を設ける。

- ・ 国は、高校生を対象とした献血や血液製剤について解説した教材、中学生を対象とした血液への理解を促すポスターを作成し、関係省庁と連携しながら、都道府県、市町村及び採血事業者の協力を得て、これらの教材等の活用を通じ、献血や血液製剤に関する理解を深めるための普及啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、若年層の献血への関心を高めるため、採血事業者が実施する「献血セミナー」や血液センター等での体験学習を、積極的に活用してもらえるよう学校等に情報提供を行うとともに、献血推進活動を行うボランティア組織との有機的な連携を確保する。
- ・ 採血事業者は、その人材や施設を活用し、若年層へ献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する「献血セミナー」や血液センター等での体験学習を積極的にを行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図る。その推進に当たっては、国と連携するとともに、都道府県、市町村、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得る。
- ・ 採血事業者は、国及び都道府県の協力を得て、学生献血推進ボランティアとの更なる連携を図り、学校等における献血の推進を促すとともに、将来、医療従事者になろうとする者に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行う。

イ 50歳から60歳代を対象とした対策

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、年齢別人口に占める献血者の率が低い傾向にある50歳から60歳代の層に対し、血液製剤の利用実態や献血可能年齢等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、献血者の増加を図る。また、血小板成分採血について、採血基準の改正により、男性に限り69歳まで（65歳から69歳までの者については、60歳から64歳までの間に献血の経験がある者に限る。）可能となったことについて情報を伝え、献血者の確保を図る。

ウ 企業等における献血の推進対策

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、献血に協賛する企業や団体を募り、その社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促す。また、血液センター等における献血推進活動の展開に際し、地域の实情に即した方法で企業等との連携強化を図り、企業等における献血の推進を図るための呼びかけを行う。

エ 複数回献血者対策

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、複数回献血者の協力が十分に得られるよう、平素から血液センターに登録された献血者に対し、機動的かつ効率的に呼びかけを行う体制を構築する。また、献血に継続的に協力が得られている複数回献血者の組織化及びサービスの向上を図り、その増加に取り組むとともに、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう取り組む。

② 献血運動推進全国大会の開催等

- ・ 国は、都道府県及び採血事業者とともに、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の国内自給を推進し、広く国民に献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を求めるため、7月に献血運動推進全国大会を開催するとともに、その広報に努める。また、国及び都道府県は、献血運動の推進に積極的に協力し、模範となる実績を示した団体又は個人を表彰する。

③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催

- ・ 国は、都道府県、市町村、採血事業者、献血推進活動を行うボランティア組織、患者団体等の代表者の参加を得て、効果的な献血推進のための方策や献血を推進する上での課題等について協議を行うため、献血推進運動中央連絡協議会を開催する。

④ 献血推進協議会の活用

- ・ 都道府県は、献血や血液製剤に関する住民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、採血事業者、医療関係者、商工会議所、教育機関、報道機関等から幅広く参加者を募って、献血推進協議会を設置し、定期的に開催することが求められる。市町村においても、同様の協議会を設置することが望ましい。
- ・ 都道府県及び市町村は、献血推進協議会を活用し、採血事業者、血液事業に関わる民間組織等と連携して、都道府県献血推進計画の策定のほか、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成等を行うことが望ましい。

⑤ その他関係者による取組

- ・ 官公庁、企業、医療関係団体等は、その構成員に対し、ボランティア活動である献血に対し積極的に協力を呼びかけるとともに、献血のための休暇取得を容易にするよう配慮する等、進んで献血しやすい環境作りを推進することが望ましい。

2 献血者が安心して献血できる環境の整備

- ・ 採血事業者は、献血の受入れに当たっては献血者に不快の念を与えないよう、丁寧な処遇をすることに特に留意し、献血者の要望を把握するとともに、採血後の休憩スペースを十分に確保する等、献血受入体制の改善に努める。また、献血者の個人情報保護するとともに、国の適切な関与の下で献血による健康被害に対する補償のための措置を実施する等、献血者が安心して献血できる環境整備を行う。
- ・ 採血事業者は、特に初回献血者が抱えている不安等を払拭することはもとより、採血の度ごとに、採血の手順や採血後に十分な休憩をとる必要性、気分が悪くなった場合の対処方法等について、映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行い、献血者の安全確保を図る。
- ・ 採血事業者は、採血所における地域の特性に合わせたイメージ作りや移動採血車の外観の見直し等、なお一層のイメージアップを図り、献血者の増加を図る。
- ・ 国及び都道府県は、採血事業者によるこれらの取組を支援することが重要である。

第3節 その他献血の推進に関する重要事項

1 献血の推進に際し、考慮すべき事項

① 血液検査による健康管理サービスの充実

- ・ 採血事業者は、献血制度の健全な発展を図るため、採血に際して献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認してその結果を通知する。また、低色素により献血ができなかった献血申込者に対して、栄養士による健康相談を実施する。
- ・ 国は、採血事業者によるこれらの取組を支援する。また、献血者の健康管理に資する検査の充実が献血の推進に有効であることから、本人の同意の上、検査結果を健康診査、人間ドック、職域検査等で活用するとともに、地域における保健指導にも用いることができるよう、周知又は必要な指導を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、これらの取組に協力する。

② 献血者の利便性の向上

- ・ 採血事業者は、献血者の安全に配慮しつつ、効率的に採血を行うため、立地条件等を考慮した採血所の設置、地域の实情に応じた移動採血車による計画的採血及び献血者に配慮した献血受入時間帯の設定、子育て世代に対応した託児施設整備の備等、献血者の利便性及び安全で安心な献血に配慮した献血受入体制の整備及び充実に努める。
- ・ 都道府県及び市町村は、採血事業者と十分協議して移動採血車による採血等の日程を設定し、そのための公共施設の提供等、採血事業者の献血の受入れに協力することが重要である。また、採血事業者とともに、献血実施の日時や場所等について、住民に対して献血への協力が得られるよう、十分な広報を行う必要がある。

③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進

- ・ 国は、「輸血医療の安全性確保のための総合対策」に基づき、採血事業者と連携し、献血者に対する健康管理サービスの充実等による健康な献血者の確保、献血者の本人確認の徹底、HIV等の感染症の検査を目的とした献血を防止するための措置等、善意の献血者の協力を得て、血液製剤の安全性を向上するための対策を推進する。

④ 採血基準の在り方の検討

- ・ 国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血の推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しの検討を行う。

⑤ まれな血液型の血液の確保

- ・ 採血事業者は、まれな血液型を持つ患者に対する血液製剤の供給を確保するため、まれな血液型を持つ者に対し、その意向を踏まえ、登録を依頼する。
- ・ 国は、まれな血液型の血液の供給状況について調査する。

⑥ 200ミリリットル全血採血の在り方について

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、血液製剤の安全性、製造効率、医療機関の需要の観点から、献血を推進する上では、400ミリリットル全血採血を基本として行う必要がある。
- ・ しかしながら、将来の献血基盤の確保という観点からは、若年層の献血推進が非常に重要であることから、若年層に対しては、学校と連携して「献血セミナー」を実施する等、周知啓発の取組を積極的に行う。特に高校生等の献血時には、400ミリリットル全血採血に献血者が不安がある場合は200ミリリットル全血採血を推進するなど、出来る限り献血を経験してもらうことが重要である。

2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

- ・ 国、都道府県及び採血事業者は、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、その供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、国及び採血事業者が策定した対応マニュアルに基づき、早急に所要の対策を講ずることが重要である。

3 災害時における献血の確保等

- ・ 国、都道府県及び市町村は、災害時等において献血が確保されるよう、採血事業者と連携して必要とされる献血量を把握した上で、様々な広報手段を用いて、需要に見合った広域的な献血の確保を行う。併せて、製造販売業者等の関係者と連携し、献血により得られた血液が円滑に現場に供給されるよう措置を講ずることが必要である。また、採血事業者は、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、国、都道府県及び市町村と連携して対応できるよう備えることにより、災害時における献血の受入れを行う。
- ・ さらに、広域的な大規模災害の発生に備え、国及び採血事業者は、災害時等にお

ける献血血液の製剤化に支障を来さないための設備の整備を実施する必要がある。

平成23年3月の東日本大震災により、東北地方の一部の地域(岩手県、宮城県、福島県)で献血の受入れができない状況となったが、全国の非被災地において被災地域の需要分を加えた献血血液を確保することによって、血液製剤を安定的に供給することができた。今後も、献血血液の確保に支障を来さないよう、継続的に全国的な献血の推進を図っていくことが重要である。

また、東日本大震災の際には、停電や一般電話回線(携帯回線を含む。)の輻輳により、通信手段の確保が困難となったほか、精油所等の被災や燃料の流通に支障が生じたことにより、移動採血車等の燃料の確保も困難となった。このことから、国、都道府県、市町村及び採血事業者は、災害時等に備えた複数の通信手段の確保や燃料の確保が確実に行われるよう対策を講ずる必要がある。

4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価

- ・ 国、都道府県及び市町村は、献血推進のための施策の短期的及び長期的な効果及び進捗状況並びに採血事業者による献血の受入れの実績を確認し、その評価を次年度の献血推進計画等の作成に当たり参考とする。また、必要に応じ、献血推進のための施策を見直すことが必要である。
- ・ 国は、献血推進運動中央連絡協議会等の機会を活用し、献血の推進及び受入れに関し関係者の協力を求める必要性について献血推進活動を行うボランティア組織と認識を共有し、必要な措置を講ずる。
- ・ 採血事業者は、献血の受入れに関する実績、体制等の評価を行い、献血の推進に活用する。

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
6	<p>いくら法で決められているからと言って毎年毎年おなじことを繰り返すのは能が無いとしか言えない。HIV感染問題など重大な献血問題が出ているのに従来通りを繰り返しているのは怠慢であろう。そもそも採血した血液は不確実な検査しか出来ないという事実があるのに、さも完全な選別検査が出来るとして不特定多数の無差別採血という献血制度自体が間違っていると思わないのだろうか。全国民の過去の病歴履歴や渡航履歴などデータベースを作り、そして当日の健康チェックをしてOKだったら採血するくらいの厳格な採血制度にしなければならないと考えべきだと思うのだが。</p> <p>採血車で乗り付け、通りすがりの人から無差別に採血するなど、とんでもないことだしと思えない。血液は生きた細胞であり、臓器提供というイメージがあるため、身内や関係者の手術などでの血液提供要求が無ければ献血しないのが普通の人の感覚であろう。従って献血に向かおうとする人々は、臓器提供したいと思う人であり、何らかの病歴を持ちたい人である。不特定多数の無差別採血の時代は終わりにすべき時期がきていると思うのだが。</p>	<p>血液事業への御理解・御協力ありがとうございます。</p> <p>我が国の献血制度は皆様の善意を支えられ、輸血用血液製剤や血漿分画製剤に使用されています。しかしながら、若者の献血離れや少子高齢化による献血可能人口の減少が進む中で、国、日本赤十字社及び都道府県では、将来の献血基盤となる若年層への献血普及活動を推進しています。</p> <p>御指摘のとおり、平成25年11月に輸血によるHIV感染事例が発生しましたが、今後このようなことが起こらないよう、HIVの検査目的で献血をしないように周知徹底を図るとともに、HIVの核酸増幅検査(NAT)について、検体を1人ずつの検査に変更し検査精度の向上を図ることを日本赤十字社と検討しています。</p> <p>今後とも献血への御理解・御協力をお願いいたします。</p>
7	<p>昨年、輸血からHIVに感染するという事故がありました。</p> <p>その際、ニュースで数十人分の血液を混ぜて、一度に検査するということ、恥ずかしがら初めて知りました。しかし、それでは見つからないウイルスも存在するのではないのでしょうか。一検体ずつ検査して欲しい。将来献血を受けるかもしれない立場としては、思いました。それに、街で献血カーを見つけたらいいのですがありません。また、近くに献血センターがないので、なかなか献血の機会がありません。それも、献血があまり盛んでない原因ではないでしょうか。</p> <p>また、学校では、『献血の大切さ』を教える講演はありますが、具体的な献血基準を知らないというのが現状です。私も、このパブリックコメントを送るにあたって調べ、初めて自分でもできる(体重制限で無理だと思っていた)献血があることを知りました。基準を知らば、自分でもできる、と献血に行く意欲にもつながると思います。</p> <p>最後に、政府機関で決められることなのかどうかはわかりませんが、献血基準を視覚的に分かりやすくするために、体重が50kgくらいの芸能人をCMIに起用してはいかがでしょうか？</p>	<p>血液事業への御理解・御協力ありがとうございます。</p> <p>平成25年11月に輸血によるHIV感染事例が発生しましたが、今後このようなことが起こらないよう、HIVの検査目的で献血をしないように周知徹底を図るとともに、HIVの核酸増幅検査(NAT)について、検体を1人ずつの検査に変更し検査精度の向上を図ることを日本赤十字社と検討しています。</p> <p>国、日本赤十字社及び都道府県では、将来の献血基盤となる若年層への献血普及活動を推進しております。若年層に対して、いかに献血に興味を持ち理解を促せるか検討しながら、献血普及活動を行ってまいりたいと思います。また、頂いた御意見は今後の参考とさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解・御協力をお願いいたします。</p>
8	<p>血液製剤の半分近くを輸入に頼っている実態の改善が見込めないままの献血制度に反対です。輸血由来のHIV感染の防止策は献血制度では構築できない。健康と安全を管理(担保)した売血制度を構築すべき。</p>	<p>血液事業への御理解・御協力ありがとうございます。</p> <p>平成25年11月に輸血によるHIV感染事例が発生しましたが、今後このようなことが起こらないよう、HIVの検査目的で献血をしないように周知徹底を図るとともに、HIVの核酸増幅検査(NAT)について、検体を1人ずつの検査に変更し検査精度の向上を図ることを日本赤十字社と検討しています。幅広い視点から検討を行うことは必要なことと承知しておりますので、頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解・御協力をお願いいたします。</p>
9	<p>アンケート調査で国民、献血者は、献血が日本赤十字社によって輸血用血液製剤として製造販売されているだけでなく、献血の一部は民間製薬企業で血漿分画製剤という医薬品に加工され、難病を含む色々な疾患の治療に使用されていることの認識が不足していることが確認されました。国を含め血液事業関係者が献血者に対して正確な情報提供をすることが必要であることを示しています。当局及び献血推進調査会でもこれらに関する具体的な方策をご検討されるよう要望致します。</p>	<p>血液事業への御理解・御協力ありがとうございます。</p> <p>「平成26年度の献血の推進に関する計画(案)」では、「献血に関する普及啓発活動の実施」として、国は、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝えるとともに、国、日本赤十字社は、国民に一層の理解を求めるとなっています。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。より一層の献血の普及啓発に取り組みしていきたいと思っております。</p> <p>今後とも献血への御理解・御協力をお願いいたします。</p>
	<p>私達は血液事業の根幹である現在の献血体制に関して、中長期的視点で課題解決に関する議論を開始することを平成24年度のパブリックコメントで提案してきました。当局としては中長期的活動目標として「献血推進2014」を推進している段階であり、これを達成することが当面の目標であると回答されています。次期中長期的献血推進について議論を開始する必要があると考えています。</p> <p>つきましては、血液事業の根幹である献血体制について、少子高齢化や安全性、更に製造供給体制の異なる輸血用血液製剤と血漿分画製剤に関する安定供給体制等の観点から血液事業部会と具体的な議論を開始することを要望致します。また、私達は採血事業者及び輸血用血液製剤製造事業者として日本赤十字社が議論に参加するだけでなく、血漿分画製剤事業者団体等もこの議論に参加することで、さらに広い視点から血液事業全体に係わる政策の推進に貢献できると考えています。ご検討ください。</p>	<p>血液事業への御理解・御協力ありがとうございます。</p> <p>献血推進については、平成22年度に5か年の中期目標「献血推進2014」を定め、その目標達成に向けた取組を実施しています。この目標は平成26年度までとなっていますので、次期目標については、今後、献血推進調査会に諮り御議論いただくこととなります。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解・御協力をお願いいたします。</p>
	<p>私達の一部の会員企業は欧州で成分献血のみの献血組織を運営しています。欧州では公的機関や赤十字以外に血漿分画製剤利用の民間献血組織があります。血漿分画製剤は主に成分献血で採血された原料血漿で製造されていますが、成分献血に要する時間は約90分を要し全血献血の約20分とは採血に要する時間が大きく異なり、献血者の時間的負担が増加します。更に成分献血は成分献血用の機器を設置する必要がある事や機器のスペースの問題があるため移動献血バスで実施することが困難で、献血は成分献血の導入が主体となっています。これら成分採血に係わる環境は日本でも欧州でも同様であることから、海外の献血体制を参考にしながら日本独自の安定的な献血体制の構築に向けて、国民、献血者と議論を行うことは重要で、特に将来の献血体制を担う若年層の視点を政策に反映する努力は必要です。そのために、献血推進委員会の委員が私たちの欧州の献血施設を視察し、現地関係者と直接意見交換する機会を設けることは、今後の議論のために非常に有益と考えますので、当局にこの実施を提案いたします。</p>	<p>血液事業への御理解・御協力ありがとうございます。</p> <p>献血推進に関して、幅広い視点から検討を行うことは必要なことと承知しております。頂いた御意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>今後とも献血への御理解・御協力をお願いいたします。</p>

資料 2

厚生労働省発薬食0225第61号
平成26年2月25日

平成26年度の献血の受入に関する計画（案）の認可について

薬事・食品衛生審議会会長
西島正弘 殿

- ・ 諮問書 1
- ・ 平成26年度の献血の受入に関する計画（案） 3

厚生労働大臣 田村 憲久

【参考資料】

諮 問 書

- ・ 平成25年度献血受入計画（平成25年度4～12月）における
取組み状況と平成26年度献血受入計画の策定について
. 13

平成26年度の献血の受入れに関する計画を認可することについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第11条第3項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

血企第 45 号
平成 26 年 2 月 19 日

厚生労働大臣 田村 憲久 様

日本赤十字社
理事 西本 幸

平成 26 年度献血受入計画について

標記については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」（昭和 31 年法律第 160 号）第 11 条第 1 項の規定に基づき提出いたします。

平成 26 年度献血受入計画について

平成 26 年度献血受入計画については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」第 11 条及び同法律施行規則第 4 条に則り、各都道府県と協議し、当該年度に献血により受け入れる血液の目標量、その目標量を確保するために必要な措置に関する事項及びその他献血の受入れに関する重要事項について、以下のとおり計画します。

1. 平成 26 年度に献血により受け入れる血液の目標量

平成 26 年度に献血により受け入れる血液の目標量については、各都道府県における過去 3 年の輸血用血液製剤の需要動向と原料血漿の必要量から安定供給を確保するために、全血献血で 143 万リットル、血漿成分献血で 26 万リットル、血小板成分献血で 36 万リットルの合計 205 万リットルを確保することとします。

なお、都道府県別目標量については、別紙 1 のとおりです。

日本赤十字社では、これらの目標量を確保するために、国、地方公共団体等との連携の下に献血受入れに取り組みます。

2. 前項の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

(1) 献血受入の基本方針

① 目標量の確保

平成 26 年度に献血により受け入れる血液の目標量を確保するための各都道府県献血受入施設の稼働数及び目標量については、別紙 2 のとおりとし、医療機関の需要に応じた採血に努め、400mL 及び成分献血を積極的に受入れます。

② 献血受入体制の整備

献血者の安全性と利便性に配慮し、立地条件等を考慮した採血所の設置、移動採血車による計画的採血及び献血者に配慮した献血受入時間帯の設定等、効率的な採血を行うための設備及び体制の整備・充実を継続的に実施します。また、採血所における休憩スペースの十分な確保や地域の特性に合わせたイメージ作り等の環境整備に努め、一層のイメージアップを図ります。

③献血者対応の充実

献血者が安心して献血できるように、献血の受入れに当たっては、丁寧な対応に心掛け、不快の念を与えることのないよう、職員の教育訓練の充実強化を図るとともに、献血者の意見・要望を把握し、献血受入体制の改善に努めます。

また、献血者の個人情報保護や献血者健康被害救済制度についても適正な運用に努めます。

④初回献血者等への対応

初めて献血をする方の献血に対する不安等を払拭することはもとより、献血の都度、献血の手順や献血後に十分な休息をとる必要性、気分が悪くなった場合の対処方法等について、映像やリーフレット等を活用した事前説明を充分に行い、献血者の安全確保に努めます。また、学校献血会場において、採血後の献血者をケアする者を配置し、採血副作用の防止に努めます。

⑤検査サービス等の実施

献血者の健康管理に資するため、引き続き希望者に対し生化学検査成績、血球計数検査成績をお知らせします。

また、ヘモグロビン濃度の低値により献血にご協力いただけなかった献血申込者に対して健康相談等を実施し、献血者の増加を図ります。

(2) 献血者の確保対策

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため幼少期も含めた若年層、企業や団体、複数回献血者を普及啓発の対象として、各世代にあわせた効果的な活動や重点的な献血者募集を実施するとともに健康な高齢層の献血受入れについても積極的に推進します。

また、献血の意義等について、国民が広く理解できるように情報を提供することが、献血意識を高めることに繋がることから、血液事業をより理解していただくための各年齢層の広報を継続的に展開し、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の感謝の声を伝える等により、血液製剤が患者さんへの医療に欠くことのできない善意による貴重なものであることを含めた献血思想の普及啓発を図ります。

特に少子高齢化による若年層献血者の減少を踏まえ、若年層を対象とした取組として体験学習の継続的な実施等、献血への動機付けとしての活動も積極的に推進します。

なお、各都道府県血液センターにおける主な取組は、別紙3のとおりです。

①若年層を対象とした対策

(ア) 若年層全体に対する対策

若年層向けの雑誌、放送媒体、SNS等、インターネットを含む様々な広報手段を用いて、同世代からの働きかけ、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等、効果的な広報に努めます。

(イ) 小学生、中学生を対象とした対策

献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明するため、ボランティア組織の協力を得ながら、学校へ出向いての献血セミナーや血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図ります。

(ウ) 高校生を対象とした対策

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に献血に関する内容が盛り込まれたこと、文部科学省から各都道府県教育委員会あてに献血に触れ合う機会の受入れについての協力に関する通知が発出されたことから、献血のみならず、赤十字活動全体を含めた命の大切さ等を盛り込んだ統一資材等を用いて、学校へ出向いての献血セミナーを積極的に実施するよう努めます。

(エ) 大学生を対象とした対策

献血推進活動を行っている学生献血推進ボランティア組織等と更なる連携を図り、大学生における献血や血液製剤に関する理解、献身体験の促進に努めます。

特に、将来の医療の担い手となる医療・薬学系の学生等に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行ってまいります。

(オ) 10代への啓発として、採血基準の改正により、平成23年4月から男性に限り400mL全血採血が17歳から可能となったことを伝え、普及啓発に努めます。

②献血者の年齢層に応じた献血推進対策

(ア) 子育て中の20歳代後半～30歳代を対象とした対策

この年代については、出産、あるいは子育てに忙しいという理由により献血をする機会が減少しているものと考えられることから、その方々に安心して献血していただけるための取組として、地域の特性に応じて献血ルームにキッズスペースを整備する等の受入体制を整え、親子が献血に触れ合う機会や利用しやすい環境を設けるよう努めます。

(イ) 40歳～50歳代を対象とした対策

企業や団体の中心的な存在であるこの年代に対して、「血液の使われ方」及び「献血可能年齢」等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、社会貢献活動の一つとして、地域の実情に即した方法で企業・団体等における献血の推進を図ります。

(ウ) 60歳以上を対象とした対策

この年代は、60歳を超えたところで献血者数の割合が急激に減少しており、その理由として定年退職することにより献血に関する情報に触れる機会が減少することや健康上の問題等が要因として考えられることから、定年退職後も引き続き積極的に献血に協力していただけるよう、情報伝達の方法を工夫するなどして献血者の増加に努めます。

献血が出来なくなった70歳以上の方についても、個人ボランティアとして献血の推進に支援いただけるよう努めます。

また、血小板成分献血について、採血基準の改正により、平成23年4月から男性に限り69歳まで可能となったことを伝え、普及啓発に努めます。

③企業等における献血の推進対策

献血に協賛する企業や団体を募り、社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促します。

④複数回献血協力者の確保

複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブの充実等、重点的な啓発、施策を行うよう努めます。

また、複数回献血者に血液の需要に応じて協力していただくことは、今後の安定的・効率的な献血を実施していくうえで不可欠であり、複数回献血クラブへの加入促進、インセンティブとなる同クラブ会員を対象としたイベントの開催等を積極的に実施します。

併せて、複数回献血クラブ会員の献血履歴を適切に管理し、必要な時に必要な献血を的確に依頼できるよう管理システムの改修に取り組みます。

⑤献血推進キャンペーン等の実施

将来の献血基盤となる10代・20代の若年層献血の推進は、血液事業にとって最も重要な課題であり、また、国民各世代への献血の普及啓発を図るため、通年で実施しているLOVE in Actionプロジェクトを基軸とし、複数回献血者確保キャンペーン(4～5月)、愛の血液助け合い運動(7月)、いのちと献血俳句コンテスト(7月～12月)、全国学生クリスマスキャンペーン(12月)及びはたちの献血キャンペーン(1～2月)等を連動させながら戦略的な広報を展開します。

3. その他献血の受入れに関する重要事項

(1) 血液製剤の安全性向上のための対策

国及び都道府県と連携し健康な献血者の確保に努めます。

今後も献血者本人確認を徹底するとともに、HIV等の感染症の検査を目的とした献血の防止のための「安全で責任のある献血」の普及に努めます。さらに、問診業務の充実強化に努め、安全な献血の受入れを図ります。

(2) まれな血液型の血液確保

まれな血液型の献血者には、医療機関からの突発的な要請に対応できるよう、本人の意向を踏まえて予め登録を依頼し、必要時に献血を依頼します。

(3) 200mL全血献血のあり方について

血液製剤の安全性、製造効率、医療機関の需要の観点から、献血を推進するうえで400mL全血献血を基本とし、併せて、将来の献血推進の基盤となる若年層に対する献血推進が重要であることから、400mL献血ができない若年層に対して、国、都道府県及び学校と連携し「献血セミナー」を実施する等、献血の知識について啓発する取組を積極的に行うとともに、特に高校生等の献血時には、400mL全血献血に不安がある場合は200mL全血献血を推進するなど、出来る限り献血を経験していただくよう努めます。

(4) 血液製剤の在庫管理と不足時の対応

赤血球製剤等の在庫予測に基づき、献血者確保対策を講じて安定供給に努めます。また、国及び都道府県にも在庫情報を提供し、万一の在庫不足時には対応手順に基づき、関係機関と連携した献血者確保対策を実施します。

(5) 災害時等における危機管理

① 平成23年3月の東日本大震災における全国からの血液製剤の支援実績や教訓を踏まえ、今後も災害時において、献血血液の確保に支障を来さないよう、広域的な需給管理体制のもと、国、都道府県及び市町村と協力して継続的に全国的な献血の推進を図り、円滑な血液供給に努めます。

② 東日本大震災の際には、停電や一般電話回線(携帯回線含む。)の輻輳により、通信手段の確保が困難となったほか、精油所等の被災や燃料の流通に支障が生じたため、移動採血車等の燃料の確保も困難となったことから、国、都道府県、市町村及び企業等と協力して、複数の通信手段の確保及び燃料の確保により、災害時に備えます。

平成26年度に献血により受け入れる血液の目標量(日本赤十字社)

- ③ 広域的な大規模災害の発生に備え、災害時等における献血血液の製剤化に支障を来さないよう、国と協議して必要な設備等の整備を進めます。

(6) 献血受入計画の分析と評価

献血の受入状況について、国、都道府県及び市町村へ情報を提供します。また、その分析と評価を行い、次年度の献血受入計画の各種施策の検討に資することとします。

(単位:L)

No	都道府県名	全血献血			成分献血			合計
		200mL	400mL	計	血小板	血漿	計	
1	北海道	7,000	79,640	86,640	17,164	3,504	20,668	107,308
2	青森	820	14,760	15,580	4,400	1,884	6,284	21,864
3	岩手	1,132	12,800	13,932	4,120	1,797	5,917	19,849
4	宮城	1,095	22,000	23,095	6,312	6,390	12,702	35,797
5	秋田	672	12,072	12,744	4,520	1,658	6,178	18,922
6	山形	624	11,192	11,816	2,333	2,533	4,866	16,682
7	福島	1,360	24,413	25,773	5,142	2,655	7,797	33,570
8	茨城	3,100	24,832	27,932	6,278	6,344	12,622	40,554
9	栃木	2,680	17,548	20,228	4,236	5,373	9,609	29,837
10	群馬	2,237	20,590	22,827	6,479	2,776	9,255	32,082
11	埼玉	6,106	57,585	63,691	13,250	18,485	31,735	95,426
12	千葉	6,096	59,658	65,754	14,560	14,403	28,963	94,717
13	東京	8,125	146,765	154,890	47,668	30,835	78,503	233,393
14	神奈川	2,198	82,799	84,997	17,951	24,653	42,604	127,601
15	新潟	2,167	21,254	23,421	7,650	5,678	13,328	36,749
16	富山	680	10,120	10,800	3,080	1,871	4,951	15,751
17	石川	880	11,760	12,640	4,032	2,328	6,360	19,000
18	福井	530	10,288	10,818	2,932	397	3,329	14,147
19	山梨	691	8,063	8,754	0	4,881	4,881	13,635
20	長野	1,382	18,525	19,907	5,573	4,411	9,984	29,891
21	岐阜	1,080	19,520	20,600	4,840	4,296	9,136	29,736
22	静岡	1,840	33,740	35,580	8,804	8,672	17,476	53,056
23	愛知	4,000	67,600	71,600	19,600	22,452	42,052	113,652
24	三重	26	14,672	14,698	4,124	6,066	10,190	24,888
25	滋賀	562	13,682	14,244	2,390	1,923	4,313	18,557
26	京都	264	32,740	33,004	6,881	5,508	12,389	45,393
27	大阪	3,171	110,808	113,979	28,220	15,858	44,078	158,057
28	兵庫	1,860	57,600	59,460	13,761	10,314	24,075	83,535
29	奈良	548	14,659	15,207	4,315	2,682	6,997	22,204
30	和歌山	534	13,194	13,728	2,741	1,554	4,295	18,023
31	鳥取	84	6,851	6,935	1,956	292	2,248	9,183
32	島根	15	6,835	6,850	2,341	392	2,733	9,583
33	岡山	719	23,903	24,622	8,223	1,914	10,137	34,759
34	広島	684	31,110	31,794	14,742	2,864	17,606	49,400
35	山口	259	18,488	18,747	3,269	1,027	4,296	23,043
36	徳島	40	8,950	8,990	2,132	358	2,490	11,480
37	香川	42	11,089	11,131	2,370	908	3,278	14,409
38	愛媛	20	16,463	16,483	3,511	1,339	4,850	21,333
39	高知	277	9,670	9,947	2,257	1,040	3,297	13,244
40	福岡	309	64,205	64,514	15,311	11,754	27,065	91,579
41	佐賀	48	8,900	8,948	2,268	4,004	6,272	15,220
42	長崎	412	17,388	17,800	3,652	3,130	6,782	24,582
43	熊本	226	23,040	23,266	4,804	2,999	7,803	31,069
44	大分	334	14,672	15,006	3,648	2,246	5,894	20,900
45	宮崎	313	13,745	14,058	3,613	2,079	5,692	19,750
46	鹿児島	381	20,866	21,247	4,496	1,990	6,486	27,733
47	沖縄	224	17,584	17,808	3,372	2,911	6,283	24,091
	合計	67,847	1,358,638	1,426,485	355,321	263,428	618,749	2,045,234

※山梨県の血小板成分献血目標量については、血小板採血が東京都において行われているため、東京都に併せて計上している。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための各採血所毎の目標量及び稼働数

Table with columns for prefecture, center type (血液センター, 献血ルーム, 移動採血車, オープン献血), and metrics (全血献血量, 成分献血量, 稼働数, etc.).

注1. オープン献血とは、献血のベッド等の器材を携帯し、事業所や学校の会議室等を会場として行う献血受入れ方式。
注2. 稼働数とは、血液センター・献血ルームでは開設日数を、移動採血車では記事台数を、オープン献血では献血会場数をいう。

平成26年度献血受入施設数及び献血受入施設整備予定等

Table showing the number of blood donation facilities and planned improvements for FY2024, categorized by prefecture and facility type.

※平成26年4月1日現在の献血受入施設(血液センター)については、実際に受入を行っている血液センター。
0については、立地条件等の理由により、献血ルーム、移動採血車及びオープン献血により必要な献血者を確保している。
※更新とは、増減なく新たな採血車、成分採血装置に入れ替えること。

(1) 血液事業本部の取組

血液事業本部においては、輸血用血液製剤の安定供給の確保等について審議する安定供給委員会を設置しています。特に、より高精度な需要予測を図ることを目的として、安定供給委員会の下に「輸血用血液製剤需要予測特別委員会」を設置し、医学的及び臨床的な観点から需要について検証しております。

また、輸血用血液製剤の安定供給を確保するため、同委員会の下に「安定供給促進小委員会」（原則隔週金曜日開催）を設置し、全国の輸血用血液製剤の需給状況及び原料血漿の確保状況を把握し、安定供給を実現・維持するための対応策の検討を行い、各血液センターへの指示・監視・指導を実施しています。

(2) 各血液センターの取組

各血液センターにおいては、「需給計画委員会」（原則毎月開催）及びその下に「需給計画委員会作業部会」（原則毎週開催）を設置し、採血・製造・供給の予測に基づく在庫シミュレーションによる赤血球製剤・血漿製剤・血小板製剤の需給計画の検証を行い、基本となる献血受入計画に調整を加え、翌月・翌々月の需給計画を策定しています。

特に、ブロック血液センターにおいては、ブロック内の需給状況の把握、需要予測及び需給計画等を検証し、ブロック内地域血液センターに対して指導・調整を行い、安定供給の促進を図っています。

(3) 在庫量の情報管理と危機管理対応

① 血液事業本部は、休日を除く毎日、午前6時現在の全国各血液センターの赤血球製剤の在庫を把握（別紙2）し、注意報水準・警報水準に陥らないよう常に全国の需給状況を確認するとともに、赤血球製剤の在庫状況を厚生労働省へ報告しています。

また、各血液センターからは各都道府県及び各都道府県支部へ同様に情報提供しています。

② 注意報水準あるいは警報水準に陥った都道府県については、「危機管理水準の情報報告書」により危機管理水準の現況、それに至るまでに講じた方策等をブロック血液センターを通じて血液事業本部へ提出させ、それを受けて血液事業本部は「危機管理水準の対応指示書」により具体的な対策等を指示しています。

なお、平成25年度については、注意報水準及び警報水準を下回った事例は発生しておりません。

③ さらに、需給予測によって血液不足が見込まれる血液センターについては、今後の採血計画の見直しや増班体制などの具体的な対策を講じるよう指示しています。

④ また、平成17年4月に本社及び各血液センターに献血推進本部を設置し、万一、安定供給の確保が懸念される場合には、国及び都道府県と連携して迅速に効果的な対応がとれる体制を整備しています。

⑤ 更に、赤血球製剤在庫が減少する冬季対策として、各ブロックの赤血球在庫が適正在庫数の120%以上で推移するよう需給管理を図っております。

(4) 冬季・春季献血者確保対策

平成25年9月と平成26年1月にブロック血液センター需給管理課長会議を開催し、赤血球製剤の在庫が全国的に逼迫する冬季及び春季の在庫予測シミュレーション等に基づき、進捗状況確認及び対策の検討を行いました。

また、より安定的な在庫の確保に向けて、春季の確保対策については、3月に再度詳細な検証を行う予定としております。

(5) 危機管理にかかる取組

広域事業運営体制に即した危機管理体制への見直しを行い、血液事業危機管理ガイドラインを整備しました。

また、各血液センターにおいては、本ガイドラインに基づいて、危機管理対応マニュアルを整備しております。

4 平成25年度献血受入計画の進捗状況

平成25年度献血受入計画として、核となる対策と取組を血液事業本部から各血液センターへ指示し、各血液センターでは都道府県との連携のもとに受入計画を策定・実施しています。なお、その対策と各血液センターにおける主な取組の実施状況は次のとおりです。

(1) 若年層を対象とした対策

若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、同世代からの働きかけ、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等、効果的な広報を実施しました。

参考① 青少年ふれあい事業の実施状況

小中学生を対象とした血液センター等の見学等（体験学習を通じ、献血に触れ合う機会の創出により献血への理解を深める）

平成 24 年度実績 実施回数 526 回、参加人数 37,295 人

平成 25 年度上半期実績 実施回数 414 回、参加人数 21,931 人

参考② 若年層献血セミナー

10代後半から30代前半若年層を対象に献血への理解促進を図るために 血液センターの施設を利用し、セミナー等を開催。

平成 24 年度実績 実施回数 679 回、参加人数 83,992 人

平成 25 年度上半期実績 実施回数 565 回、参加人数 56,392 人

ア. 小学生、中学生を対象とした対策

献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明するため、ボランティア組織の協力を得ながら、学校へ出向いての勉強会や血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図りました。

イ. 高校生を対象とした対策

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に献血に関する内容が盛り込まれたこと、文部科学省から各都道府県教育委員会あてに献血に触れ合う機会の受入れについての協力に関する通知が発出されたことから、献血のみならず、赤十字活動全体を含めた命の大切さ等を盛り込んだ統一資材等を用いて献血セミナーを積極的に実施しました。

ウ. 大学生を対象とした対策

献血推進活動を行っている献血ボランティア組織等の協力を得て連携を図り、大学生に対して献血や血液製剤に関する理解を深め、実際に献血を体験してもらう取組を行いました。

また、学生献血ボランティアとの更なる連携を図るとともに、その組織基盤の強化にあたりました。

さらに、将来の医療の担い手となる医療系・薬学系の学生等に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行いました。

エ. 10代に対して、採血基準の改正により、男性に限り400mL全血採血が17歳から可能となることについて普及啓発活動を実施しました。

(2) 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

ア. 20歳代後半～30歳代を対象とした対策

この年代については、出産、あるいは子育てに忙しいという理由により献血者が減少しているものと考えられることから、親子で献血に触れ合える機会を設けるため、地域の特性に応じて献血ルームにキッズスペースを整備する等の受入体制の充実を図りました。

イ. 40歳～50歳代を対象とした対策

企業や団体の中心的存在であるこの年代に対して、「血液の使われ方」、「献血可能年齢」等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、社会貢献活動の一つとして、地域の実情に即した方法で企業・団体等における献血者の増加に努めました。

ウ. 60歳以上を対象とした対策

この年代は、60歳を超えたところでの献血者数の割合が急激に減少しており、その理由として定年退職することにより献血に関する情報に触れる機会が減ってしまうことや健康上の問題等が要因として考えられることから、定年退職後も引き続き積極的に献血に協力していただけるよう、情報伝達の方法を工夫するなどして献血者の増加に努めました。

献血が出来なくなった70歳以上の方についても、個人ボランティアとして献血の推進に支援いただけるよう努めました。

また、血小板成分献血について、採血基準の改正により、男性に限り69歳まで可能となったことについて普及啓発活動を実施しました。

(2) 企業・団体における献血の推進対策

献血に協賛する企業や団体を募り、社会貢献活動の一環として、企業等における献血の推進を図りました。

- ・新規協力企業及び団体の開拓
- ・献血ルームや移動献血会場への協力企業の開拓
- ・ロゴマークの活用（ロゴマーク取得促進のための専用ウェブサイトの運営、ステッカー配布など）

<平成24年度実績>

ロゴマーク配布数2,030件 協賛企業・団体数2,095件
(協賛企業・団体数は事業開始の平成18年度からの累計は49,232件、ロゴマークの配付数は9,538件となっている)

<平成25年度上半期実績>

ロゴマーク配布数741件 協賛企業・団体数1,048件

(3) 複数回献血者確保対策

複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブの充実等、重点的な啓発、施策を行いました。

また、複数回献血クラブへの加入促進、インセンティブとなる同会員を対象としたイベントの開催等を積極的に実施しました。

- ・「複数回献血クラブ」会員の募集を増強
- ・「複数回献血クラブ」会員への献血依頼及び理解促進のための情報提供を実施

<平成25年度上半期実績>

複数回献血クラブ会員数94,552人

<平成18年度から平成25年上半期までの実績>

複数回献血クラブ会員数632,917人

<献血実人数に占める複数回献血者の割合>

(平成24年4月1日～平成25年3月31日実績：32.6%)

(4) 目標量を確保するための全般的な対策

(献血受入体制への取組)

献血者が安心して献血できるように、職員の教育訓練の充実強化を図るため、全国研修会を開催

(広報活動への取組)

- ・通年「LOVE in Action プロジェクト」
- ・7月「愛の血液助け合い運動」
- ・7～12月「第8回いのちと俳句コンテスト」
- ・12月「全国学生クリスマス献血キャンペーン」
- ・1～2月「はたちの献血」キャンペーン

上記の取組を全国で展開しました。この他、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝えるための映像を制作したことから、各血液センターにおいて、講演会や、施設見学時、学校等での上映会を実施し、効果的な広報を実施しました。

(血液センターにおける献血者確保への取組)

- ・複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブ会員へ情報誌の発行や、AED講習会等を実施する他、電子メールを活用した献血依頼を実施。また、リーフレットを作成する等して、新規クラブ会員の確保を実施
- ・需要に応じた400mL献血を推進
- ・需給予測に基づき、固定施設における受付時間の延長や移動献血バスの増車による献血受入等の措置を実施
- ・新規献血協力企業・団体の開拓を行うとともに、既存協力団体の献血実施回数増加を依頼
- ・学生献血推進ボランティアと連携して、若年層献血者確保対策として大学等における献血を実施
- ・地域の特性に応じてキッズスペースを整備し、親子が献血に触れ合う機会を設け、献血者確保を実施

5 平成26年度献血受入計画の策定

(1) 当該年度に献血により受け入れる血液の目標量

各血液センターにおける平成24年度供給数の実績と平成25年度上半期の供給数を中心に、過去3年の供給動向(別紙3)等から傾向を分析し、当該年度の供給数を見込み、都道府県との協議のうえ、献血の目標量を算定しました。

(2) 前号の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

・献血受入体制の策定

各血液センターにおいては、献血の目標量を確保するため、献血種別にも配慮しながら、過去の献血実績に基づき、施設別(献血ルーム、献血バス、出張採血)の月別、週別、日別の献血受入体制を策定しています。

これらをもって、都道府県と献血受入計画等を協議し、基礎となる年間の献血バスの配車計画等を定めています。

各ブロック別血液確保量等一覧（平成25年4～12月）

単位:L

ブロック	都道府県	血液確保量				血液使用量			献血者使用量		
		受入計画量	献血量	計画達成率	供給量	原料血漿送付量	計	血液利用率	未使用量	未使用率	
		A	B	B-A	B/A	C	C/B	D=B-C	D/B		
北海道	北海道	79,050	78,609	△ 441	99.4%	43,097	30,088				
	ブロック計	79,050	78,609	△ 441	99.4%	43,097	30,088	73,185	93.1%	5,424	6.9%
東北	青森	15,725	15,685	△ 40	99.7%	7,453	52,954				
	岩手	14,637	14,110	△ 527	96.4%	6,909					
	宮城	26,547	26,872	325	101.2%	11,819					
	秋田	13,802	14,376	573	104.2%	6,142					
	山形	12,840	13,167	327	102.5%	5,547					
	福島	23,510	26,104	2,594	111.0%	11,718					
ブロック計	107,061	110,314	3,253	103.0%	49,588	52,954	102,542	93.0%	7,772	7.0%	
関東甲信越	茨城	31,293	29,247	△ 2,046	93.5%	12,996	273,711				
	栃木	23,486	23,706	220	100.9%	10,334					
	群馬	24,935	24,738	△ 197	99.2%	12,326					
	埼玉	73,308	70,144	△ 3,164	95.7%	30,845					
	千葉	70,382	69,865	△ 517	99.3%	32,342					
	東京	179,419	172,335	△ 7,084	96.1%	88,916					
	神奈川	96,251	90,306	△ 5,946	93.8%	43,739					
	新潟	27,683	29,006	1,323	104.8%	11,464					
	山梨	10,094	10,800	705	107.0%	4,210					
	長野	22,308	22,613	305	101.4%	10,269					
ブロック計	559,159	542,758	△ 16,401	97.1%	257,441	273,711	531,152	97.9%	11,606	2.1%	
東海北陸	富山	11,740	12,117	377	103.2%	4,996	101,232				
	石川	14,324	14,237	△ 86	99.4%	6,347					
	福井	10,385	10,382	△ 3	100.0%	4,925					
	岐阜	21,759	21,761	2	100.0%	11,409					
	静岡	40,001	39,608	△ 392	99.0%	17,856					
	愛知	87,467	84,985	△ 2,482	97.2%	37,384					
	三重	18,389	18,266	△ 122	99.3%	7,715					
ブロック計	204,064	201,356	△ 2,708	98.7%	90,632	101,232	191,863	95.3%	9,492	4.7%	
近畿	滋賀	14,026	14,011	△ 15	99.9%	7,605	115,805				
	京都	34,184	34,363	179	100.5%	18,291					
	大阪	120,849	116,704	△ 4,145	96.6%	60,864					
	兵庫	61,695	63,921	2,226	103.6%	29,124					
	奈良	16,380	15,616	△ 764	95.3%	8,756					
	和歌山	13,847	13,164	△ 683	95.1%	6,077					
ブロック計	260,981	257,780	△ 3,202	98.8%	130,717	115,805	246,522	95.6%	11,257	4.4%	
中四国	鳥取	7,198	6,993	△ 205	97.2%	3,607	64,316				
	島根	6,892	7,465	573	108.3%	3,416					
	岡山	25,559	26,574	1,016	104.0%	13,228					
	広島	37,280	36,776	△ 503	98.7%	18,180					
	山口	17,369	17,151	△ 218	98.7%	8,637					
	徳島	8,949	9,431	482	105.4%	4,021					
	香川	11,698	11,430	△ 268	97.7%	5,564					
	愛媛	16,317	15,673	△ 644	96.1%	8,091					
	高知	10,002	9,865	△ 137	98.6%	5,054					
	ブロック計	141,263	141,358	95	100.1%	69,798					
九州	福岡	66,017	64,666	△ 1,351	98.0%	30,796	81,978				
	佐賀	11,144	10,728	△ 415	96.3%	3,435					
	長崎	18,391	17,878	△ 512	97.2%	8,583					
	熊本	23,216	23,395	180	100.8%	10,746					
	大分	15,368	14,200	△ 1,169	92.4%	7,569					
	宮崎	15,230	13,572	△ 1,658	89.1%	7,230					
	鹿児島	20,081	20,418	337	101.7%	9,606					
沖縄	19,613	17,122	△ 2,491	87.3%	8,676						
ブロック計	189,058	181,979	△ 7,079	96.3%	86,641	81,978	168,619	92.7%	13,360	7.3%	
合計		1,540,635	1,514,153	△ 26,482	98.3%	727,913	720,084	1,447,997	95.6%	66,156	4.4%

※受入計画量は、平成25年度受入計画を3/4したものの。

献血者の確保対策

血液事業本部では、献血者の確保に関する基本的対策について、国の基本方針及び献血推進計画に呼応した献血者確保対策を基本とし、各血液センターへ指示しています。

血液センターでは、血液事業本部の指示による献血者確保対策を基本としながらも、それぞれの地域事情を反映した「都道府県献血推進計画」と連携した献血者確保の取組を計画しています。

一年を通して安定供給を維持するためには、地道な日々の取組の積み重ねによる献血者の確保によるところが大きいです。また、不足が予測される場合には早めの対応が重要です。各血液センターで実施されている各種取組は、これまで過去に行ってきた取組の中でも効果的なものが継続的に実施されています。

平成25年度の赤血球製剤の在庫推移は、別紙4のとおりです。

平成26年度の各血液センターにおける献血者の確保対策については、別紙5のとおり血液事業本部が示した基本となる確保対策項目に、各血液センター自らが数値目標を設定し、具体的取組の進捗状況の評価することとしています。

なお、血液事業本部においては、各地の情報を収集し、全国会議等において各地の取組事例を紹介する機会を設け、また、各地の取組を月間情報として配布する等、献血者確保のための情報共有を図っています。

(3) その他献血の受入れに関する重要事項

血液事業本部では、国の基本方針及び献血推進計画に基づき、日本赤十字社として、これら方針及び計画に沿った献血の受入れに関する重要事項について、計画しています。

平成25年4~12月各都道府県別献血者数一覧

単位:人

Table showing the number of donors by prefecture and age group. Columns include prefecture name, age groups (16-19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60-69), and total counts. Rows list all 47 prefectures and a total row at the bottom.

Table showing inventory status of blood products by center. Columns include center name, product type, and inventory counts. Rows list various centers across different regions and a national total at the bottom.

Summary table for national blood product inventory, including regional breakdowns and national totals for various products.

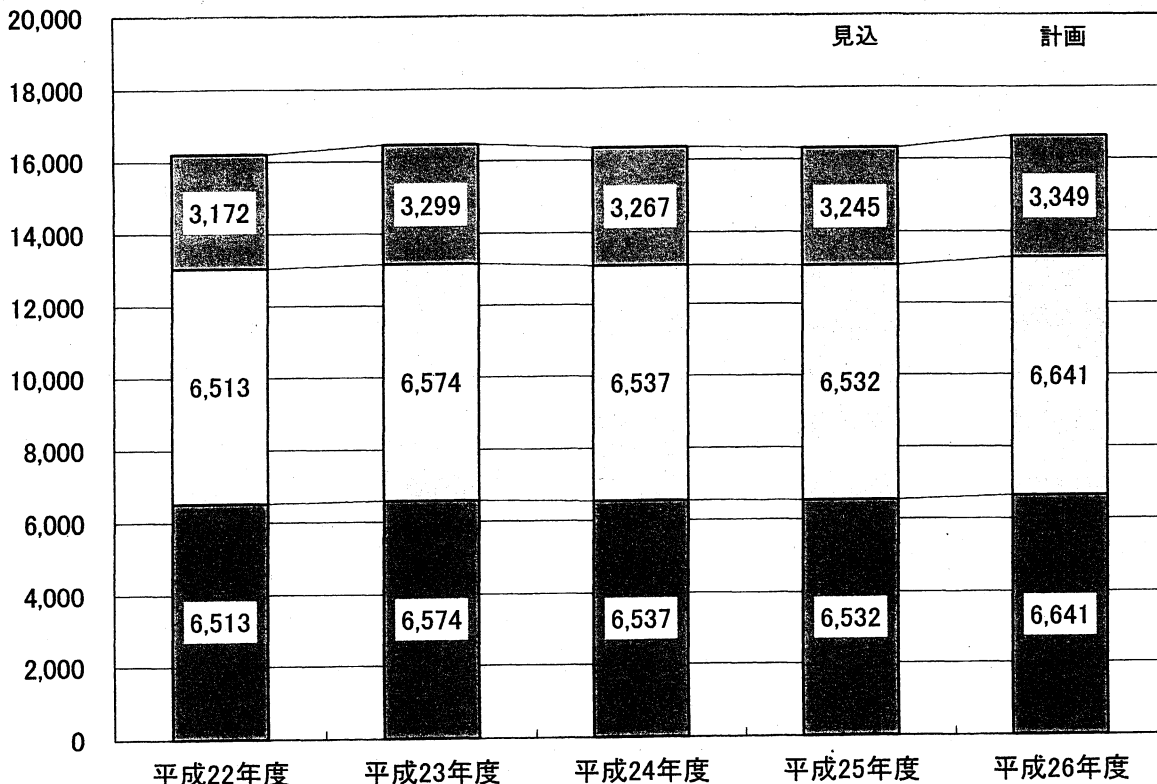
全国の赤血球の在庫状況(平成25年度)

2014/2/14 金 ブロック名	RCCLR+照射RCCLR (換算数)						上段: RCCLR1 中段: RCCLR2 下段: RCCLR (換算数)					上段: IR-RCCLR1 中段: IR-RCCLR2 下段: 照射RCCLR (換算数)				
	上段: 適正在庫 中段: 実在庫 下段: 過不足数・対過不足率						過不足率									
	A	O	B	AB	計		A	O	B	AB	計	A	O	B	AB	計
北海道ブロック	1,570	1,370	1,010	550	4,500		16	14	6	7	43	322	169	196	108	79
4,500	2,666	2,053	1,674	943	7,336	163%	274	184	152	79	689	890	751	584	335	2,56
	1,096	683	664	393	2,836		564	382	310	165	1,421	2,102	1,671	1,364	778	5,91
	170%	150%	166%	171%	**											
東北ブロック	1,765	1,665	1,120	475	5,025		1	0	0	1	2	164	143	127	46	48
5,025	2,385	2,231	1,675	625	6,916	138%	19	5	14	7	45	1,091	1,039	760	282	3,17
	620	566	555	150	1,891		39	10	28	15	92	2,346	2,221	1,647	610	6,82
	135%	134%	150%	132%	**											
関東甲信越ブロック	7,915	6,630	4,650	2,250	21,445		127	128	105	82	442	597	459	381	203	1,64
21,445	9,654	7,061	6,080	3,673	26,468	123%	1,203	874	755	477	3,309	3,262	2,363	2,042	1,217	8,88
	1,739	431	1,430	1,423	5,023		2,533	1,876	1,615	1,036	7,060	7,121	5,185	4,465	2,637	19,40
	122%	107%	131%	163%	**											
東海北陸ブロック	3,287	2,663	1,875	834	8,659		19	17	18	12	66	214	217	124	84	63
8,659	4,609	3,828	2,688	1,428	12,553	145%	235	251	185	97	768	1,953	1,546	1,088	569	5,15
	1,322	1,165	813	594	3,894		489	519	388	206	1,602	4,120	3,309	2,300	1,222	10,95
	140%	144%	143%	171%	**											
近畿ブロック	4,315	3,365	2,315	1,225	11,220		21	11	14	12	58	172	110	100	60	44
11,220	4,937	3,663	3,248	1,438	13,286	118%	108	79	110	51	348	2,264	1,692	1,457	632	6,04
	622	298	933	213	2,066		237	169	234	114	754	4,700	3,494	3,014	1,324	12,53
	114%	109%	140%	117%	**											
中四国ブロック	2,660	1,930	1,320	690	6,600		3	5	3	2	13	20	44	13	22	9
6,600	3,037	2,285	2,194	964	8,480	128%	78	51	51	31	211	1,429	1,067	1,038	439	3,97
	377	355	874	274	1,880		159	107	105	64	435	2,878	2,178	2,089	900	8,04
	114%	118%	166%	140%	**											
九州ブロック	3,175	2,385	1,615	825	8,000		4	5	4	4	17	71	53	44	25	19
8,000	4,721	3,232	2,466	1,249	11,668	146%	147	137	94	34	412	2,176	1,450	1,115	576	5,31
	1,546	847	851	424	3,668		298	279	192	72	841	4,423	2,953	2,274	1,177	10,82
	149%	136%	153%	151%	**											
合計	24,687	20,008	13,905	6,849	65,449		191	180	150	120	641	1,560	1,195	985	548	4,28
65,449	32,009	24,353	20,025	10,320	86,707	132%	2,064	1,581	1,361	776	5,782	13,065	9,908	8,084	4,050	35,10
	7,322	4,345	6,120	3,471	21,258		4,319	3,342	2,872	1,672	12,205	27,690	21,011	17,153	8,648	74,50
	130%	122%	144%	151%	**											

200mL換算
(千単位)

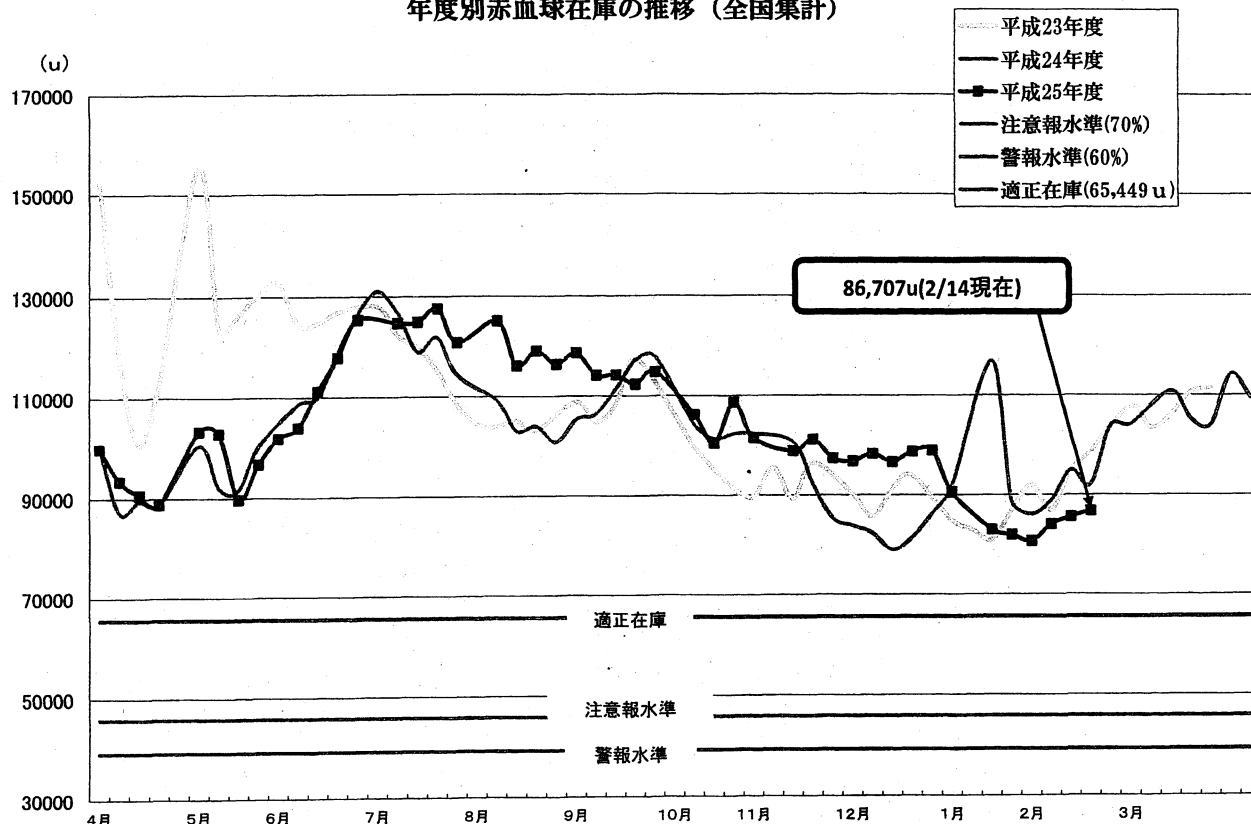
供給動向と供給見込み

(別紙3)



※全血製剤の供給は少量のため、グラフ上に表示されません。

年度別赤血球在庫の推移 (全国集計)



-26-

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

北海道赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血実績H23 17,613人 H24 17,645人 H26 18,000人(目標値) 18,000÷207,896=8.7% (16歳以上人口)	ティーンズドナー献血推進キャンペーン	継続	16歳~19歳	11月	1	全道献血受入施設	北海道との共同事業で、若年層に高確取率を誇るラジオ番組とタイアップし、ラジオCM及びパーソナリティーがリスナーに対し献血を呼び掛ける。
20代の献血者及び献血率の目標値 献血実績H23 50,568人 H24 50,887人 H26 50,900人(目標値) 50,900÷532,000=9.6% (20歳以上人口)	学生献血推進協議会会議	継続	道内各学生ボランティア	4・8・1月	3	北海道センター	クリスマス献血キャンペーン及びサマー献血キャンペーンの報告会や反省会と併せて血液事業の現状や血液製剤の知識等を養ってもらおう。
	サマー献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	7月	1	札幌、室蘭、旭川、釧路、函館の各街頭	学生献血ボランティアがイベント等の催しを企画し、若年層に対する献血推進活動を行う。
	クリスマス献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	12月	1	札幌、室蘭、旭川、釧路、函館の各街頭	学生献血ボランティアがイベント等の催しを企画し、若年層に対する献血推進活動を行う。
	献血協力団体担当者研修会	継続	大学生	7月・12月・2月	3	札幌市	成分献血に協力している大学サークルの担当学生を対象に献血セミナーを行う。
その他の目標値	献血推進講演会	継続	高校・看護学校	通年	3	山の宇高校、武修館高校、医療センター西看護学校	学校長はじめ教員の理解のもと、1時間程度の献血推進講演を行う。

-27-

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
5回	ライオンズクラブ研修会	継続	ライオンズクラブ会員	通年	5	ライオンズクラブ例会場	ライオンズクラブ会員を対象に講演を行い、血液事業の現状を理解いただいた上で、さらなる献血推進をお願いする。
新規登録48件	献血サポーター募集	継続	各事業所	通年	-	各事業所	献血協力企業に対して、より一層献血への意識を高めてもらうために、移動採血実施の際に「献血サポーター」への登録を呼びかけていく。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 ①複数回献血クラブ会員数を6,000人アップする。	①複数回献血クラブの運営	継続	一般の献血者	通年			クラブ案内チラシや非接触型携帯サイト接続ユニット等を有効活用し、積極的に新規会員を募集する。

②新規献血者再来率を20%とする。	②新規献血者に対する再来依頼	継続	新規献血者	適年	新規献血者に対し、ハガキによる要請を行うことにより、再来率の向上を目指す。
-------------------	----------------	----	-------	----	---------------------------------------

(別紙資料5)

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

青森県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 4,200人 7.4%	若年層献血者確保対策	継続	県内の大学生	5・6・7・11・12・1月	6	青森県庁	平成25年10月現在で青森県学生献血推進委員会の参加校7大学による連絡会となっている。年6回連絡会を開催し、献血の勉強会やキャンペーン等の企画を立案して、同年代の献血者の確保につなげる。
	若年層献血者確保対策	継続	各大学・短期大学学生	4～3月	延べ40	各大学・短期大学	各大学・短期大学等の学校献血や学園祭献血において、学生献血推進委員会の学生ボランティアが中心となり、同世代へ献血の呼びかけをする。学園祭のパンフレットに広告(有料)を掲載して、推進に努める。(平成25年4月1日現在19校中、16校実施予定)
	若年層献血者確保対策	継続	10・20代の買い物客	1月	1	サンロード青森	はたちの献血キャンペーンの一環として、FM青森とタイアップイベントを開催する。献血バスを配車し、10・20代の若年層に献血の呼びかけをする。
	若年層献血者確保対策	継続	高校生	4～3月	延べ45	献血未実施高校	献血未実施高校を訪問し、献血協力や献血セミナーの実施を依頼する。(献血実施校:平成25年4月1日現在82校中、42校実施予定)
20代の献血者及び献血率の目標値 10,000人 17.6%	若年層献血者確保対策	継続	県内の大学生	5・6・7・11・12・1月	6	青森県庁	上記内容と同様
	若年層献血者確保対策	継続	各大学・短期大学学生	4～3月	延べ40	各大学・短期大学	上記内容と同様
	若年層献血者確保対策	継続	10・20代の買い物客	1月	1	サンロード青森	上記内容と同様
	若年層献血者確保対策	継続	自衛隊員	1月	3	陸上自衛隊	陸上自衛隊の成人式開演時(3会場)に献血バスを配車し、新成人を中心とした若年層の献血者確保に努める。
	若年層献血者確保対策	継続	薬学部及び医学部学生	4～3月	30	薬剤師会館及び弘前ルーム	医療を目指す学生に対して、献血セミナーを実施し、献血の重要性や必要性を説明し、率先して献血に協力してもらおう。(平成25年度は9回の実施で100人参加予定)
6,000人に依頼し9.0%以上の応募率(540人以上)	若年層献血者確保対策	継続	10・20代	9～10月	1	各献血会場	18～29歳の献血依頼対象者に封書依頼し、期間中、引換券を持参して献血した方に記念品を差し上げる。(平成25年度は6,000通発送し、515人の応募、8.6%の応募率)

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
25社以上の新規開拓	献血協力団体増加対策	継続	献血未実施事業所	4～3月	随時	各事業所	市町村担当者から、未実施事業所の情報提供をもらい、担当者と一緒に事業所を訪問し、血液事業の現状等を説明して新規事業所の開拓に努める。
延べ500以上の訪問	献血協力団体増加対策	継続	献血実施事業所	4～3月	随時	各事業所	献血実施予定の事業所に対して、市町村担当者と一緒に事前に訪問し、血液の在庫状況やキャンペーン等のお知らせをして献血者の確保に努める。訪問した際には、従業員数などの情報を確認し、配布計画の参考にす。また、周辺事業所にも訪問して、確保に努める。

青森県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
500人以上の新規入会 (平成25年度実会員予測数の10%増)	複数回献血クラブ 会員確保対策	継続	全献血者	4~3月	随時	献血会場	複数回献血クラブ会員の入会特権として、献血時にリフレクソロジー、整体マッサージ(併せて210実施)を受けられることを周知し、入会者を募る。封書で献血依頼する際には、複数回献血クラブ会員募集のパンフレットを同封して入会を募る。平成25年度は450人の入会で実会員数5,000人を目指す。
3,000人以上の応募者	複数回献血クラブ 会員確保対策	継続	複数回クラブ会員	4~3月	随時	献血会場	随時、複数回献血クラブ会員の献血可能者に依頼メールを送信する。また、月1回、誕生日の方に依頼をする。会員全員に当センターのイベント等の情報を送信する。(年間20,000通の送信で応募率15%以上を目指す。)
250人以上を複数回クラブに移行	複数回献血クラブ 会員確保対策	新規	一般メールアドレス保持登録者	4~3月	随時	献血会場	一般メールアドレス保持登録者に対して封書で複数回献血クラブに移行の依頼をする。(平成25年10月末現在で2,422人、10%以上移行を目標とする。)

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
6,000人に依頼し15%以上の応募率(900人以上)	年齢層献血者確保	継続	30~49歳	6月	1	献血会場	30~49歳の献血依頼対象者に封書依頼し、引換券を持参し献血した方に記念品を差し上げる。(平成25年度は、6,761人に依頼し、882人で13.0%の応募率)
6,000人に依頼し15%以上の応募率(900人以上)	年齢層献血者確保	継続	50~69歳	10月	1	献血会場	50~69歳の献血依頼対象者に封書依頼し、引換券を持参し献血した方に記念品を差し上げる。(平成25年度は、6,526人に依頼し、877人で13.4%の応募率)
400mL献血年1回協力者の20%以上を見込む	複数回献血協力者 確保対策	新規	全献血者	4~3月	12回	献血会場	男女の400mL献血年1回の協力者に2回目の献血依頼を封書です。(平成24年度は年1回協力者24,721人)
400mL献血年2回協力者の5%以上を見込む	複数回献血協力者 確保対策	新規	全献血者	4~3月	12回	献血会場	男性の400mL献血年2回の協力者に3回目の献血依頼を封書です。(平成24年度は年2回協力者3,757人)

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

岩手県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 前年対比200人の増加	学内献血の実施	継続	学内の学生・職員	通年	140	高等学校・専門学校・大学	県・市町村担当者と県内全高校を訪問し、高校生の協力と400mL献血の協力を要請する。
	学生献血推進 キャンペーン	継続	学内の学生・職員	11~3月	20	専門学校・大学	200mL献血出来た方に1個、400mL献血出来た方に2個、学生に人気の食品を差し上げる。
	キッチンカーまたは 学食とのコラボ献血	新規	学内の学生・職員	通年	20	専門学校・大学	献血者にキッチンカーによる食品または学食の食券を提供し、400mL献血の推進と献血の重要性をアピールする。
	学内献血セミナー	継続	学内の学生	通年	5	高等学校・専門学校・大学	各校に Outreach、献血の啓発(講話、DVD視聴)を行う。
20代の献血者及び献血率の目標値 前年対比200人の増加	ラジオCM	新規	主に若年層	冬季	50本		県出身のアーティストから県民(主に若年層)に対し献血への協力を呼び掛ける。
	東北学生 夏の献血イベント	継続	主に若年層	7~8月	2	大型ショッピングセンター	学生ボランティアによる街頭での献血の呼び掛けを行なう。
その他の目標値	ハートフルコンサート	継続	一般・献血者	1月	1	大型ショッピングセンター	集客の多いショッピングセンターで高校のプラスバンド部または合唱部による献血推進イベントの実施。地元ラジオ局とタイアップし公開録音を行い後日、放送する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規協力団体の募集18団体	新規協力団体の発掘	継続	県内の企業・団体	通年			県内の全6ブロックの各ブロックから、新規団体を3つ以上発掘する。

岩手県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 3,000人	複数回クラブ チラシ作戦	継続	全血献血者	4~3月	通年	全献血会場	複数回献血クラブ未加入者(特に400mL献血可能の方)にチラシを用いて勧誘する。
	複数回クラブ 推進事業	継続	全血献血者	4~3月	通年	献血ルーム	デジタルフォトフレームを使用して随時PRし、接遇時、複数回献血クラブに勧誘する。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
1会場200mL換算100本	クリスマス献血 キャンペーン	継続		12月初旬~25日	15		各種ボランティア団体による街頭での献血呼びかけ。
1会場200mL換算100本	バレンタイン献血 キャンペーン	継続		2月初旬~14日	10		各種ボランティア団体による街頭での献血呼びかけ。
50万枚	新聞折込チラシ	継続	新聞購読者	通年	300		県内一番購読者の多い新聞社に献血チラシを折り込むことにより新規献血者の確保に努める。
200/400mL比、90%	もう1回献血 キャンペーン	継続	全血献血者	通年			献血後、1年以内にもう一度400mL献血した献血者に粗品を差し上げる。
	ラジオによる 献血会場告知等	継続	県民	通年	300		平日の朝、当日の献血会場の告知。献血ルームメッセージボードの紹介。等々
全血200mL換算100本	盛岡大通り 献血イベント	新規		4~10月	1	盛岡大通り歩行者天国 および献血ルーム	歩行者天国に採血バスを設置し、献血ルームと合同で献血イベントを行う。(大通りの各種イベントと同時開催を考慮)
前年比3%増	献血ルーム 3周年記念イベント	新規		4月		献血ルーム	盛岡大通り献血ルームメルシーの3周年を記念して献血イベントを行う。

(別紙資料5)

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

宮城県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値: 全体構成比の8%	県内学生向けセミナー	平成25年度から継続 ※平成25年度は計9回実施予定。	県内高等学校、小学校等	年度内 ※募集時期は、学校年間行事の計画策定期間である平成25年度内に実施する。	15	県内小・中・高等学校等	主に県内の高校生を対象とし、献血に関する理解を深め、若年層の献血者確保を目的とした出張講座。学校教育の一環としての有効活用も目的とし、学校献血の実施に繋げる。 募集については、学校内掲示用のポスターを作成し、県内学校長あて実施にかかる依頼文書とともに発送。 なお、参加者には記念品を準備して配付する。 平成25年度は15回実施を目指す。
20代の献血者及び献血率の目標値: 全体構成比の23%	若年層献血者確保用看板の設置	平成25年度から継続	20代中心	年間	1	仙台駅連絡通路	一日に約50,000人が通行する仙台駅東側連絡通路に、主に20代を対象とした若年層へ献血の必要性を訴える内容と、AER献血ルームと一宮町献血ルームへの案内を入れた大型ボード(W800×h1600)を設置し、献血者確保に繋げる。
	若年層献血者確保用看板の設置	平成25年度から継続	20代中心	年間	1	広瀬通り地下鉄駅構内	若者の往来が多い地下鉄駅構内に、主に20代を対象とした若年層へ献血の必要性を訴える内容とAOBA献血ルームへの案内を入れた大型ボード(W800×h1600)を設置し、献血者確保に繋げる。
	出張セミナー	新規	20代中心	1月	2日間(4回)	大型ショッピングセンターイオン(イオンホール)	はたちの献血キャンペーンの一環として、地方の大型ショッピングセンターを会場に献血啓発セミナーを実施し、献血も併せて実施する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
50事業所	新規献血協力企業の開拓	継続	県内	年度	50	県内	新規事業所募集のポスターを作成し、保健所及び市町村へ配付するほか、保健所、市町村担当者とともに新規事業所を訪問する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値:4,000名/年 (複数回献血クラブ新規会員獲得)	入会促進キャンペーン	新規	献血者	4月1日～5月31日	1	全献血会場	全国一斉キャンペーン。新規入会手続き者へ全国統一の記念品を配付し、新規会員を獲得する。
	入会促進強化継続	新規	献血者	6月1日～7月31日	1	全献血会場	新規入会手続き者へ記念品を配付し、新規会員を獲得する。
	若年層会員強化	新規	献血者	9月1日～11月30日	1	献血会場(大学・各種学校他)	専任者が献血会場へ向かい、特に若年層の新規会員を獲得する。
	複数回献血者確保事業	新規	複数回献血クラブ会	10月	1	血液センター	クラブ会員の特典として、会員限定で施設見学会等を行う。
その他の目標値:200回/年 (複数回献血クラブメール配信件数)	献血会場案内配信	継続	複数回献血クラブ会	通年	192	メール配信	会員居住地での献血日程をメールで案内し、複数回献血者を増加させる。
	各種情報配信	継続	複数回献血クラブ会	不定期	8	メール配信	クラブ会員の特典として、会員限定で各種情報を配信する。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名1	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 9.4% 4,600人	献血講話	継続	高校生	通年	10	県内各高校	秋田県の献血について高校生に解りやすく説明し献血についての理解を深め身近に感じてもらう事を目的に実施
	高校生に対する表彰	継続	高校生	通年(2～3月に表彰)	1	県内各高校	高校生を対象に在学中献血回数5P(200mL:1P、400mL:2P、成分献血:2P)達成者に表彰状と記念品を贈呈する。
20代の献血者及び献血率の目標値 13.6% 6,660人	献血講話	継続	警察学校生及び消防学校生等	7月、1月	2	秋田県警察学校及び秋田県消防学校	秋田県の献血の現状や血液の必要性を解りやすく説明し献血についての理解を深め定期的に献血に協力頂く事を目的に実施
	秋田県学生献血推進協議会代表委員会	継続	加盟校会員	4月、10月	2	研修施設	少子高齢化が進む秋田県において学生が主となり献血への理解と必要性を同世代へ伝える事を目的に実施
	GAKUKEN	継続	学生	通年	50	国公立大学、私立大学、大	学生献血を実施する際、学生推進協議会のメンバーを主体として、事前の呼掛けや当日の動員等を行い若年層の献血者増加に繋げる。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
対前年比1000人増	400mL献血推進強化(DM発送)	継続	前回400mL献血者	通年		県内献血左右巡回先	事業所献血を実施する際、前回400献血をしてくれた方へ継続した献血をお願いするため、ハガキに秋田県内の献血状況に記載し、献血協力をお願いする。2万枚発送→応募率18%→3600人確保
	ライオンズクラブジョイント献血	継続	ライオンズクラブ関係者	6月、11月、12月	3	北秋田市、由利本荘市、大仙市	ライオンズクラブの皆さんが主体となって、献血協力事業所に献血者を動員し献血者の増加に繋げる。
	秋田県生命保険協会献血	継続	従業員	通年		各生命保険会社	生命保険協会の代表者が献血啓発の窓口となり25年度の秋田県総献血者協力者数の1%(約500人)を確保する。
	建設業献血	継続	従業員	5月、7月、9月、10月	4	建設会社	献血に協力頂いている建設会社へ下預け等の関連会社から献血者を動員し協力者を確保する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 年2回以上の実献血者数: 11000名	複数回献血者確保イベント	継続	既献血者	通年	20	各固定施設	固定施設において、全血献血、成分献血に協力して頂いている方へ年2回以上の献血をお願いし複数回献血者数を増加させる。
	献血CALL	継続	既献血者	通年		各固定施設	特に成分献血者で固定施設に来場している方へ、電話により積極的に献血を進め協力を繋げていく。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
実献血者の増加 3000万人	実献血者数増加対策	新規	県民	上半期	6	各大学	献血者数の増加は、献血者数の減少に歯止めがかからないことから、入学期を狙い初回献血者等の献血に力をいれいるとともに、県民への献血呼びかけをホームページ等で呼び掛ける。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値	献血セミナー	継続	中学生	6月～3月上旬	10回	中学校	各保健所献血推進員が学校を訪問し日程を調整。献血セミナーは血液センター職員が行い、献血への理解と協力をお願いする。
平成24年度 4,990名→10%増の5,500名を目標とする	施設見学	継続	中学生・高校生	7月または10月	2回	東北ブロック血液センター	今年で4年目となり、養護教諭からも好評であることから、継続事業としてブロックセンターと連携を図りながら実施する。
20代の献血者及び献血率の目標値	学生ボランティア打合せ会	継続	学生ボランティア	4月・6月・10月 12月・1月	5回	所内	サマーキャンペーン及びクリスマスキャンペーンの実施内容等について、意見交換や事前準備等を行う。
平成24年度 8,609名→17%増の10,000名を目標とする	献血セミナー	継続	大学生	11月	2回	学校内	学生ボランティアを有する学校での、学生主催による献血セミナーを実施。
	はたちの献血	継続	20代を中心とした年齢層	1月～2月		各献血会場	若年層を中心に地元プロスポーツチームとの献血キャンペーン等の実施する。
その他の目標値	新成人へのチラシ配付	継続	新成人への献血チラシ配付	1月		山形市	成人式に新成人に配布される資材へ、献血資料(Walker等)を入れ、新成人へのPRを行う。
	献血セミナー	新規	高校生(1年生)	依頼があれば月に関係なく実施		県内高等学校	400mL献血推進を図るため、高校1年生を対象とした献血セミナー。希望校があれば、スライドやDVD等で実施。また、時間が少なければ口頭にて実施する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
ライオンズクラブ332-E地区 アクティビティ1万人献血	ライオンズクラブ研究会の開催	継続	ライオンズクラブ	10月～11月	1回	150名規模の会場	LC332-E地区58クラブ会員の献血に関する役職より参加してもらい、ガバナーより献血の目標を掲げてもらい1年間のアクティビティとする。
5クラブ以上の実施を目標とする	各ライオンズクラブ例会での出前講座	継続	各ライオンズクラブ	依頼があれば月に関係なく実施	5回	例会会場等	研究会とは別に、各地区での例会にゲストスピーカーとして参加しスライド等で献血の重要性を説明する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 平成24年度 総献血者数 46,136名 年内1回の献血者 22,056名 2回以上 24,080名 年1回の献血者の内18%が年間2回の献血を実施することにより、50,000人の献血者が確保できる。	健康相談	継続	学生	平成26年10月1日～平成27年1月30日	20	県内高等学校 短期大学・大学	栄養士が献血者の食事、生活面について指導し、献血者の健康を増進させ、再度献血に協力をいただくよう促すことにより、献血者数の増加を計る。
	複数回クラブ会員への依頼メール配信	継続	複数回クラブ会員	随時			複数回献血クラブ登録者に対し、献血依頼メールを送信。献血ルームのキャンペーン時や、献血バスの運行時に付近に住んでいる会員に対して行う。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
集客150名	献血ふれ愛キャンペーン	継続	一般・献血者	10月～11月	1回	大手ショッピングモール	県内幅広い年代に「献血」を知ってもらう事を目的に、マスメディアを活用し、イベントを行う。また、冬前に実施することで血液の確保に努める。
昨年同実績1割増	学生サマーキャンペーン	継続	学生ボランティア	8月	4～5会場	ショッピングセンター他	東北6県合同企画として、2007年より実施。夏、特に8月が不足することから、若者より呼びかけてもらい献血協力を仰ぐ。
昨年同実績1割増	学生クリスマス献血キャンペーン	継続	学生ボランティア	12月	4～5会場	ショッピングセンター他	冬期間の血液不足解消のため、12月各会場で実施。
70名の採血+継続的な協力	プロチーム合同献血	継続	一般・献血者	7月・9月	2回	サッカースタジアム	地元プロサッカーチームとタイアップを行いキックオフ前に献血を実施。また、選手による献血呼びかけや啓発活動を行ってもらう。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.4%	献血！私たちからはじめよう	継続	大学生・専門学校生	8月・1～3月	5	福島市・郡山市・いわき市	企画の段階から学生が主体となる参加型のイベントを開催
20代の献血者及び献血率の目標値 8.4%	献血！私たちからはじめよう	継続	大学生・専門学校生	8月・1～3月	5	福島市・郡山市・いわき市	企画の段階から学生が主体となる参加型のイベントを開催
その他の目標値		継続	一般事業所および	通年			10社(団体)獲得

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
1稼働平均2単位増加	事前企業訪問の実施強化	継続	企業および団体	通年	月間10回程度の訪問	県内企業	県・市町村担当者と移動採血車の運行計画に基づき事前事前企業訪問を計画的に実施強化する
新規事業所10社	新規献血協力事業所(団体)獲得	継続	企業および団体	通年	10回	県内企業	県・市町村担当者と連携を図り、新規献血協力事業所を獲得する
10社	献血サポーター獲得	継続	企業および団体	通年	10回	県内企業	県・市町村担当者と連携を図り、新規献血サポーターを獲得する

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 1,000名	複数回献血クラブ登録強化	継続	複数回献血クラブ未登録者	通年	年12回程度		街頭献血やイベント開催時の登録勧誘、献血サポーター参加企業への登録促進、会員を対象とした講演会の実施。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

茨城県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
※10代の献血者及び献血者の 目標値 8,530名 平成25年度の目標を上記の 8,530名を設定したが、平成24 年度実績7,953名あったことか ら平成25年度の目標と同様の 8,530名確保目標とする。	茨城赤十字キッズタウン	新規	小学生	5月	1回	イオンモール水戸内原	小学生が日赤職員に扮し災害救援、血液事業、医療、社会福祉の各赤十字事業を楽しみながら体験し、親子で一緒に赤十字への理解を深めて貰う。 体験ブース、PRブース、赤十字車両の乗車や献血を実施する。
※20代の献血者及び献血者の 目標値 18,470人 平成25年度の目標を上記の 18,470名を設定したが、平成24 年度実績16,237名あったことか ら平成25年度の目標と同様の 18,470名確保目標とする。	つくば地域の活性化	新規	大学生等	通年	-	筑波大学及び周辺大学等	筑波大学等の運動部、文化系サークル、芸術系サークル等を定期的に訪問し献血の必要性を訴え、協力を依頼する。 つくば献血ルームへ誘導するカードを作成し配布する。 協力者に親書を配布する。
	若年層対策	継続	高校生・大学生等	通年	-	各高等学校、大学、献血ルーム	高校献血推進 実施目標数:75校 平成24年度管内実施校67校、12%アップの75校を目標とする。 方策として、献血未実施高校に Outreach 積極的に献血セミナーを実施し、献血実施の併せた依頼する。 高校献血キャンペーン(県実施事業) 確保目標数:6,000名 平成24年度高校生の献血者は5,505名であった。確保目標を昨年度同様6,000名を目標とする。 方策として、県がキャンペーンのポスター等を募集し、優秀作品には賞状(血液センター所長賞状)を贈る。また、最優秀作品のチラシを作成し県と全ての高校に啓発する。 400mL献血推進 確保目標数:1,650名(他学域を含めると3,000名を目標とする) 平成24年度400mL献血者1,393名であったことから、18%増の1,650名確保目標とする。 方策として、採血基準変更に伴う資料等で400mL献血の安全性を説明し400mL献血者に対して記念品を配布する。
	献血セミナー	継続	高校生	通年	25回	高等学校	確保目標数:25回 平成24年度は10回で献血セミナーを実施し、平成25年度は上期で10回実施、下期7回を予定しているため、平成26年度は25回を目標とする。 方策として、ボランティア講師が Outreach セミナーを実施し、献血へ実施目標数:800名 方策として、新たに成人を迎える「新成人」の学生を中心に献血の啓発をする。市町村の成人式会場や各大学等で新成人(県内約3万人)チラシ等を配布し呼びかける。また、新成人並びに新成人(学生)グループに記念品(生薑200名)を配布する。
	はたちの献血キャンペーン	継続	新成人及び大学・専門学校生	11月~2月	-	全会場	確保目標数:11,736名 平成24年度の高校生:5,505名、大学生等:5,231名で約10%増の名を11,736名を目標とする。 方策として、アニメキャラクターの「ガールズアンドハンツァー」を使用し、県内の学域献血カードを配布、次回献血ルームや街頭献血へ誘導し、協力者に「ガールズアンドハンツァー」のオリジナルグッズを進呈する。
	クリスマス献血キャンペーン	継続	大学生	12月	1回	献血会場・献血ルーム	平成24年度期間中の献血者は686名であった。平成26年度は750名を目標とする。 3ルーム1日4人増×3日間=36名、移動採血1日8名増×3日間=24名 方策として、県内の学生ボランティアが同世代の若者に献血への呼びかけを実施し、献血者を確保する。また、大学のサークル

イ. 企業等における献血の推進対策

茨城県赤十字血液センター

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
季節変動による採血数の変化を年間を通して平準化を図る	採血数の平準化	新規	事業所及び団体	計画時	-	-	行政に配管計画を依頼する前に、推進担当者や協議し事業所、団体等の変更を図る。 事業所、団体へ実施時期や変更等が可能なアンケートを実施する。 献血未実施事業所、団体等に社会貢献事業の一環として献血月間に取組みを依頼する。
目標数 28 平成24年度新規事業所は24件であり、その20%アップして28事業所の確保を行う。	新規献血事業所の開拓	継続	新規事業所及び団体	通年	-	各事業所	市町村、団体等と連携し新規事業所の開拓。
目標数 22 平成24年度休眠事業所は18件であり、その20%アップして22事業所の確保を行う。	献血の休眠事業所の開拓	継続	現在献血を休眠している事業所	通年	-	各事業所	以前献血を実施していたが現在献血を休眠している事業所の開拓。
目標数 30 平成24年度複数回事業所は26件であり、その15%アップして28事業所の確保を行う。	複数回事業所の開拓	継続	献血実施企業	通年	-	各事業所	年1~2回実施の事業所は年2~3回の複数回の協力をもらう。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規複数回登録者の目標値4,800名 平成24年度の複数回献血クラブ登録者は8,813名である。依頼状況は、6回依頼し延33,478名に配慮をした。登録者の増加を計り特に冬季の献血者確保を計りたい。	複数回献血者登録者推進キャンペーン	継続	献血者	通年	-	-	複数回献血者確保のため、新規メールクラブ会員を推進し、月400名、年間4,800名を確保する。(企業献血、学域献血、街頭献血時にメールクラブ会員登録会を実施する。)
複数回献血者の目標値600名 平成24年度の各献血実施血実施者は15,038名であり、54.3%の8,166名が年1回だけの協力となっている。誕生日カードを発送し約7%の600名を確保したい。	複数回献血者の確保	新規	各グループ	通年	-	-	各献血ルームで年間1回の実施者で過去1年間の来所のない献血者に、月毎に誕生カードを発送献血の協力を依頼する。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
	献血推進協議会の設置	新規	つくば市	平成26年4月	-	-	県内の輸血用血液製剤の使用が1位また、献血者数が2位のつくば市に献血推進協議会が設置されていないことから、設置し各協力団体等の協力並びに行政との連携を強化する。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

栃木県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
・10代の献血者及び総献血者数における構成比(対人口における献血率)の目標値 平成24年度10,426名12.1%(14.0%) 平成26年度目標10,500名13.2%(14.1%) ・高校生学内献血 平成24年度400ml献血者数 2,431名39.1% 平成26年度400ml献血者数目標 2,600名41.6%	高等学校献血400ml献血キャンペーン	継続	高校生	通年	80回	高等学校	高校生を対象とした学内献血を実施し、栃木県からの助成による記念品により400ml献血の確保を図る。また、ポスター・チラシによる事前周知の徹底により目標達成を図る。
・20代の献血者及び総献血者数における構成比(対人口における献血率)の目標値 平成24年度15,191名17.6%(7.7%) 平成26年度目標15,200名19.1%(7.7%) ・学生献血者数 平成24年度5,269名 献血率6.1% 平成26年度目標5,500名 献血率6.9%	大学・短大・専門学校献血	継続	大学・短大・専門学生	通年	30回	大学・短大・専門学校	大学・短大及び専門学校を対象とした学内献血を実施し、栃木県からの助成による記念品により400ml献血の確保を図る。また、ポスター・チラシによる事前周知の徹底により目標達成を図る。
	冬期対策キャンペーン	継続	20歳～29歳	2月	1	各献血会場	地域の団体とコラボキャンペーンを実施し20代若年層に働きかける。コラボグッズを製作しキャンペーン時に献血者にプレゼントする。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
職場での 平成24年度400ml献血者数 19,957名 82.3% 平成26年度400ml献血者数 20,249名目標 84.3%	400mlキャンペーン	新規	献血者	下期	60	各献血会場	企業での献血者の落ち込みが多い為400ml献血推進キャンペーンを実施し、献血の安定的な確保を図る。
献血サポーターに参加する企業・団体を15社増加させる。	献血協賛等活動推進事業	継続	企業担当者	通年	通年	栃木県内企業	献血協力団体・推進団体に対して、献血依頼時に要綱、広報チラシを配布し参加を募る。

栃木県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 平成24年度献血実人数は54,108名で、複数回献血実人数は14,322人。複数回献血率は26.5%であったことから、平成26年度については、複数回献血率目標値を30.0%とする。	献血ポイント	継続	献血者	通年	随時	固定施設	献血種類、曜日等により、ポイントを付与。到達時に記念品と交換。その他不足時等+1ポイント付与による複数回献血の動機付けを図り、目標値達成を図る。平成24年度ポイント引換が8,273人が引換えたことから、献血ポイント引換え者を8,500名以上とする。
	複数回献血クラブ運営	継続	非複数回献血クラブ会員	通年	随時	全施設	非会員に対し、積極的に新規会員を募集する。メールによる献血要請依頼、情報提供、組織化、サービスの向上を図る。平成24年度メールクラブ会員率が献血者の6.5%であったことから、10%以上の会員率を目標とする。その為の取り組みとして、スタンパーの積極的な活用及び職員教育を行うこととする。
	平日成分献血者確保	継続	献血者	通年	随時	固定施設	確保の難しい平日の成分献血者を確保するために、記念品引換券を配布する。次回平日献血への誘導をはかる。平成24年度平日成分献血者実績16,274名であったことから、約5%増の17,000名の平日成分献血者確保を行う。
	もう1回献血キャンペーン	継続	献血者	不足時期	随時	全施設	再来を促すためのチケットを配布。献血協力者に記念品を贈呈する。平成24年度献血者の平均献血回数が1.59回であったことから、献血者の平均献血回数を1.8回以上を目標とする。
その他の目標値	休眠献血者の掘り起こし	継続	休眠献血者	通年	随時	全施設	休眠献血者に対して、依頼要請をかけ、複数回献血者への誘導を図る。月20人以上の献血依頼を行う。
平成24年度応募率が平均12.0%であったことから、目標値を平均20.0%以上とする。	60歳以上の献血依頼	継続	60歳以上の献血者	通年	随時	全施設	年齢の延長により可能となった69歳までの方を対象に依頼要請をかけ、成分献血の確保を図るとともに、複数回献血者への誘導を図る。月20人以上の献血依頼を行う。
	誕生月献血	継続	誕生月献血者	通年	12回	全施設	誕生月の記念に献血を1回引き、メール等により依頼する。平成24年度誕生月献血の応募率が23.4%であったことから、応募率の目標値を25%以上とする。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
キャンペーン会場街頭献血での 平成24年度400ml献血者 4,723名 400ml献血率90.4% 平成26年度400ml献血者 5,000名目標 400ml献血率91.4%	街頭献血会場の強化	継続	献血者	通年	150	街頭献血会場	400ml献血のみ受入れ街頭献血会場を設定し、400mlキャンペーンを実施する。 ホームページやポスターなどで事前周知を図る。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

群馬県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血者7,899人 献血率10.4%	「ガスバクサン群馬献血応援スペシャルマッチ」	継続	若年層	10月	1回	献血推進試合会場、移動採血車、各出張所	10月の献血推進試合に移動採血車を配車、各出張所を含めたイベントを実施し、献血応援グッズ、コラボ記念品を作成して献血者に進呈する。 前年度実績から、試合会場→3,000人の観客数に対して、60名の献血者を確保する。各ルーム(1週間)→1,000名の献血者を確保する。
	「パナソニックワイルドナイツ」応援キャンペーン	継続	若年層	12月または1月	1回	移動採血車、各出張所	前年度実績から、試合会場→2,400人の観客数に対して、60名の献血者を確保する。 各ルーム(1週間)→1,000名の献血者を確保する。 献血応援グッズ、コラボ記念品を作成して献血者に進呈する。
	若年層献血セミナー(演奏会協賛セミナー)	継続	若年層	2月	1回	演奏会会場	2月に、演奏会直前に若年層献血セミナーを所長自らが、献血啓発活動を行う(パンフレット作成、記念品を付与)
20代の献血者及び献血率の目標値 献血者目標15,876人 献血率8.4%	「はたちの献血キャンペーン」	継続	若年層	1月	1回	イベント会場、移動採血車	1月の県主催のイベント会場にて、高校生ボランティアが20歳になる先輩方にカイロ(2,000個)を配布し献血の啓発を行う。同会場に移動採血車を配車し、60名の献血者を確保する
20代については、23年度実績15,179人(8.0%)、24年度実績14,355(7.6%)、25年度(8.3%)、26年度(8.4%)から算定した。							
その他の目標値 若年層献血者確保対策の一環として、小学生に対しても献血の意義理解の促進を図ることとし、将来にわたる若年層確保につなげる。 ※献血率等に反映しないため個別の目標毎に実施目標を記載した。	親子献血教室	継続	小学5・6年生とその保護者	8月	1回	血液センター(前橋赤十字病院を含む)	8月に親子献血教室(30組60名)を実施し、県及び前橋市広報・情報誌、ホームページ等に周知参加者を募る。 教室終了後に参加者に向けアンケートを実施する。アンケートに「献血可能年齢に達した際に実際に献血へ行く」などの、「親子献血教室が献血推進に有効である」と思料される回答を参加者の80%以上から得る。
	若年層献血推進資料作成	継続	中学3年生	2月から3月	1回	県内中学校	20,600冊のクアアフィル(献血広報資料)を県内中学3年生に対して献血について考えるために配布する。群馬県教育委員会から各中学校へ配布依頼文を通知してもらい、献血の意義理解の促進を図る。県内の全中学校175校への配布を目標とする。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
前年度同様の目標を設定し 12社	240	継続	4600	2820	通年	20	170
前年度同様の目標を設定し 36社	新規献血の事業所・団体開拓プロジェクト	継続	企業・団体等	通年	通年	県内全域	県内3ブロックに分け、3チーム/月1か所の新規開拓を目標とし、積極的に活動を行い、36社(3社×12月)を目標とする。

群馬県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値	「献血ポイント キャンペーン」(出張所)	継続	県民	通年	通年	献血の種類にポイントを付与し、達成者に特別記念品をすることで、複数回献血者の増加を図る	
献血メールクラブ新規登録者は平成24年度実績では、2,968件で、平成25年度実績では、上半期1,978件で平成25年度予測3,952件であり、平成26年度450件/月の5,400件を目標とした。	「献血平日ポイントUPキャンペーン」(出張所)	継続	県民	都度	都度	再来献血の確保を目的に、献血者減少の時期に、更に1ポイントUPで付与し再来献血者の確保を図る	
	複数回メールクラブ入会キャンペーン	新規	県民	通年	通年	本社、ブロックの企画期間外の新規入会献血者に記念品を贈呈し、複数回献血者の増加を図る	
	複数回メールクラブ会員冬季献血キャンペーン	新規	県民	下半期	都度	複数回メールクラブ会員に献血者が減少する冬季に依頼して、献血協力へ記念品を贈呈し、複数回献血者の増加を図る	
その他の目標値 献血ルームへGO(仮称) 目標値 3,400人	献血ルームへGO(仮称)	新規	県民	下半期	都度	上半期に献血バスでの協力者に次回県内3か所の固定施設での献血協力案内カードを配布し、年2回の献血協力で記念品を贈呈し、再来献血者の確保を図る	

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
目標値を設定し 2,000人	街頭献血キャンペーン	継続	県民	通年(土曜日、日・祝日)	50回	移動採血車	街頭献血での全血献血強化キャンペーンを実施し献血者確保を行う。(記念品を付与)
目標値を設定し 12,500人	400mL献血限定キャンペーン	新規	県民	通年(土曜日、日・祝日)	180回	移動採血車	街頭献血で400mL献血限定キャンペーンを実施し、400mL献血者の確保を行う。(記念品を付与)(ショッピングセンターで献血者に抽選で記念品を付与)
目標値を設定し 4,100人	年末・年始献血キャンペーン	継続	県民	年末・年始	1回	移動採血車	年末・年始期間に献血キャンペーンを実施し、献血者確保を行う。(記念品を付与)(移動採血車、各出張所)
目標値を設定し 3,600人	午前中血小坂献血予約キャンペーン(出張所)	継続	県民	通年	通年	出張所	血小坂成分献血者を対象として、予約献血者に対して特別記念品を付与し安定的な血小坂献血者の確保を図る
前年度同様の目標値を設定し 1,260人	バレンタイン献血キャンペーン	継続	県民	2月	1回	出張所	献血者が特に不足する2月の献血者確保を行う。(記念品を付与)
目標値を設定し 1,000人	年度末・年度始献血キャンペーン	新規	県民	3月・4月	1回	移動採血車、各出張所	11月の献血感謝デー期間に「キャンペーンカード」を配布し、3月・4月(年度末・年度始)の期間に「キャンペーンカード」を提示いただき、献血協力者に記念品を付与し献血者の確保を図る

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

埼玉県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血率 8.5%目標 (平成24年度実績8.0%)	若年層献血セミナー	継続	小・中・高校、専門学校 生徒	通年	未定	県内学校訪問	希望学校を訪問し、センター顧問が血液や献血について講演
	卒業献血キャンペーン	継続	高校3年生	2月～4月	1回	県内献血ルーム	県内高校の卒業生にチラシ配布し、ルームでの献血を依頼
	17歳の400mL献血推進	継続	高校生	通年	112校	高等学校	平成24年度17歳の400mL献血者が1,557人であったことから、2.8%アップの1,600人目標とする。また、高校献血の実施回数については109校であったことから、3校増の112校の実施を目標とする。献血未実施校については、県・市町村・血液センター3者による高校訪問を実施し、校内献血及び献血ルームにおける献血啓発を行う。
20代の献血者及び献血率の目標値 献血率 6.5%目標 (平成24年度実績6.0%)	クリスマス献血キャンペーン	継続	若年層	12月23日	1回	イベント実施会場	埼玉西武ライオンズ・学生ボランティアの協力で献血推進イベント
	学生献血推進連盟主催による献血イベント	継続	若年層	4月・8月・10月	3回	イベント実施会場	学生献血推進連盟の立案による若年層を対象としたイベントを実施する。今年度4月の確保実績は当日の受付時間の変更のため98uとなった。10月の確保実績は127uとなった。2回平均で113uとなる。26年度は15%アップの130uを目標とする。
	大学内での献血実施の強化	新規	大学生	通年	70～90回	大学内	学生献血推進連盟のメンバーを中心に1会場につき5名～10名の学生ボランティアを依頼し、前日のPR活動や当日の広報活動を行い学内献血の強化を行う。
	学生献血推進連盟新人研修合宿	継続	大学生	8月	1回	ブロックセンター埼玉製造所及び研修会場	学生献血推進連盟に加盟した大学生を対象に製造所の見学やDVDの視聴、講演を行い、献血に関する情報や知識を得ることを目的とする
その他の目標値	スポーツチームと協働した広報	継続	若年層	通年	3回	県内	埼玉西武ライオンズの啓発ポスター、地元サッカーチームのオリジナル記念品により若年層の思想普及を図る

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
平成24年度の献血協賛企業の登録数は422団体に対し、約40%アップを目標とした100団体の登録を目標とする	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業・団体	通年	都度	未定	献血協力団体に対し、少子高齢化に伴う血液製剤の需要増加や献血可能人口の減少、血液製剤の使用状況について情報提供を行い、献血協賛企業登録を依頼する

埼玉県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 平成25年9月30日時点で総会員数「35,183人」のところで総会員数「45,000人」を目標に新規会員を「10,000人」確保する	メールクラブ新規会員入会促進キャンペーン	継続	未加入若年層	春季・夏季	2回		新規会員確保数を10,000人とし、特に400mL献血に積極的な会員を確保する。この取組みとして、移動採血会場での依頼ハガキにメールクラブの案内を記載し、募集を推進するほか、移動採血会場専用パンフレットを作成し配布する。献血ルームでは、若年層の400mL献血者をターゲットに会員確保のイベントを行う。また、現在発行しているメールクラブ会報誌に会員確保状況を掲載し友人紹介につなげる。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

千葉県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 10代の献血者については、平成25年度目標の対人口比献血率7.9%を維持し、18,221人を平成26年度目標値とする。	10代献血者確保事業	継続	10代の献血可能者	通年	都度	全献血会場	若年層の献血者を確保増加させるため、献血セミナー実施数増加・学生献血推進協議会を員増強化・複数回献血くらぶ会員の増強活用を図り目標値を達成するよう努める。
*平成25年4月1日現在 千葉県年齢別、男女別人口における16～19歳の人口230,656人を母数とした。	献血啓発ポスター募集事業	継続	中学・高校生	5～10月(募集～発表)	1	県下全域対象	献血啓発ポスター県内応募校91校(中学78校・高校13校)を10%増加の100校とし、応募件数740件(中学638件・高校102件)を10%増加の814件を目標値とする。県業務課と連携し県教育委員会より県立高校125校(市立11校・私立58校は県業務課より依頼)及び54市町村教育委員会(中学校)へ依頼文で献血啓発ポスターを募り、入賞(10名)作品を広報誌掲載や作品をデザインしたグッズなどを作成し献血啓発に繋げる。
	献血セミナー	継続	高校生	通年	8	県内高等学校他	平成24年度実績(高校5校・大学1校)6校を8校に増加し、受講生2,278人(高校生2,258人・専門学校生20人)を10%増加の2,506人とする。県内高等学校(全196校)にアンケートを実施し、献血の実施・献血セミナー等の実施要望を確認しながら、県業務課と連携し県教育委員会からも県立高校(125校)校長あて依頼していただき献血セミナー実施・献血啓発に繋げる。
20代の献血者及び献血率の目標値 20代の献血者については、平成24年度実績47,753人から3% (1,433人)増加の49,186人(対人口比献血率7.3%)を平成26年度目標値とする。	20代献血者確保事業	継続	大学・短大・専門学校	通年	3	学域会場(大学・短大)	若年層の献血者を確保増加させるため、献血セミナー実施数増加・学生献血推進協議会を員増強化・複数回献血くらぶ会員の増強活用を図り目標値を達成するよう努める。平成24年度実績5869人、3%(176人)の増加を達成するため、196グループを登録(3人1組)で応募率30%に設定し59グループ(3人1組)を目標値とする。
**平成25年4月1日現在 千葉県年齢別、男女別人口における20～29歳の人口675,296人を母数とした。	グループ献血キャンペーン	継続	大学・短大生	通年	3	学域会場(大学・短大)	3人1組で参加いただき、代表者に本人宛のはがきを直筆で記入していただき次回献血日曜に合わせて本人に発送し、当日、本人・友人・知人等(3人以上)で献血会場にお越しいただく。
	リレーキャンペーン	継続	社会人	10月～3月末	-	移動採血職域会場	平成24年度職域(初回)献血者4,717人から59%(2,381人)の増加で、4,955人を平成26年度目標値とする。職域献血会場で紹介者カード5,000枚を配布し紹介率59%(2,500人)を目標とする。対象は新規又は1年以上間隔の開いた方を紹介した人と記念品を両名に差し上げて新規開拓に繋げる。
その他の目標値 学生献血推進協議会員115名から10%増員の127名を目標値にする	献血呼びかけ強化	継続	大学・短大・専門学校生	通年	-	ショッピングセンター等	各大学長あての学生ボランティア加入推進の依頼文(大学43校・短大7校・専門学校8校)を提出し加入促進を図りながら、学生ボランティア加入用パンフレット20,000枚を作成し各献血会場(大学43校・短大7校・専門学校8校)で配布を行う。また、学生主催のイベント(サマー・クリスマスキャンペーンのほかハロウィン・バレンタイン・ホワイトデーキャンペーン)を実施しながら地域・街頭献血でも活動しながら、若年層への啓発に繋げたい。

イ. 企業等における献血の推進対策

千葉県赤十字血液センター

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血会場の確保(30会場)	新規献血会場の確保	継続	企業等	年間	-	新規献血会場	推進課員の新規開拓訪問及び、献血推進団体(LC等)と連携を取りながら新規献血会場を確保していきたい。
臨時献血要請可能な企業(職域)の確保(10会場)	臨時要請可能企業	継続	企業等	下半期	-	職域献血会場	血液確保が安定している職域献血会場(自衛隊・空港警備隊・県庁・市役所等)で、血液不足時に臨時対応可能な事前確認し、可能な場合は準備日数に何日必要か、通常使用しているスペースを使用できない場合の代替スペースはあるか、何人協力できるか、スタッフは何人必要か、社内承認を取るの何日必要か等をシミュレーションし即対応できるように努める。
献血実施増回会場の確保(30会場)	献血実施増回会場の確保	継続	企業等	下半期	-	職域献血会場等	血液不足が深刻になる下半期に、平成24年度実績1回2回実施上位14会場から年1回の会場(4会場)は2回、年2回の会場は3回に増回依頼し、目標の30会場を確保し下半期の安定確保に繋げたい。年3回・4回実施している会場は、当然上位になるが通常開催の増回は難しく、臨時対応でのお願いになるため今回の上位50会場には含まれていない献血協賛企業のスポーツチームを啓発ポスターに起用し献血協力の促進を図るとともに、献血協賛企業を紹介することで各協力団体の献血協賛(献血サポーター登録)への参加を促し、すでにサポーター登録企業・団体には血液不足が生じた際は積極的に協力、支援をお願いする。
新規献血サポーター協賛企業100社登録を目標値にする	献血啓発ポスター作成	継続	献血協賛企業	10月頃から掲出	-	献血協賛企業	

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 平成26年度登録可能な予測人数99,581人の確保目標割合20%20,000人を目値とする。	複数回献血くらぶ新規会員登録	継続	未登録者	通年	随時	-	ホームページ並びに各献血会場にてチラシ・簡易看板等で推進を行い、登録者にはオリジナル記念品と複数回献血クワ7ポイントシステムにより新規登録ポイントを付加する。
その他の目標値 平成26年度3月献血ルーム採血計画数13,380人に対する会員予測占有率64.5%より、8,630人を対象とする。	複数回献血くらぶ感謝キャンペーン	継続	複数回献血くらぶ会員	年度末	1回	-	メールにてキャンペーンの推進を行い、平成26年3月に献血ルーム並びに一部移動採血車献血会場にてくらぶ会員に粗品を進呈する。
その他の目標値 平成26年度成分献血計画数69,080人の35%24,180人を目標値とする。	成分献血予約管理	継続	成分献血希望者	通年	随時	-	成分献血希望者より、メール・電話・献血ルームにて次回の成分献血の予約を受付し、献血ルーム来所時に粗品を進呈する。
その他の目標値 平成24年度計画比率により、成分87,000人応募率21%、免許R20,000人応募率8.5%、推進課支援148,000人応募率23%を目値とする。	定期依頼要請	継続	依頼可能献血者	通年	随時	-	成分献血者については、県内5ルーム(免許R除く)について毎週1回成分献血可能者に献血要請書を送付し、免許ルームについては、月1回全血献血可能者に献血要請書を送付する。推進課支援用として推進課依頼に基づき県内移動採血会場に献血要請書を送付する。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
平成26年度移動採血計画数 39,531人を目標値とする。	冬期の献血者確保	継続	期間内移動採血会場献血者	下半期	-	-	限定グッズを用意して、期間内の実施会場に事前PR(職域献血会場にポスター掲示・チラシの配布依頼(約3週間前)地域献血会場SC等は会場と協力団体にポスター掲示・チラシの配布依頼(約3週間前)・センターHP等を活用して前年同時期より400mL献血者を3%増加させる。
年末年始(12月25日～1月10日の間)の平成24年度実績 400mL献血者3,617人から3%(109人)増の3,726人を目標値とする	年末年始の献血者確保	継続	期間内移動採血会場献血者	12月25日～1月10日	-	-	限定干支グッズを用意して、期間内の実施会場に事前PR(職域献血会場にポスター掲示・チラシの配布依頼(約3週間前)地域献血会場SC等は会場と協力団体にポスター掲示・チラシの配布依頼(約3週間前)・センターHP等を活用して前年同時期より400mL献血者を3%増加させる。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

東京都赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血者に占める10代の献血者及び献血率の目標値 5%以上目標	高校献血の実施	継続	高校生	4月～12月	8	学校	既存実施高校の継続。夏季ボランティア参加校で未実施12校に対し要請する。
	複数回献血クラブの推進	継続	献血者	4月～12月	常時	献血会場	10代の複数回献血クラブ登録率を新規登録者数全体の9%を目標に推進する。
献血者に占める20代の献血者及び献血率の目標値 25%以上目標	大学献血の推進	継続	短大、大学生	通年	常時	大学、献血会場	既存大学の継続。キャンパスの異なる同一大学での実施、紹介等を介し新規大学を確保すると共に事前に献血セミナーを実施する。
	ラクロス協会の献血	継続	大学生	3月	1	明治神宮前	日本ラクロス協会主催による献血の実施。同協会に加盟しているラクロス部へ事前の説明会を実施し部員のみならず、友人の動員等多くの協力者を確保する。
	複数回献血クラブの推進	継続	献血者	通年	常時	献血会場	20代の複数回献血クラブ登録率を新規登録者数全体の33%を目標に推進する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規、掘起こし団体を80確保	協力団体強化対策	継続	企業・協力団体	通年	常時	各企業や事業所	同一企業からの紹介。組合等の紹介、地域センターと情報を共有し連携を図る。CSR活動の推進企業にメール等により献血協力の案内を送る。血液センターの関係企業へ直接訪問する。
増回団体を50会場確保	協力団体強化対策	継続	企業・協力団体	通年	常時	企業や事業所	既存協力団体へ献血の現状を理解していただく為に資料を持参し増回の要請をする。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
未登録献血者の15%以上を複数回献血クラブに加入推進する。	複数回献血クラブ新規登録推進	継続	400mL献血者	通年	常時	都内献血会場	複数回献血クラブ会員募集チラシ及びサイト誘導装置等を活用し会員登録を推進し、必要時に依頼要請に応じていただく。
未登録献血者の20%を複数回献血クラブに加入推進する。	複数回献血クラブ新規登録推進	継続	O型・AB型献血者	通年	常時	都内献血会場	複数回献血クラブ会員募集チラシ及びサイト誘導装置等を活用し会員登録を推進し、必要時に依頼要請に応じていただく。
複数回献血クラブへの新規登録者数4万5千名確保を目標とする。	複数回献血クラブ新規登録推進	継続	複数回献血クラブ未加入の献血者	通年	常時	都内献血会場	平成24年度における東京都内の複数回献血クラブ会員の献血者占有率は46.3%であった。今後も継続して会員確保に努める。
複数回献血クラブ会員の年間平均献血回数を2回以上とする。	複数回献血クラブポイント制	継続	複数回献血クラブの登録者	通年	常時	都内献血会場	配信メールの時期や内容を工夫したりポイント制度を活用し、複数回献血者の増加を図る。
依頼要請に対する応諾率は成分献血20%、全血献血10%とする。	献血依頼要請Eメール配信	継続	複数回献血クラブの登録者	毎月	12	都内献血ルーム	需給状況や在庫状況に応じ採血種別・血液型別に、複数回献血クラブ会員に対しEメールで献血依頼要請を行う。
依頼要請に対する応諾率は10%とする。	献血依頼要請はがき送付	継続	複数回献血クラブへ未登録者	毎月	12	都内献血ルーム	需給状況や在庫状況に応じ採血種別・血液型別に、ダイレクトメールで献血依頼要請を行う。
依頼要請に対する応諾率は30%とする。	渉外支援献血依頼要請はがき送付	継続	前回、同献血会場に來所した献血者	毎月	随時	移動・オープン献血会場	地域・学域・職域の移動採血実施に合わせて定期的な献血への協力を依頼する。
成分献血の45%以上を事前予約により確保する。	成分献血予約推進	継続	成分献血可能者	通年	常時	都内献血ルーム	複数回献血クラブの予約機能による予約受付を周知、推進強化することで安定的な献血者確保を図る。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 14,350人 平成24年度実績13,023人の10%増	高校への献血セミナー	継続	県内高校生	随時	10校	県内高校(公立・私立)	県業務課との連携により県内各高校にセミナー案内の配布。校長会による周知等により、献血セミナーを通じて高校献血や高校生の献血ルームへの誘導を図る。
	高校生献血キャンペーン	継続	県内高校生	上期	1回	県内各献血ルーム	県内献血ルームにて高校生を対象としたキャンペーンを実施し、高校生の献血者・登録者の増加を図る。高校生献血数H24年度 5,183人、H26年度6,000人目標
	大学献血の増加	継続	大学生	随時	137回	各大学	ボランティアフェスティバルの参加学生を中心に校内での広報支援等および実施回数の増加を図る。大学献血実績H24年度 31校125回、H26年度 137回予定
20代の献血者及び献血率の目標値 55,500人 平成24年度実績52,780人の5%増	プロスポーツチームとの協働	継続	県民及びスポーツター	随時	5回	各試合会場	横浜Fマリノス・川崎フロンターレ・湘南ベルマーレとの協働によるファン感謝デーの参入や試合会場での献血実施。また、イベントでの献血PRや献血ルームへの誘導施策を実施するとともに各プロスポーツチームのHPにて掲載を依頼する。
	大学献血の増加	継続	大学生	随時	137回	各大学	ボランティアフェスティバルの参加学生を中心に校内での広報支援等および実施回数の増加を図る。大学献血実績H24年度 31校125回、H26年度 137回予定
10校参加を目標とする 平成25年度8校学生172人参加	ボランティアフェスティバル in KANAGAWA	継続	県民一般	10月	1回	日本丸パーク	参加大学の代表者に対し献血セミナーにより、献血の必要性・重要性を認識してもらい、ボランティア活動として献血のPRをしてもらうことにより、若年層の普及を図る。また、学生ボランティアを通じて参加大学の増を図る。
平成25年度実績211校から応募 5%増の220校を目標とする	献血の絵ポスター展	継続	県内小中学生	夏休み期間	1回	献血表彰式展にて入賞者表彰および作品展示	県業務課との連携により県内各小中学校あて案内文を配布。作品の返却時に各学校に対し、平成26年度での応募を呼びかける。
平成25年度実績305人参加 5%増 320人参加を目標とする	夏休み小中学生親子献血教室	継続	小中学生と保護者	夏休み期間	10日	県民サポートセンター/横浜駅西口ルーム/神奈川県センター	血液センターが講師を担い県と共催していることから、県業務課との連携により県内各小中学校あて、夏休みの宿題として取り上げられるよう案内文を配布し各学校に対し参加依頼を行う。参加校の増加目標達成のためポスターおよびFMヨコハマ等により周知を図る。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規20社(団体)	献血実施企業や団体を通して新規紹介	新規	献血実施企業団体	随時	通年	県内企業・団体	献血実施企業・団体からの紹介やホームページ等を活用し、関係企業・団体を新たに紹介いただくと共に、献血サポーターロゴマーク配布も併せて推進する。
献血推進団体交流会への出席20回程度	献血推進団体の交流会への出席	継続	ライオンズクラブ、ロータリークラブ等	随時	随時	団体の会合場所	推進団体の月例会等会合に積極的に参加し、献血への理解促進と地域に根差した献血推進活動への協力依頼をおこなう。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値68,000人 平成24年度実績約47,500人。 平成23年度からの増加率が8.5%であるため、平成25年度を同様の増加率と見込んだ62,400人とし、その9%増を平成26年目標値とする。	献血ルーム登録者への献血依頼	継続	献血ルーム登録者	4月～3月	適宜	献血ルーム登録者で全血・成分登録者に対して葉書による献血依頼をする。130,000人に対して10%の応諾13,000人の確保
	街頭献血登録者への献血依頼	継続	街頭会場登録者	4月～3月	適宜	街頭会場登録者で全血登録者に対して葉書による献血依頼をする。120,000人に対して10%の応諾12,000人の確保
	献血メールクラブ会員への献血依頼	継続	メールクラブ会員	4月～3月	適宜	献血メールクラブ会員に対して全血・成分の献血依頼をする。60,000人メールクラブ会員に対して10%の応諾6,000人の確保

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
通年の初回献血者25,000人と本年度上半期実績・見込数25,000人として50,000人の確保 156,000枚を発行し、96,000枚の回収	新規献血メールクラブ会員の募集	継続	献血協力者	4月～3月	随時	献血後の献血者にポスター・チラシ等で周知し、会員を確保する。
	複数回献血者用ポイントカードの発行	継続	全ての献血協力者	4月～3月	随時	ポイントカード(ドナーカード)を製作し、継続協力者に特典をあてる。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 24年度全献血者に占める割合6.9%を0.1%上回る7.0%とする	献血セミナー	継続	高校生・大学生・専門学校生	通年	10回	各高校・大学・専門学校	平成24年度実績5回、高校生計994人参加。県高等学校校長協会・性教育研修会等において協力を依頼する。
	献血バス配車	継続	高校生・大学生・専門学校生	通年	65回	各高校・大学・専門学校	平成24年度実績65回。生徒数は減少傾向にあるが、より多くの学生から協力を得られるよう働きかけを行う。
	献血推進活動	継続	高校生・大学生・専門学校生	通年	9回	イベント会場、街頭会場	平成24年度実績9回、236名のボランティアから協力をいただいた。26年度も同様に協力を得られるよう働きかけを行う。
	学園祭パンフレットへの広告掲載	継続	大学	10月	6回	各大学	献血を実施している県内大学の学園祭パンフレットに、献血バスの訪問日や献血ルームの案内広告を掲載し献血の協力を呼びかける。
20代の献血者及び献血率の目標値 24年度全献血者に占める割合20.4%を0.1%上回る20.5%とする。	フリーペーパーを活用した広報	継続	高校生・大学生・専門学校生	通年	3回	新潟県内全域	フリーペーパー(CUTIN)により献血の呼びかけやPRを行う。同世代の若者からの呼びかけ等、より効果のあるものにする。
	本社キャンペーンと運動した企画	継続	県民(若年層をターゲットにする)	7月、1月～2月	2回	献血ルーム及び献血バス会場	献血をされた若年層献血者とその紹介者に記念品贈呈。県内若年層ユーザー向けにYahoo!WEB広告掲載等若年層を対象とした企画を実施する。
	フリーペーパーを活用した広報	継続	県民(若年層をターゲットにする)	通年	3回	新潟県内全域	フリーペーパー(CUTIN Campus)により献血の呼びかけやPRを行う。同世代の若者からの呼びかけ等、より効果のあるものにする。
	動画サイトを活用した広報	継続	県民(若年層をターゲットにする)	8月	1回	新潟県内全域	夏季休暇中の学生を中心とした県内YouTubeユーザー向けにインストリーム広告を掲出し献血協力を呼びかける。
	雑誌を活用した広報	継続	県民(若年層をターゲットにする)	適宜	6回	新潟県内全域	記事体広告(例:献血体験レポート等)により広く献血の呼びかけを行う。掲載広告データについては、チラシ・パンフレット等としても活用する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血協力企業(団体)13社	効率的採血の確保	継続	県内の企業及び団体	通年	13回	県内の各企業	平成24年度は新規で13会場実施した。献血実施が可能な規模の県内への企業進出が少ない現状ではあるが、県・市・新潟県献血推進協議会等にも支援をいただき、新規献血協力企業を開拓する。

新潟県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 平成24年度複数回献血率33.9%を1.1%上回る 35.0%を目標とする。	複数回献血者確保対策	継続	複数回献血クラブ未登録者	通年	都度	献血ルーム及び献血バス会場	リーフレットなどの資料を活用新規登録を呼びかける。
	複数回献血者確保対策	継続	複数回献血クラブエラー会員	8月、3月	2回	新潟県内全域	エラー会員となり、メール送信ができない献血者にハガキで再登録をお願いをする。
	複数回献血者確保対策	継続	6ヶ月以上の休眠献血者	通年	都度	献血ルーム	前回の献血から6ヶ月間協力の無い方へダイレクトメールを送出し献血協力を促す。
	複数回献血者確保対策	継続	全献血者	通年	都度	献血ルーム及び献血バス会場	接遇時において複数回献血の必要性を説明し年2回以上の献血協力を依頼する。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
メルマガ登録会員の平成24年度年度末2,814名に対し約900名増の3,500名を目標とする。	携帯・電子メールサイトによる広報	継続	「トクだね！こまち」サイト利用者	通年	都度	新潟県内全域	情報サイト「とくだね！こまち」を活用し情報掲載を行う。年6回プレゼント企画によりメルマガ登録会員を確保し、会員対象に献血キャンペーン情報を発信する。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

山梨県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者を増やす 平成24年度 10代 4,163人 (献血率11.3%) 平成26年度 10代 4,300人 (献血率12.1%) 分母はH22国勢調査人口を基に算出	ルームへGo!献血キャンペーン	新規	高校・大学・各種専門学校生	通年	-	各学校及び献血ルーム	移動献血での高校・大学・各種専門学校集団献血実施時にポイントカード(リレー用)を発行し、献血ルームで献血してもらう。来場者にはルームにて記念品を贈呈する。
	高校生リレー献血キャンペーン	新規	高校生	通年	-	献血ルーム	高校生によるリレー献血を行う。最初に献血した高校生が遠く高校の生徒(知人等)にポイントカードを渡し、期限を限定し5ポイントになったら記念品を全員に贈送する。200mLで1ポイント、400mL成分献血で2ポイント付与する。さらに紹介された方にもポイントカードを渡し、対象者を広げる。 平均3.5人×100組=350人
	高校生献血全校実施(年間2回実施も含め)	継続	高校生	5月~3月	県内41校 51回実施	各高等学校内	高校生献血者数の増加 平成24年度3,184人 平成26年度3,200人 引き続き全高等学校(全日制)での献血を実施する。男子生徒や実績の多い高校(H25年9校)から4校増やし10校で年間2回実施をお願いする。
	高校生集団献血時に400mL献血推進	継続	高校生・養護教諭	5月~3月	県内41校 51回実施	各高等学校内	集団高校生献血の400mL率のアップ 平成24年度61.5% 平成26年度61.5%を維持するために各高等学校の献血・渉外時、保健主事及び養護教諭に対して400mL献血の必要性を繰り返し説明し、理解と協力をいただく。
20代の献血者を増やす 平成24年度 20代 5,923人 (献血率7.1%) 平成26年度 20代 6,400人 (献血率7.6%) 分母はH22国勢調査人口を基に算出	大学構内献血実施キャンペーン	継続	大学生	4・5・6・7・10・11・1月	県下7大学 20回	各大学構内	大学生 平成24年度1,789人 平成26年度2,000人 構内献血では、3人組み献血キャンペーンや各大学の学生献血推進連絡協議会メンバーによる献血呼び込み等を中心に依頼する。
	学生献血推進連絡会主催献血	継続	大学生	8・11・12月	3回	ショッピングモール	平成24年度280人の献血者から平成26年度は300人の献血者を目標に学生献血推進連絡会主催による年3回の街頭献血を実施する。
10代20代の合わせた献血者を総献血者比27.6%から30%にする	若年層献血セミナー	継続	高校生・大学生	6・7・8・9・11・12月	12回	血液センター及び各会場	県下高校・大学生にセミナーの実施 例年同様高校生出張出張講座を募集し(高校生集団献血渉外時にセミナーも依頼する)、大学生にも行事(学祭等)での理解と協力を促す。
H24年度: 受付者数934人(8日間) H26年度: 受付者数1,000人(7日間)	Heartful Connection キャンペーン	継続	10代・20代の若年層	12月末~1月初め	12回	献血ルーム ショッピングモール	キャンペーン中の献血受付者数 1,000人を目標とする。平成25年度と同様に若年層献血者確保対策として、FM局を利用して年末年始10代20代の若年層に献血を呼びかける。アンケートを実施して宣伝効果や献血実施場所の認知度等の調査及び確認をする。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血協力企業・団体(過去に行っていた団体を含む)5団体を復活させる。	新規献血者の確保	継続	企業及び団体	4月~3月	5団体	各事業所等	保健所・市町村等に紹介をいただき新規献血団体の開拓を行う。前年度比増で5団体増加の150人を目標とする。
企業献血でCDM・携帯メールの利用率30%維持する。	企業献血の推進	継続	企業及び団体	4月~3月	約30社	各事業所等	事業所の献血者3,000人以上へDM・携帯メールによる献血依頼を引き続き実施する。1,000人以上の献血者確保を目標とする。
通知に基づいて献血サポーター団体を20団体増やす	献血サポーターの増加	継続	企業及び団体	4月~3月	30団体	各事業所等	献血渉外時未加入団体に引き続きコンタクトを取り、新規サポーター企業を確保する。サポーターになってほしい団体には、献血依頼はもとより献血しない時でも献血情報(ポスター掲示)等を要請する。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血協力者を平成24年度の31.8%と同等以上を平成26年度も維持する。	複数回献血協力者確保	継続	市町村及び企業での献血経験者	通年	150	市町村主催会場・企業	市町村及び企業へのDM・メールを約9,000人に依頼し、本年度上半期の応答率約35%(3,150人)の維持を目標とする。
	複数回献血協力者確保	継続	献血ルームで過去2年間1度の献血者	通年	1	献血ルーム	献血ルームで過去2年間1度の献血者(地区限定)約1,000人に対し献血依頼。前年度同様の応答率約20%(200人)を目標とする。
	複数回献血協力者確保	継続	移動献血における初回献血者	通年	都度	全会場	初回献血者に、次回献血できるタイミングでお礼ハガキを送付しその上で献血依頼。年間約2,000人対象。前年度同様の応答率約30%(600人)を維持する。
	複数回献血協力者確保	継続	高校集団献血年間2回実施	通年	10	各高校	高校集団献血を男子生徒の多い高校を中心(17歳男子を念頭に)に年間2回実施(例年3年生だけ実施の高校で2・3年生献血対象にして、10校の年2回実施予定)
メールクラブ会員を1,500名募集する	複数回献血協力者確保	継続	若年層献血者及び職場献血者	6月～3月(通年)	都度	全会場	ブロックセンター作成のノベルティグッズを利用し、若年層の加入を継続する。また、職場での献血経験者の加入を加速する。前年度比500人増加の年間約1,500人、実施期間中約500人を目標とする。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
400mL献血率85%をめざす	高校生の400mL献血推進	継続	高校献血	5月～3月	県内41校 51回実施	全会場	高校献血での400mL献血を推進する。400mL推進するためのグッズを準備し、(2年生も対象の高校は)17歳の該当者が揃うよう12月以降に実施し、平成24年度の61.5%以上の400mL献血率を維持する。
50代以上の献血者数を前年比10%増やす	高齢献血者確保	新規	50代以上の方	通年	4回	街頭キャンペーン	ライオンズクラブ会員を中心に、50代以上の献血サポーター約10人程度を育成(月1回の勉強会を3回受講した方へ献血サポーター認定書を発行し、認定後サポーターの方たち主催の献血PRティッシュを配る。100人の献血者を集めるキャンペーンを年間4回開催)

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 平成24年度 3,368人 (献血率 4.3%) 平成25年度上半期 1,852人 (献血率 4.7%) 平成26年度 3,812人 (献血率 5.0%)	学生献血キャンペーン	継続	高校生・大学生・専門学校生・短大生他	7月・12月	4回	長野市・上田市・飯田市	平成24年度の実績212人中、10代は23人(構成比10.8%)であったことから、1.2%アップの12%以上を目標とし学生ボランティアの協力により、若年層が好む記念品を用意し各大学等への周知と併せて会場での勧誘を行う。
	固定施設への学生送迎	継続	高校生・大学生・専門学校生・短大生他	毎月	48回	固定施設	平成24年度の実績160人(10・20代合計)であり、25年度の目標200人としていることから31%アップの210名(10・20代)を目標とし、送迎予定日に校内にて献血PRティッシュを配る献血希望者を募り固定施設へ送迎する。
	新規献血者確保キャンペーン	継続	高校生・大学生・専門学校生・短大生他	4・5月	1回	固定施設	平成25年度4・5月の新規献血者数は418人であったことから、7.7%アップの450人とし、若年層を中心とした献血未経験者を対象にポスター・メディアを使った広報を行うと共に記念品を用意する。
	若年層献血セミナー	継続	高校生・大学生・専門学校生・短大生他	通年	25回	各学校	平成24年度実績20回であったことから、25回を目標として県と連携して各学校へ献血セミナー開催を依頼する。
20代の献血者及び献血率の目標値 平成24年度 12,973人 (献血率 16.5%) 平成25年度上半期 6,618人 (献血率 16.8%) 平成26年度 12,963人 (献血率 17.0%)	学生献血キャンペーン	継続	大学生・専門学校生・短大生他	7月・12月	4回	長野市・上田市・飯田市	平成24年度の実績212人中、20代は33人(構成比15.6%)であったことから、1.4%アップの17%以上を目標とし学生ボランティアの協力により、若年層が好む記念品を用意し各大学等への周知と併せて会場での勧誘を行う。
	固定施設への学生送迎	継続	大学生・専門学校生・短大生他	毎月	48回	固定施設	平成24年度の実績160人(10・20代合計)であり、25年度の目標200人としていることから31%アップの210名(10・20代)を目標とし、送迎予定日に校内にて献血PRティッシュを配る献血希望者を募り固定施設へ送迎する。
	新規献血者確保キャンペーン	新規	新社会人・成人	通年	50回	企業・各市町村	平成25年度4・5月の新規献血者数は437人であったことから、5.3%アップの460人とし、若年層を中心とした献血未経験者を対象にポスター・メディアを使った広報を行うと共に記念品を用意する。
	若年層献血セミナー	継続	大学生・専門学校生・短大生他	通年	25回	各学校	平成24年度実績20回であったことから、25回を目標として県と連携して各学校へ献血セミナー開催を依頼する。(10代の目標と同じ)

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規企業開拓 10社	新規企業の開拓	継続	企業	通年	10社	各事業所	従業員30人以上の企業をターゲットとして渉外活動を行い、献血状況や将来像を説明し継続した献血協力をお願いする。
休止企業の再開 10社	休止企業の再開	継続	企業	通年	10社	各事業所	従前実施していたが休止している企業への渉外活動を行い献血の現状を説明し再度献血への協力を依頼する。
行政、大手企業等、了解が得られた会場30社を目標	献血前の啓発活動	継続	行政・企業	都度	30回	行政・企業入口	行政機関・企業献血実施前、職員出勤時に併せてティッシュ等の配布により献血の啓発活動を行う。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 平成24年度末、会員数7,385名、平成25年度目標数は、1,115名増加の8,500名である。平成26年度の会員数を、8,500+1,200の9,700名とする。	複数回献血クラブ 会員確保	継続	未登録者	毎月	48回	固定施設および高校献血等の若年層対象の献血会場	固定施設で新規献血者や未登録の献血者へ勧誘の推進と若年層が対象の献血会場において、複数回献血クラブ担当者や付随活動を行う。また、エラー会員の会員復帰のための再登録通知の発送により、平成24年度末会員数7,385名の31%アップの9,500名の会員登録を目標とする。
その他の目標値 平成24年度の依頼数18,810件、応募数3,473名、応募率18.5%であった。平成26年度目標を応募数3,500名、応募率20%以上とする。	メールによる献血協力者確保	継続	登録者	毎月	108回	複数回メール会員へのメール送信	平成25年度同様のメール送信の他に、協力状況が年1回と1年以上協力のない応募率の低い会員への依頼メールの送信により、献血者数の底上げと複数回協力の促進を図る。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
55歳以上の献血者における血小板献血の採血比率を12%とし、1,672人の献血者確保を目標とする。	55歳以上の血小板成分献血者アップ	継続	55歳以上男性	毎月	24回	固定施設	55歳以上の血小板献血者数は、平日を中心に毎月安定しており、平日の午前採血強化の一助となることから、55歳以上の男性血小板献血可能者へ毎月2回ハガキにより献血依頼を行う。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者率の目標値 6.95% (H25上期+H24下期+H26増数)/ 10代献血可能人口 (794+1,378+397)/36,970=6.95	高校生400mL献血キャンペーン	継続	高校生	10月~2月	12回	各学校	400mL献血に協力いただいた学生に、通常の粗品に加え記念品を提供する。学校の了解を得て、周知用チラシを献血告知用ポスターに貼付し事前PRをし、献血当日の受付会場においてもPRチラシを掲示する。
	DMによる献血依頼	継続	大学周辺在住の20代	1月~3月	1回	各献血会場	大学周辺在住の20代を対象にDMを送り届いたDMを持参し献血にご協力いただいた方に記念品を贈呈。
	献血セミナー	継続	高校生・短大生・大学生・専門学校生	通年	12回	各学校	高校で7回(予定700名)、短大・大学等5校で新入生(予定300名)を対象に、献血セミナーを実施し献血の必要性及び重要性を説明し、400mL献血、血小板献血への理解を深めてもらい、献血意識の向上を図るとともに、献血の協力をお願いする。オリジナル小冊子・パワーポイント等を使用する。
	3人いっしょに献血キャンペーン	継続	短大生・大学生・専門学校生	4月~11月	10回	各学校	大学等7校での学内献血実施時に、3人でいっしょに献血キャンペーン(先着15組、45名にカップラーメン等提供)を実施する。構内に告知用ポスターの掲示、学生ボランティア・当日献血協力者より友達にメール配信を依頼し周知を図る。また、ボランティアによる同世代からの呼びかけを実施する。
	つながる献血の輪(献血リレー)	継続	10代~20代	通年	1回	各献血会場	賛同いただける若者を募集し、リレーカードを配布する。10代~20代の献血者がカードを持参し献血にご協力いただいた場合は、カードにスタンプを押印する。(不適用可)献血後、知り合いの10代~20代の方に渡す。5人分揃ったら、参加者に記念品を送付する。
	はたちの献血キャンペーン	継続	若年層	1月~2月		ショッピングセンター	成人の日ショッピングセンターにおいてFMラジオの公開放送番組(ミニコンサート&トークショー)を開催し、若年層の献血参加を呼び掛ける。当日献血会場で献血体験コメントを収録し、1月~2月CM放送する。期間中若年層献血者数2,100名を目標にする。
	みんなで祝福「卒業献血」	継続	高校生・短大生・大学生・専門学校生	12月~3月	1回	各献血会場	卒業生を対象に献血された方に記念品を贈呈する。(みんなで祝福のために在校生、家族と一緒に献血した場合も対象とする。)チラシ、ポスター、ポケットティッシュ、ホームページなどでPRする。

その他の目標値 ・献血者数300名 ・親子で100組募集 (25組×4回) ・JRCTレセン参加の 小学生・中学生・高校生 90名 ・来場者200名の参加 ・小学生に配布 (23,000枚作成)	サマー献血 クリスマス献血	継続	特に若年層	8月、12月	2回	マリエ献血ルーム ショッピングセンター	学生ボランティアと連携し、東海北陸ブロック統一・全国統一の献血キャンペーンを実施し、同世代の若者に献血の理解と協力を呼びかけ、夏場・冬場の血液不足を補うとともに若年層の献血者を増やす。ラジオCM(1局)、告知ポスターを電車に掲出(1社)、はがき依頼(400名)等で周知を図り実施する。
	親子見学会	継続	小学生・保護者	7月～8月	4回	血液センター	本社制作DVD素材(おしえてけんけつちゃん!)を用いて献血の流れを説明し、献血クイズ及び血液に関する知識を高めてもらう。施設見学(供給課、パネル展示室)、献血バス・血液運搬車の体験乗車をしてもらい、見学会に感想文を書いてもらう。各小学校への参加依頼するとともにホームページへの掲載や商業施設等で告知チラシ掲示を依頼する。
	献血啓発	継続	小学生・中学生・高校生	8月	1回	青少年自然の家	JRCTレセンで献血啓発を行う。オリジナル冊子・パワーポイントを使用し実施する。学生が集う場所に「献血の流れ等」パネルを展示する。
	はたらくクルマ	継続	幼児・小学生・保護者	8月	1回	富山まつり (富山市役所前)	富山まつりのイベント「はたらくクルマ大集合」に献血バスを展示し、献血の必要性と血液センターの役割への理解を深めてもらい、献血の推進に繋げる。
	ラジオ体操カード	継続	小学生	6月		富山市内小学校	小学生に血液センターオリジナルのラジオ体操カードを配布し、使用することにより、保護者にも献血への意識を促す。

富山県赤十字血液センター

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血協力事業所5社・ 休眠事業所5社の増 (H25新規:12社 休眠:7社)	献血協賛企業推進	継続	事業所・団体	通年		各事業所等	富山県主要工場名簿を活用するとともに、ライオンズクラブへ協力事業所紹介を依頼し、新規事業所の開拓、休眠事業所の掘り起こし。事業所担当者に愛のかたち献血等活用して献血の必要性を理解していただけるよう働きかける。
	献血啓発	継続	事業所・団体	通年		各事業所等	本社及び血液センター作成の各ポスターを送付し献血意識の向上を図る。(通年、7月月間、世界赤十字、はたちの献血、複数回献血等)

富山県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血率 30% H24:27.5% H23:26.2% 複数回献血クラブ会員数 2,500名	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回の献血者	通年	2回	はがき及び電子メールを活用し、年1回の献血者2万人に対して、複数回の献血協力を依頼する。
		継続	400mL献血者	通年		4月～9月に400mL献血協力者にキャンペーンカードを配布し、7月～3月に再度400mL献血者に粗品を進呈する。受付場所や献血バス内でキャンペーン告知チラシを掲示し、ホームページでキャンペーン案内を掲載するとともに、複数回献血クラブ会員へメール配信し協力依頼する。
		継続	献血者	通年		①会員募用のチラシ・リーフレット(各15,000枚)、ポスター(1,000枚)を作成する。 ②各献血会場で献血者全員にチラシ・リーフレットを配布するとともに、献血協力事業所等へポスター掲示を依頼し会員募集を図る。(1名/1日確保) ③ショッピングセンターで会員募集イベントを2回実施する。
	複数回献血クラブ 会員限定映画上映会	継続	複数回献血クラブ会員		11月	1回

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
血小板献血数の曜日別基本計画数を確保する。 (1週148本×52週=7,696本) ※変動あり	血小板献血者確保対策	継続	血小板献血可能者	通年		①平日での献血協力を県内市町村及び事業所等の担当者に依頼する。(年間計画) ②登録者への電話依頼、誕生日の献血者へのはがきでの依頼、複数回クラブ会員へのメールでの依頼をする。 ③七夕、バレンタインデー、ホワイトデー等キャンペーンを実施する。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

石川県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.0% $1,350 \times 2 / 45,254 = 6.0\%$	高校生に対する献血セミナーの開催	継続	高校生	平成26年度4月～平成27年3月	10回	石川県内各高校	石川県内の各高校で献血セミナーを開催し、献血に対する理解と協力を求め移動採血車及び固定施設での献血協力を得る。
	JRC部員に対する献血セミナーの開催	継続	高校生	平成26年度4月～平成27年3月	2回	いしかわこども交流センター及び県内高校	石川県内の各高校JRC部員の行事に併せ、献血セミナーを開催し献血に対する理解と協力を求める。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.2% $4,750 \times 2 / 116,000 = 8.2\%$	学生献血推進活動の促進	継続	大学生、短大生、専門学校生	平成26年度4月～平成27年3月	3回	血液センター	石川県学生献血推進委員会の総会及び勉強会を開催し、新年度を迎え新たな学生献血ボランティアを募集する。
	大学生等に対する献血セミナー開催	継続	大学生、短大生、専門学校生	平成26年度4月～平成27年3月	4回	血液センター及び金沢市内ホテル	石川県学生献血推進委員会の総会及び石川県学生献血推進連絡会の開催時に献血セミナーを開催し献血の理解を求める。
	大学献血の実施	継続	大学生	平成26年度4月～平成27年3月	20回	石川県内各大学	学生献血ボランティアが在籍する大学を主に、在籍する学生ボランティアの呼びかけを行い献血を実施する。
その他の目標値 親子120組240人を募集する	青少年献血ふれあい事業	継続	小学生と保護者	平成26年度7月～平成27年8月	6回	血液センター	夏休み中に小学生と保護者を対象とした献血セミナーと血液センターの見学会を開催し、献血に対する理解を求める。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規募集の献血企業・団体10件	新規献血団体募集	継続	一般企業及び団体	平成26年度4月～平成27年3月	10件		平成26年度中における移動採血日程の渉外活動の中で、新規の企業または団体の献血を10件募集する。
献血サポーター募集20件	新規献血サポーター募集	継続	一般企業及び団体	平成26年度4月～平成27年3月	20件		平成26年度中における新規の献血サポーター企業団体を20件募集する。

石川県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 新規会員500人募集	複数回献血クラブ新規会員募集	継続	一般献血者	平成26年度4月～平成27年3月			母体、ルーム及び移動採血車の受付において新規の複数回献血クラブ会員を募集する。平成26年度中の募集目標を500人とする。
	複数回献血クラブ献血依頼	継続	複数回献血クラブ会員	平成26年度4月～平成27年3月			血液不足時における、複数回献血クラブ会員に対するメールによる献血依頼の応諾者数を200人以上を目標とする。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
400mL献血率87%	400mL献血の推進	継続	献血者	平成26年度4月～平成27年3月			平成26年度は400mL献血率を87%を確保する。
1稼働62人、118単位	1稼働あたりの献血人数及び単位数増加対策	継続	献血者	平成26年度4月～平成27年3月			平成26年度は移動採血車の1稼働の人数62人、1稼働の単位数118単位を目標とする。
55歳以上の男性の成分献血者を100名増やす	シニア成分献血	継続	献血者	平成26年度4月～平成27年3月			平成24年6月～平成26年5月で成分献血に協力した55歳以上の男性300名にのみめを送付する。平成25年1月～11月までに血小版献血した方、3,500名に年賀状を送付する。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

福井県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血者: 2,100人 献血率: 6.4% / 32,800人(献血推進2014)	学校献血(受入)	継続	高校、大学等	4月~3月	15	各学校	オリジナルファイル+αな粗品進呈
	献血セミナー	継続	高校生	毎月	20	各学校	血液・輸血・献血を知ってもらおう場として、記念品進呈
	高2生への周知	継続	全高校2年生	2月初旬	1	紙面1P(B5、A4)	全ての高2生(約8,000名)に配布されるガイドブック掲載
20代の献血者及び献血率の目標値 献血者: 6,050人 献血率: 8.4% / 72,000人(献血推進2014)	3人でいっしょに献血	継続	大学(生、関係者)	4月~3月	12	各大学	献血受付に3人(複数)で来て頂き、お菓子進呈
	学生連盟イベント	継続	大学等	9月頃	1	イベント会場	学生献血推進連盟が主となり、同世代への周知イベント
	新成人おめでとう	継続	はたちの者	1月(成人式)	1	各会場での配布	新成人に、血液センター(献血)を周知するためのチラシ等
その他の目標値	献血感謝祭	継続	10代・20代	8月(または3月)	1	イベント会場	過去1年間に献血(10代・20代)者に、抽選でイベント招待
	親子見学会	継続	小学生	7・8月	4	母体・教員出張所	小学高学年を対象とし、施設見学と献血セミナー等を実施

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
対象者: 1,000人	献血紹介カード	継続	従業員	毎月	100	各事業所(リスト無)	従業員数が多いが、今一献血数が伸びない企業向け紹介者と献血者に粗品を進呈
対象者: 1000人	ガラボン抽選	継続	従業員	毎月	100	各事業所(リスト有)	サポーター登録企業&多くの献血協力がある企業向けプレミアムな粗品(1回:極小数量、ハズレはボウリング)
対象者: 100人	献血セミナー	継続	衛生委員	4月~3月	10	各事業所	月1回の安全・衛生委員会で実施し、職員へ周知願う

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 7,000人(H24: 6,727人、30.5%)	感謝の集い	継続	会員	12又は1月	1	〇〇映画館	複数回献血クラブ員に対して、抽選で映画試写会に招待(100組200名)
加入クラブ員総数: 5,000人 その他の目標値	登録推進	新規	母体献血者	毎開設日		献血ホールいぶら	チラシを製作し、複数回献血クラブへの加入要請と共に「予約システム」の周知

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

岐阜県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 5.4%(平成25年度予測値4.8%であり、平成24年度の実績値を目標とする)	献血セミナー	継続	高校生	平成26年4月~平成27年3月	10回	高校	学校に赴き出前講座を行う。
	いっしょに献血キャンペーン	継続	大学・短大専門学校生	平成26年4月~平成27年3月	20回	各大学	2人以上連れだてて献血に来た方に記念品を配布するキャンペーン
	アニメ・クリスマスキャンペーン	継続	若年層	平成26年8月・12月	2回	移動採血車献血会場	学生ボランティアの企画によるキャンペーン
	テレビアニメとのコラボキャンペーン	新規	若年層	未定		固定施設	テレビアニメとのコラボキャンペーン、ポスターやクリアファイルを協力者に進呈
	FMラジオ番組と公開イベント	継続	若年層	平成26年4月~平成27年3月			平成25年度行っているラジオ放送を継続し、年度後半に公開録音イベントを行う。
20代の献血者及び献血率の目標値 5.9%(平成25年度予測値5.5%であり、平成24年度の実績値を目標とする)	FC岐阜タイアップイベント	新規	若年層	未定			プロフットボールチームの試合会場にて献血イベントを行う。
	いっしょに献血キャンペーン	継続	大学・短大・専門学校生	平成26年4月~平成27年3月	20回	各大学	2人以上連れだてて献血に来た方に記念品を配布するキャンペーン
	学生ボランティアによりサマー・クリスマスキャンペーン	継続	若年層	平成26年8月・12月	2回	移動採血車献血会場	学生ボランティアの企画によるキャンペーン
	FMラジオ番組と公開イベント	継続	若年層	平成26年4月~平成27年3月			平成25年度行っているラジオ放送を継続し、年度後半に公開録音イベントを行う。
	FC岐阜タイアップイベント	新規	若年層	未定			プロフットボールチームの試合会場にて献血イベントを行う。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠団体献血実施10社	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	平成26年4月~平成27年3月		各事業所、団体等	企業・団体を訪問し、主に移動採血車で全血献血の協力を依頼する。
献血協賛企業の募集12社	献血協賛企業の募集	継続	企業及び団体	平成26年4月~平成27年3月		各事業所、団体等	企業・団体を訪問し、献血協賛企業を募集し献血サポーターマークの発行に努める

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血者数を突献血者数の35%以上にする。(平成24年度実績は33.5%) 複数回献血クラブ会員数を10,000人にする。	電子メール、はがきによる協力依頼	継続	年1回の献血者	平成26年4月～平成27年3月			電子メールやはがきによる複数回の献血協力依頼を行う。
	複数回献血クラブ会員増強	継続	献血者	平成26年4月～平成27年3月			複数回献血クラブ会員を増やすためリーフレットを作成し現場で加入した献血者に対して記念品を配布する。また、会員限定イベントを催すことで会員増に努める

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
400mL献血率を平成25年度目標の88%から90%にする。	400mL献血推進強化対策	継続	献血者	平成26年4月～平成27年3月			400mL限定や200mL制限会場を設ける。推進団体に対し400mL献血推進を進める。400mL献血実施可能な高等学校を平成25年度の5校から10校まで増加させる。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 7,000人 5.3%(平成22年国勢調査)	若年層確保対策	継続	大学・専門学校	4月～7月、9月～1月	40	大学・専門学校	学内献血の実施回数と啓発の強化
	高等学校献血対策	継続	高等学校	4月～7月、9月～12月	100	高等学校	献血セミナーの実施、校内献血実施、400献血推進
20代の献血者及び献血率の目標値 25,800人 7.5%(総務省統計局平成24年10月1日現在)	若年層確保対策	継続	大学専門学校	4月～7月、9月～1月	40	大学・専門学校	学内献血の実施回数と啓発の強化
	ンバス献血キャンペーン	新規	大学	5～7月、10～12月	9	大学内	大学内献血でイベントを実施し、記念品を進呈する
	学生献血キャンペーン	継続	一般	7月、12月、1月、3月	12	イベント会場	各季節ごと(サマー、オータム、スプリング、クリスマス)のキャンペーンにあわせて同世代の若者からの呼びかけイベントを実施する。
その他の目標値	地域献血強化	継続	一般	4月～3月	50	一般会場・ルーム	献血会場と地域を工夫しハガキやメールで案内をする。時期・場合によっては記念品を進呈する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
職業別献血者「会社員」を前年実績の1%増加	企業献血強化対策	継続	企業	4月～6月	150	実施期間中の献血協力事業所	企業内での献血協力時に新入社員対象に広報展開、記念品の進呈

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 新規登録者数4000人増で総会員数を約14000人にする	複数回献血推進	継続	未加入献血者	4月～3月	1		乗客の多い献血会場で登録会を実施しかゆ者に記念品配布する。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
全血献血400mL献血比率の増加 90%以上を目標	400mL献血推進	継続	新規及び既献血者	4月～3月	1		献血者にキャンペーンを周知し、次回400mL献血に協力していただくことにより、冬場の献血者増加を図る

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

愛知県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血率を6.4%にする。 目標献血者数 10代人口 献血率 18,838 / 289,857 = 6.4% *平成22年国勢調査における18歳～19歳の人口(愛知県)	学生連盟主催献血キャンペーン	継続	大学生等	8月、12月、3月	3	イベント献血会場	同世代に献血啓発のイベントを行いながら献血を呼び掛ける。サマー献血(8月)、クリスマス献血(12月)、スプリング献血(3月)
	卒業献血の推進	継続	高校3年生	12月～2月		高校	卒業という記念日を献血の契機と位置付け献血セミナー等を開催し、学内献血における400mL献血の推進
	大学・専門学校における献血推進	継続	大学生・専門学校生	4月～7月、9月～3月		各学校	大学では学生献血連盟に所属する大学を主体として学内献血を実施し、専門学校では献血セミナー等を開催し、献血協力校70校(25年度)を目標とする。
	若年層献血者確保キャンペーン	新規	17歳～19歳	4月から記念品配布終了まで(概ね半年間)		固定施設	キャンペーン実施ポスターに添付されている記念品引換券を持参され、献血の協力をいただいた対象者に記念品を贈呈する。
20代の献血率を8.4%にする。 目標献血者数 20代人口 献血率 71,904 / 856,000 = 8.4% *後援省統計局の平成24年10月1日現在の20代人口(愛知県)	学生連盟主催献血キャンペーン	継続	大学生等	8月、12月、3月	3	イベント献血会場	同世代に献血啓発のイベントを行いながら献血を呼び掛ける。サマー献血(8月)、クリスマス献血(12月)、スプリング献血(3月)
	大学・専門学校における献血推進	継続	大学生・専門学校生	4月～7月、9月～3月		各学校	大学では学生献血連盟に所属する大学を主体として学内献血を実施し、専門学校では献血セミナー等を開催し、献血協力校70校を目標とする。
	若年層献血者確保キャンペーン	新規	20歳～29歳	4月から記念品配布終了まで(概ね半年間)		固定施設	キャンペーン実施ポスターに添付されている記念品引換券を持参され、献血の協力をいただいた対象者に記念品を贈呈する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠団体・複数回献血実施30社	献血協力団体増加対策	継続	献血未実施企業・団体 休眠企業・団体 年1回協力企業・団体	4月～3月		各事業所	①今までに献血を実施したことのない企業・団体について、HP等閲覧し、社会貢献活動を積極的にやっている団体を抽出し、その企業・団体に対して積極的に献血の必要性を伝え献血協力をお願いをする。 ②献血実施企業・団体等へお願いし、関連企業・団体を新たに紹介していただき、献血の必要性を伝え献血協力をお願いをする。 ③3年以上献血協力がない企業(休眠団体)について、再度献血をお願いをする。 ④年1回のみ実施の企業・団体に対して、年複数回実施をお願いする。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の比率を35%まで増加させると共に新規複数回献血クラブ員12000名を併せて確保する。	複数回献血協力者確保事業	継続	初回及び年1回の献血者 複数回献血クラブ未登録献血者	4月～3月		固定施設及び移動採血	①固定施設において献血者に対して、次回成分献血を積極的に取得する ②献血予約システムの要するPRとシステム利用の推奨 ③献血会場(特に大学・専門学校)において専門の事務局員を配備し複数回献血クラブ新規会員を確保する。 ④初回献血者に対して、要領ハガキを活用し、献血要請及び複数回献血クラブへの登録を促す。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
全血献血における400mL献血の比率 90%	400mL献血の推進対策	継続	固定施設における全献血者	4月～3月			1採血当たりの確保単位数が低下傾向にあり、400mL献血由来の赤血球製剤の需要が94%程度であることから、輸血用血液の安定確保と安全性の点から輸血用血液の使用状況を説明しその確保に努める。具体的にはその必要性についてホームページや機関誌に掲載し、献血推進協議会や献血団体、献血会等へ積極的に働きかけ、400mL献血を推進する。また、200mL献血についても、関係機関との連携を図る。

移動採血における1採血あたりの確保単位数 95単位	移動採血安定確保対策	継続	移動採血単全献血者	4月～3月			1採血当たりの確保単位数が低下傾向にあり、400mL献血由来の赤血球製剤の需要が94%程度であることから、輸血用血液の安定確保と安全性の点から輸血用血液の使用状況を説明しその確保に努める。具体的にはその必要性についてホームページや機関誌に掲載し、献血推進協議会や献血団体、献血会等へ積極的に働きかけ、400mL献血を推進する。また、200mL献血についても、関係機関との連携を図る。
---------------------------	------------	----	-----------	-------	--	--	---

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

三重県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血者数 1,683人 献血率 2.4% (1683/70125*100=2.4)	献血セミナー	継続	高校生・専門学生	7月～11月	10回	校内教室	パワーポイント&DVDによるセミナー
	高校献血	継続	高校生・専門学生	10月・11月	8回	校内	授業時間内及び学祭での献血実施
	献血祭り	新規	高校生・専門学生・大学生	3月	1回	ショッピングセンター	三重県学生献血推進連盟が主催する献血祭り
20代の献血者及び献血率の目標値 献血者数 10,325人 献血率 5.9% (10325/175000*100=5.9)	大学献血	継続	大学生・専門学生・教職員	月1回以上	20回	学内	授業時間内及び学祭での献血実施
	全国統一キャンペーン	継続	大学生・専門学生	7・8月、12月、1月、2月	15回	ショッピングセンター	月間・クリスマス・はたち等の献血当日の啓発活動
その他の目標値 学生ボランティアを500名確保	献血祭り	新規	高校生・専門学生・大学生	3月	1回	ショッピングセンター	三重県学生献血推進連盟が主催する献血祭り
	ヤングミッドナサポーターの募集	継続	高校生・専門学生・大学生	4月～7月	約80校	各学校	県行政(保健所)と連携して学校訪問し、サポーターの募集と校内献血のお願いをする。
	三重県学生献血推進連盟加入者募集	新規	専門学生・大学生	4月～7月	9校	各学校	連盟加入団体を増やすべく早朝呼びかけをする。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血協力団体を10団体増やす。	新規協力企業推進対策	継続	新規事業所	年間		献血推進課	新規事業所の開拓及び事業所献血実施担当者からの紹介を引き出す。
成分献血協力団体を10団体増やす。	成分献血協力団体増加対策	継続	献血推進団体	年間		固定施設3施設	四日市・母体で3団体、伊勢で4団体を確保

(別紙資料5)

三重県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 会員数を5000人以上とす。	複数回献血キャンペーン	継続	献血者全員	年間を通じて		献血会場	採血現場でのチラシ等による勧誘
	ハガキによる依頼	継続	献血者全員	4・5月12・1月3月	20回	献血推進課	既献血場所の献血対象者に対して依頼する。
	年間回数の増加依頼	継続	10企業	年間を通じて		各企業	1回を2回に、2回を3回に増加供量を依頼する。
その他の目標値 3年以上休眠状態にある献血協力団体を10団体復活させ	復活！献血	継続	休眠企業	年間を通じて		企業・団体	企業・団体のトップに面会して復活をお願いする。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
20組40名	親子教室	継続	小学生親子	7月又は8月	1回	血液センター	休みの期間中に親子で参加してもらい、献血に触れてもらう。
3校100名	出前事業	継続	小学生・中学生	学校と調整	3回	学校又はセンター	献血を知ってもらい、興味を抱かせる。
1日300名	キッズ献血	新規	小学生以下	3月	1回	イオンモール東員	子供模擬献血により幼いうちから献血を意識してもらう。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

滋賀県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値	献血セミナー	継続	高校生	4月～3月	10	県内高等学校	高校では事業の一環としてセミナーを実施する。
	若年層献血推進	継続	高校生	4月～3月	4	街頭献血会場	例年実施しているサマー、クリスマス、はたちの献血キャンペーン時に学生ボランティアを増大し若年層にPR、献血の勧誘を行う。
20代の献血者及び献血率の目標値	献血セミナー	継続	大学生	4月～3月	8	県内学校	大学で主務会等でセミナーを実施し、学内献血時にパネル掲示する。
	若年層献血推進	継続	大学生	4月～3月	4	街頭献血会場	例年実施しているサマー、クリスマス、はたちの献血キャンペーン時に学生ボランティアを増大し若年層にPR、献血の勧誘を行う。
	若年層献血推進	新規	社会人	4月～3月	随時	県内事業所	事業所献血時に20代の社員へPR、献血の勧誘を行う。
その他の目標値	若年層献血推進	新規	全般	通年	随時	固定施設	複数回クラブ会員対象のイベント

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規事業所等5社以上確保	新規献血団体強化	継続	県内企業等	4月～3月	随時	滋賀県内	新規献血団体を5社確保する。
一台当たりの採血量を100単位を目標とする	献血量確保	継続	県内企業等	4月～3月	50	滋賀県内	100単位以内の事業所の底上げや、1日記車を半日記車に変更し1台当たりの確保量を上げる。

(別紙様式5)

滋賀県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値	献血団体の年回実施回数の増加	継続	献血団体	4月～3月	随時	滋賀県内	年間1回の実施先に対して複数回の協力を依頼する
	複数回献血の増加	新規	個人	4月～3月	随時	滋賀県内	年間1回の献血協力者に対し複数回の協力を依頼する

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
応募者(実協力者)3,000名	メール、はがきによる献血依頼	継続	街頭献血会場等の既協力者	4月～3月	毎月随時	固定施設・街頭会場	メール、はがき、封書による献血依頼要請をする。協力者の目標はメール、はがき併せて3,000名以上
新規登録者200名以上	郵送等による登録者募集	継続	固定施設等の既協力者	4月～3月	毎月随時	固定施設	DM等により新規登録者を募集する。定施設への献血依頼に併せて200名以上の新規登録者の募集を行う。
血小板採血5,976名	血小板献血者確保事業	継続	固定施設等の既協力者	4月～3月	毎月随時	固定施設	固定施設において毎月季節イベントを実施する(12回/年)成分献血ポイントキャンペーンを実施する(3～5月・10月～12月2回/年)

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

京都府赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的に詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 平成22年国勢調査における16歳～19歳の都道府県別人口 平成22年国勢調査における16歳～19歳の京都府人口106,884人 (献血率6.4%で106,884人×6.4%=6,840人(小数点以下切り捨て)) 献血者 6,840人 献血率 6.4%	①献血セミナー	継続	小・中学生、高校生、大学生	通年	20回	献血ルーム・血液センター・支部・小学校・高等学校・大学	夏休みに支部主催の青少年トレーニングセンターで小・中学生に対し献血セミナーを実施。献血に対しより理解を深めようとするため、支部・血液センターで小学生対象の献血セミナーを実施する。大学生に対しては、講義の中で献血セミナーを実施。教育委員会を通じて、京都府内の全ての高等学校長宛てに依頼文を提出し、献血セミナーの実施について積極的な働き掛けを行う。
	②高校生献血キャンペーン	継続	高校生	11月～3月	1回	各高校	地元放送局であるKBS京都とタイアップし、高校生キャンペーンを実施する。高校生キャンベンスペシャル公開番組として、京都府内の高校へ向けて、吉本芸人と一緒に献血セミナーを実施し啓発を行う。京都府内の全ての2～3年生全員に啓発チラシを配布。
	③さすなキャンペーン	継続	10代、20代	10月～3月	1回	京都市内の3か所の献血ルーム	大学、専門学校等でキャンベスカード付ポケットティッシュを配布することで、献血ルームへ誘導する。ルームでは10代20代の方にキャンペーンカードを交付し、継続した献血を呼びかける。 ・キャンペーンカードを持参のうえルームに来られた方に記念品をプレゼントする。キャンペーンカード持参でお友達を連れて献血していただいた方には、プラスαをプレゼントする。 ・献血Friendsへの入会も推進し、期間中に登録された方に記念品をプレゼントする。 ・SNSでPRを行い、若い世代が献血に興味をもってもらえるようセンターが配信した合言葉を受け付け時に言っていた方に、記念品をプレゼントする。 ・期間中10代20代の献血者に対し、カードケースを交付する。 (献血者記念品) プレミアム感のある記念品を予定。 (広報資材) キャンベスカード+キャンペーンカード入りティッシュ40,000枚、カードケース1,500枚
20代の献血者及び献血率の目標値 総務省統計局の平成24年10月1日現在の都道府県別人口による京都府20代人口314,000人 献血率8.4%で、314,000人×8.4%=26,376人を目標とする。 献血者 26,376人 献血率 8.4%	④世界献血者デーの広告	継続	20代中心の若年層	6月	1回	献血ルーム及び移動献血場所	世界献血者デーの記念品として、若年層に好評なフードプリント(ロゴ入り菓子・例)クッキーに任意の文字・デザインをプリントして作成する。新聞、地下鉄に広告を掲載し、より広く若年層へ献血の啓発を行う。若年層向けフリーペーパーに広告を掲載し、若年層への献血啓発を行う。
	⑤はたちの献血キャンペーン	継続	20歳前後の若年層、20代	11月～2月	1回	献血ルーム及び移動献血場所	地元放送局であるエフエム京都とタイアップし、はたちの献血キャンペーンを実施する。若年層対象の映画を上映し、上映前に献血セミナーを実施。併せて若年層向けフリーペーパーに広告を掲載し、若年層への献血啓発を行う。
	⑥献血でSOYJOYキャンペーン	継続	10代、20代学生	通年	移動探血約90稼働	大学、専門学校の移動探血場所	大学、専門学校の献血取組時に、栄養補助食品を配布する。事前PRもを行い、献血会場来場者の動機づけ及び食による健康管理の大切さを伝える。
	⑦に同じ	-	-	-	-	-	-

その他の目標値 献血ルーム伏見大手筋の初回献血者率5%(初回献血者数/献血者数×100) (地域密着広報で若年層向け献血PRを行い、初回献血者率を、平成25年度上半期の伏見大手筋出張所実績(4.2%)を上回る5%を目指す。)	献血ルーム伏見大手筋地域密着広報事業(大学生向け献血PR)	継続	10代、20代の大学生	11月頃	5回	京都教育大学、京都文教大学、種智院大学、龍谷大学	献血ルーム伏見大手筋の近隣の大学の学園祭/イベントに広告を掲載し、大学生等に献血ルームのPR新規献血者の募集を行うことで、献血ルームの周知及び献血意思の普及を図り、若年層献血者・初回献血者の増加を目指す。
その他の目標値 献血ワクワク体験参加者30名	献血ワクワク体験	継続	小学生の子供と保護者	7月または8月	1回	福知山出張所	地元FM局の番組内でパーソナリティーから聴取者に献血ルームのPR、新規献血者の募集を行い、さらに献血ルーム職員が番組に出演することでタイムリーな話題や献血情報を聴取者に提供し、献血協力者を促す。

京都府赤十字血液センター

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的に詳細に記載すること)
献血人数50名 (依頼期間中、京都市内3献血ルーム合わせて組合員50名の献血ご協力を目標とする。)	京都府理容生活衛生同業組合員向け献血PR	継続	京都府理容生活衛生同業組合員	9月頃	1回	京都市内3か所の献血ルーム	京都府理容生活衛生同業組合の広報誌に広告を掲載し、同組合員等に献血ルームのPR・新規献血者の募集を行い、献血者の増加を図る。
献血協力企業・団体等を増加させる(目標新規5団体)	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	通年	随時	各事業所・団体	新規事業所、新規団体の開拓を行う。
企業団体等における年間複数回の協力依頼(目標新規3回)	複数回献血協力企業・団体確保対策	継続	企業及び団体	通年	随時	各事業所・団体	既協力企業・団体に対して依頼する。
施設見学参加者40名	近畿ブロック血液センター見学	継続	長田野工業団地内自営連絡部会員の若年社員	下半年	1回	近畿ブロック血液センター	当出張所が立地する長田野工業団地の10、20歳代の部会員約40名を対象に、近畿ブロック血液センター施設見学を行う。今後の企業献血の中心となる社員に献血の理解を深めてもらう。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的に詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 複数回献血者の割合 平成26年度の献血者全体の実人数(70,000人と想定)の35% 複数回献血者数目標 70,000人×35%=24,500人 平成24年度実績は献血者実人数15,433人、女性5,235人、献血率29.9%平成25年5月20日10:58に近畿BBCからメール配信した「事業評価分析表(地域センター提出様式)②」による数値)	健康相談事業	継続	複数回献血クラブ会員	9月と11月	8回	京都テルサ	会員の健康増進を図り、献血への意識をさらに高めることを目的に、専門家による健康相談「ヨガ教室」を実施する。
	健康に関する講演会	継続	複数回献血クラブ会員	2月	1回	ハートピア京都	複数回献血と健康管理に対する意識をさらに向上させることを目的に「講演会」を実施する。
	依頼・要請メール発信	継続	複数回献血クラブ会員	通年(毎月1回)	12回	母体から発信	輸血用血液の安定確保のため、定期的に依頼・要請メールを送信する。複数回の意識づけに有効活用する。
	複数回クラブ会員への情報提供	継続	複数回献血クラブ会員	通年(毎月1回)	12回	母体から発信	キャンペーン・健康相談事業などに会員に関心度の高い情報提供メールを送信する。複数回の意識づけに有効活用する。

複数回献血者の目標値 新規登録目標数 年間1,800人	新規会員登録確保	継続	複数回献血クラブ未加入の献血者	通年	随時、登録強化週間は6回	母体から発信	広報資料などを活用し、複数回献血クラブ会員増加を図る。特に若年層献血者確保対策として、大学生・専門学校生を中心に募集活動を強化する。さらに、複数回献血クラブ登録強化週間は年6回設定する。
複数回献血者の目標値 京都市内3献血ルームの400mL献血複数回協力者割合 33.5% 献血者数 5,845人(平成26年度京都市内3献血ルームの400mL献血実人数を17,448人と想定)	「おこしやす献血キャンペーン」 400mL献血キャンペーン	継続	移動採血車及び献血ルーム来所献血者	キャンペーンカード配布期間 4月から3月	随時	献血ルーム及び移動献血場所	「おこしやす献血ルーム400mL献血キャンペーンカード」を献血ルーム及び移動採血車の400mL献血者に配付し、次回、献血ルームに来所された400mL献血者に対し、記念品を渡す。 キャンペーン期間中は平成26年4月1日からカードを配付し、記念品交換は平成27年4月30日まで。カードは42,000枚作成し記念品は10,200個を購入する。
(京都市内3献血ルームにおける400mL献血の複数回協力者の割合を24年度比5%増を目標とする。24年度の割合28.56%)	はがきによる400mL献血依頼(3ルーム合同事業)	継続	過去約1年以内の献血経験のある400mL献血が可能な全世代献血者	通年	随時	献血ルーム	①献血ルーム合同400mL依頼はがきによる依頼(月2,000枚)を行う。6か月前、10か月前の400mL献血者へ献血の依頼をおこなう。 ②誕生日月の献血者に、はがきによる依頼を行う。前年度献血者には、はがきを送付し400mL献血の依頼を行う。毎月800通送付し年間10,000通送付予定。依頼期間は誕生月の1か月前とする。来所者には記念品(バースディプレゼント)を渡す。
その他の目標値 献血ルーム伏見大手筋の当該キャンペーン期間中献血者数 550人	献血ルーム伏見大手筋3周年キャンペーン	継続	複数回献血者及び初回献血者	8月24日(日)～8月31日(日)	1回	献血ルーム伏見大手筋	献血ルーム伏見大手筋の移転3周年をマスメディア・インターネット等を活用しキャンペーン展開することで、広範囲に献血ルームの周知及び献血思想の普及を図り、若年層献血者・初回献血者の増加を目指す。 また、次年度以降も移転4周年5周年記念とキャンペーンを継続展開することで、着実な献血者増を目指す。 1. 献血ルームでのイベント ①地元商店街への献血の呼びかけや学生献血推進協議会と連携したPRを実施する。 ②献血者に移転3周年記念品を贈呈する。 2. 移転3周年キャンペーンの告知 ①キャンペーン告知のポスターを作成し、献血ルーム伏見大手筋近隣の学校・事業所等に掲示を依頼する。 ②京都市赤十字血液センターのホームページ等WEBでキャンペーンを告知する。 ③複数回献血クラブ登録会員へメールで告知する。 ④献血ルーム伏見大手筋の地元に着したFM局を活用し、キャンペーンの告知・献血ルームの周知、献血思想の普及を図る。 ⑤京都市南部市町村に配付されている地域新聞に広告の掲載とキャンペーンの取材依頼を行う。

エ. その他

京都府赤十字血液センター

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数			
献血ルーム四条の平成26年度目標の献血者数21,427人達成する。	献血ルーム周年キャンペーン	継続 (H25年度は献血ルーム四条へようこそキャンペーンとして実施)	四条(街)へ来られる方、ルーム献血者、その他広く全世代献血者	11月(1-30日)	1回	献血ルーム四条内	・周年キャンペーンの実施により献血者への日頃の感謝として期間中にオリジナル記念品を贈呈する。 ・SNSを通じて献血者参加型のイベントを実施しキャンペーンを盛り上げる。 ・例年血液が不足する時期でもあり、400mL確保対策も併せて実施する。	
	AB型成分献血キャンペーン	継続	AB型成分献血者	通年	随時	献血ルーム四条内	AB型成分献血者を安定的に確保するためAB型限定のポイントキャンペーンを実施する。1回1ポイント付与し3・6・9ポイントで記念品を贈呈する。	
	モーニングキャンペーン	継続	土日祝AMの献血者	不定期	年2回	献血ルーム四条内	土日祝は午後3時以降に献血者来所のピークを迎えるが、その時間帯にはPC指図がほぼ終了しており、ほとんどがPPP採血となっており、そこでPC可能な献血者に午前中の来所を促す。記念品としてヤマザキのランチパックを贈呈する。	
	地下通路サインボード掲出(阪急烏丸駅)	継続 (H25年度:四条通り地下通路のPR掲出看板設置)	阪急、地下鉄、地下道利用の全世代献血者	通年	毎日	阪急烏丸駅	平成23年11月25日に移転した献血ルーム四条の最寄駅である阪急烏丸駅の地下通路に献血ルームのPR掲出物を設置して、献血ルームの所在地の周知を図り、献血者を献血ルームへ誘導する。	
献血ルーム京都駅前	地下鉄京都駅デジタルサイネージ(コトカビジョン)への広告掲載	継続	JR、地下鉄、地下道利用の全世代献血者	通年	毎日	京都駅地下	京都市営地下鉄、JR京都駅の地下改札と献血ルームを結ぶ経路の中間地点である、コトカにデジタル広告を掲出。15秒間の広告を、10面の液晶ディスプレイに1日延べ285回放映することで、所在地のPRを行い、献血者を献血ルームへ誘導する。	
献血ルーム伏見大手筋の平成26年度献血目標数14,576人達成する	献血ルーム伏見大手筋地域密着広報事業(アーケード放送)	継続	伏見大手筋商店街来訪者	通年	数回/日 ×365日	伏見大手筋商店街	大手筋商店街のアーケード放送を活用し、商店街の来訪者に献血ルーム伏見大手筋のPR及び献血協力の動機付けを行い、献血者の増加を図る。	
その他の目標値 献血ルーム伏見大手筋の初回献血者率5%(初回献血者数/献血者述べ人数) (地域密着広報若年層向け献血PRを行い、初回献血者率を、平成25年度上半期の伏見大手筋出張所実績(4.2%)を上回る5%を目指す。)	献血ルーム伏見大手筋地域密着広報事業(初回献血者向け)(ケーブルテレビ放送)	継続	ケーブルテレビ視聴者	通年	数回/日 ×365日	伏見大手筋商店街	有線テレビ放送を活用し、献血ルーム伏見大手筋の内部をより詳細にPRすることで、初回献血者の献血に対する不安等を緩和し、献血への参加意欲を高める。	
各標榜の採血予定数確保(1標榜あたりの平均400mL献血目標数は67.2人であるが、標榜ごとの目標数は取組先により個別に設定する。)	コミュニティFMのスポット広告	継続	聴取エリアの地域住民	毎月	12回		コミュニティFM局、FMたごで、京丹後市での休日街頭献血のスポットCMを放送し、献血者の確保につなげる。	

各稼働の採血予定数確保 (1稼働あたりの平均400mL献血目標数は67.2人であるが、稼働ごとの目標数は取組先により個別に設定する。)	地域献血への広告	継続	各紙発行地域の地域住民	毎月	30回	地域新聞(両丹日日新聞、あやべ市民新聞、舞鶴市民新聞)にイベント献血、街頭献血の広告を掲載し献血者の確保につなげる。
年間採血目標(400mL献血17,009人)の達成	地方紙への広告	継続	京都新聞(地域版)	4月	1回	当出張所エリアの京都新聞(丹波版、中丹版、丹後版)に前年度実績とお礼、献血の継続についての広告を掲載する。
各稼働の採血予定数確保 (1稼働あたりの平均400mL献血目標数は67.2人であるが、稼働ごとの目標数は取組先により個別に設定する。)	新聞折込チラシ	継続	地域住民	毎月	40回	街頭献血、地域献血40稼働に会場周辺への新聞折込チラシを実施し、献血者確保につなげる。
回収率16%を目標(平成24年度実績は14.7%)	RE:献血キャンペーン	継続	管内400mL献血者	7月~3月	1回	献血者に記念品引換券を渡し(7月~12月)、冬期の再来をお願いする。期間中(1月~3月)に来所いただいた方に記念品を渡す。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

大阪府赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的に詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.4% 献血可能人口334,794人×6.4%=21,427人	高校生献血推進	新規	高校生	1月~4月	適宜	大阪府内の各高校	大阪府内の高等学校の入学式及び卒業式等において、献血啓発のテランを配布し、血液の確保と若年層献血協力の重要性を理解してもらい、献血参加を促す。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.4% 献血可能人口978,000人×8.4%=82,152人	学推サマー献血キャンペーン	継続	若年層	8月	5会場	街頭及び献血ルーム	学生が主体になり献血キャンペーンを行うことで、若年層の共感を得る。 (1)学生自らがポスターやチラシなどの広報物品を作成。 (2)上記広報物品を使用し、街頭献血を主体に開催活動。 (3)統一したTシャツを着用しての呼びかけにより、一体感とPR効果を高める。 確保人数:500人
	新成人献血推進	新規	若年層	1月	1回	大阪府内の成人式会場	大阪府内の成人式会場において、献血啓発のテランを成人式出席の成人(若年層)に配布し、血液の確保と若年層献血協力の重要性を理解してもらい、献血参加を促す。
その他の目標値 参加者全員の献血への意識向上を目指し、街頭での呼びかけボランティア時には、各会場10名の献血者増を目標とする。	サマー献血スクール	継続	高校生	8月	1回	大阪センター内 街頭及び献血ルーム	(1)高校生を対象に献血セミナーを開催し、献血に対する理解を深めてもらう。 (2)街頭(街頭等)にて献血呼びかけのボランティア体験をしてもらうことにより、血液を確保することの重要性を理解してもらう。 (3)統一したTシャツを着用しての呼びかけにより、一体感とPR効果を高める。 参加者数:80人

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的に詳細に記載すること)
前年度より5~10%の増加	職場献血推進キャンペーン	継続	・新規団体 ・事業所における 400mL献血者	12月~3月	100会場	各事業所	冬季にビル献血や職場献血会場で、告知ポスターや告知チラシ、社内報、再来依頼ハガキ等推進対策の事前PRをすることにより、献血参加を促し、献血協力者には記念品を贈呈する。 確保人数:4,400人

大阪府赤十字血液センター

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的に詳細に記載すること)
4400人の献血者確保	地域献血推進キャンペーン	継続	400mL献血者	11月~4月	100会場	地域献血会場	地域献血において400mL献血者の確保を図るためキャンペーンを実施し、400mL献血者に記念品を贈呈する。 また、地域において、口コミ等により献血協力への意識を高め、広がりを期待する。 確保人数:4,400人
年末年始の計画比100%	年末年始献血者確保対策	継続	予約対象者等	年末年始	10施設	固定採血施設	年末年始の血液確保について、各固定採血施設が予約により採血計画を確実に達成するために、予約で協力いただいた献血者に感謝の記念品を贈呈し、採血計画の達成を図るとともに、毎年の予約をスムーズに行う。 確保人数:1,500人

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

兵庫県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 13,717人(献血率6.4%) 【214,331人×6.4%】	若年層献血セミナー	継続	小中高生他	通年	30回以上	各学校及び血液センター	行政と連携し、若年層中心に献血思想の普及啓発を目的として開催する。
	こども見学会	継続	親子	8月	3回以上	血液センター	親子で血液センター見学会。2時間程度血液センター庁舎にて学習、見学、模擬体験等。
20代の献血者及び献血率の目標値 47,040人(献血率8.4%) 【560,000人×8.4%】	はたちの献血キャンペーン	継続	若年層	1月	1回	イベント会場	INAC神戸の選手によるトークショー、サイン会等、いのちと俳句コンテスト表彰式を実施する。
	献血協力組織育成事業	継続	大学生を中心とした若年層	通年	多数回	各会場及び活動場所	若年層に対する献血思想の普及啓発に積極的に取り組むことにより将来の安定的な献血者確保の基盤形成に努める。
その他の目標値 10代～20代の献血構成比を全献血者の26%とする	看護の日キャンペーン	継続	献血者全般	5月	1日	各献血会場	看護の日のPRを兼ねて、看護学生(2年生、3年生)主体のキャンペーンを実施する。
	学生献血キャンペーン	継続	学内献血	通年	140校	各学校献血会場	大学・短大・高校における学内献血でのキャンペーン、記念品進呈。大学・短大・専門学校110校、高校30校予定。
	夏の血液助け合い運動月間(夏期献血啓発)	継続	献血者全般	7月～8月	2か月	各献血会場	全国月間に合わせ展開。啓発グッズ(うちわ)の作製等。
	ウィッセル神戸とのコラボレーション	継続	献血者全般	通年	多数回	スタジアム・イベント会場	試合当日スタジアムで献血推進活動。PR媒体用画像撮影。献血イベントへの選手参加。先方PR誌への掲載等。
	INAC神戸とのコラボレーション	継続	献血者全般	通年	多数回	スタジアム・イベント会場	試合当日スタジアムで献血推進活動。PR媒体用画像撮影。献血イベントへの選手参加等。
	もっとなぐさ献血啓発	継続	一般	通年	多数回	県内赤十字施設等	赤十字施設と連携し、イベント等で若年層向けに献血の重要性と赤十字活動を周知する。
	ひまわり献血・クリスマス献血キャンペーン	継続	学生および来店者	8月・12月	2回	姫路管内献血会場	姫路赤十字看護専門学校生及びLCCの共催により、8月(ひまわり献血キャンペーン)、12月(クリスマス献血キャンペーン)に着ぐるみ、風船等を配布し来店者への献血を呼びかけを行う。本キャンペーンについては、夏季、冬季の血液不足を補うこと及び若年層に献血の理解と協力を訴えようと、学生ボランティアを育成する。
	献血応援キャンペーン	新規	献血者全般・一般	通年	多数回	豊岡管内各献血会場	献血参加カード作成し、事前配布。当日持参者への記念品提供。若年層へのカード配布等。
	献血ルーム合同生徒学生拡大キャンペーン	継続	若年層(高校生・大学生・その他学生等)	通年	毎日	献血ルーム	献血に協力いただいた10代・20代の高校生・大学生・その他学生等にけんけつちゃん関連グッズを進呈。
	献血ルーム合同若年層向け夏のキャンペーン	新規	若年層	7月～8月	2か月	献血ルーム	10代・20代の献血者に記念品を進呈、併せて「献血依頼ハガキ」を配布。ハガキについてはその場で記入いただき、後日発送。持参者に記念品進呈。

イ. 企業等における献血の推進対策

兵庫県赤十字血液センター

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
50団体	献血サポーター事業	継続	各献血団体	通年	100回	県内	献血サポーターマーク(ロゴマーク)を協力団体、企業に対して配布することにより、より一層献血に対する理解を深めてもらい、継続的な協力はもとより不足時等における積極的な協力が得られるよう努める。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
血液の安定確保並びに採血計画の達成	フレッシュ献血キャンペーン	新規	一般	4月	月間	各献血会場	年度初めの確保が難しい時期に新たな気持ちを含めて、献血会場にて記念品を提供することとし、キャンペーンを年度末の確保が難しい時期に、献血会場にて記念品を提供することとし、キャンペーンを展開。
	春の献血キャンペーン	新規	一般	3月	月間	各献血会場	川西市献血推進協議会が実施するキャンペーン(夏と冬)を支援するため、記念品を提供。
	川西市献血キャンペーン	新規	地域献血	7月・1月	2回	献血会場	最も献血者確保が難しい時期の対策として、新聞等の広報の実施と献血キャンペーンを実施し協力を促す。
	冬期の血液確保キャンペーン	継続	主に全血献血者	12月～3月	1回	各献血会場及び新聞広告	最も献血者確保が難しい時期の対策として、記念品を作製し献血協力を促す。
	冬期用啓発推進資料の作製	継続	献血者	12月～3月	多数回	各献血会場	月に1週間程度、年中行事に合わせキャンペーンと銘打ち記念品を提供し、献血参加へのきっかけづくりとする。
	献血ルーム合同端午の節句献血キャンペーン	継続	献血者全般	5月	1週間	全献血ルーム	月に1週間程度、年中行事に合わせキャンペーンと銘打ち記念品を提供し、献血参加へのきっかけづくりとする。
	献血ルーム合同七夕献血キャンペーン	継続	献血者全般	7月	1週間	全献血ルーム	月に1週間程度、年中行事に合わせキャンペーンと銘打ち記念品を提供し、献血参加へのきっかけづくりとする。
	献血ルーム合同ハロウィン献血キャンペーン	継続	献血者全般	10月	1週間	全献血ルーム	月に1週間程度、年中行事に合わせキャンペーンと銘打ち記念品を提供し、献血参加へのきっかけづくりとする。
	献血ルーム合同けんけつちゃん誕生日キャンペーン	継続	献血者全般	10/22前後	1週間	全献血ルーム	けんけつちゃんの誕生日をアピールし、周知拡大を図る。
	献血ルーム合同イイこと献血キャンペーン	継続	献血者全般	12月	1週間	全献血ルーム	確保の難しい11月に照準を合わせ、キャンペーンを展開し、記念品を提供し、確保を図る。
	献血ルーム合同クリスマス献血キャンペーン	継続	献血者全般	12月	1週間	全献血ルーム	月に1週間程度、年中行事に合わせキャンペーンと銘打ち記念品を提供し、献血参加へのきっかけづくりとする。
	献血ルーム合同バレンタイン献血キャンペーン	継続	献血者全般	2月	1週間	全献血ルーム	月に1週間程度、年中行事に合わせキャンペーンと銘打ち記念品を提供し、献血参加へのきっかけづくりとする。
	献血ルーム合同ひなまつり献血キャンペーン	継続	献血者全般	3月	1週間	全献血ルーム	月に1週間程度、年中行事に合わせキャンペーンと銘打ち記念品を提供し、献血参加へのきっかけづくりとする。

	ネイルケア&ハンドマッサージ	継続	献血者全般(希望女性)	通年	月6~8回の実施	ミント献血ルーム	ネイルケアの施術サービス。ホームページでの紹介及びイベント予定表等により事前告知。
	アロマリンパマッサージ	継続	献血者全般(希望者)	通年	月2回程度の実施	ミント献血ルーム	ボランティアの方によるアロマリンパマッサージの施術サービス。ホームページでの紹介及びイベント予定表等により事前告知。
	盆点前	継続	献血者全般(希望者)	通年	月2回の度実施	ミント献血ルーム	陶工・オー・エー美術・文化財団の方による、お抹茶、お茶菓子のサービス。(1日30人限定)
	ハッピータイムキャンペーン	継続	献血者全般	通年	361日	センタープラザ献血ルーム	献血協力の少ない午前中の献血者及び午前中のリピーターを確保するため、平日先着20名、土日祝日30名にミニクワッサーを進呈する。
	平日献血キャンペーン	継続	献血者全般	通年平日	245日	センタープラザ献血ルーム	平日の献血協力者を増やし、計画数を達成するため献血者にレトルトカレー等を進呈する。
	400mL献血強化キャンペーン	継続	献血者全般	10月・11月・3月	92日	センタープラザ献血ルーム	減少する時期に記念品を提供しキャンペーンを展開する。
	献血感謝の日キャンペーン	継続	献血者全般	通年	12回	新長田献血ルーム	抽選応募方式にて毎月28日に抽選実施、毎月20名に記念品進呈。
	紹介カード及びPTA会員ならびにスポーツクラブ会員証提示キャンペーン	継続	対象者	通年	通年	新長田献血ルーム	事前配布の献血紹介カード持参者並びにスポーツクラブ会員証持参した方に記念品を提供。
	一周年記念キャンペーン	新規	献血者全般・一般	4/6・4月	当日と平日	にしきた献血ルーム	オープン周年の4月6日に関係者を招きイベント実施。また、4月1か月間の平日に記念品提供。
	ゴールデンウィークキャンペーン	新規	献血者全般・一般	5/3~6	4日間	にしきた献血ルーム	ゴールデン期間中に記念品を提供し、ファミリー層を中心とした協力を進める。
	夏休み献血キャンペーン	新規	献血者全般・一般	7月・8月	平日29日間	にしきた献血ルーム	7月~8月の学生の夏休み期間におけるイベント(7/22~8/29の平日に記念品提供)。
	アクト夏祭り協賛キャンペーン	新規	献血者全般・一般	8月	6日間	にしきた献血ルーム	8月のアクト西宮の夏祭りへの参加及びそれに付随する特典を記念品として提供。
	にしきた冬季献血キャンペーン	新規	献血者全般・一般	12月~2月	平日60日間	にしきた献血ルーム	冬季対策として期間中の平日に記念品提供。
	春献血(卒業献血)	新規	献血者全般・一般	3月	平日22日間	にしきた献血ルーム	3月の卒業献血及び春休みの高校生・大学生へのアピール。期間中の平日に記念品進呈。
	月~水のPC確保	新規	成分献血者	通年	145日間	にしきた献血ルーム	月~水の成分献血者先着20名に記念品進呈。
	緊急不足時の型別確保	新規	全血献血者	都度	60日間	にしきた献血ルーム	緊急不足時における協力者に対し記念品進呈。
	免許試験応援キャンペーン	新規	献血者全般	8・12・2・3月	平日79日間	明石献血ルーム	期間中の平日に記念品を提供し、特に若年層への献血啓発や参加を呼びかけ、より多くの若者に献血を知っていた参加の難しい火曜日、木曜日に記念品を提供したキャンペーンを実施。
	火曜日・木曜日強化キャンペーン	新規	献血者全般	上記月除く火・木	67日間	明石献血ルーム	平日の安定的確保を図るため、平日来所の献血者に「レトルトカレー」を進呈するキャンペーンを展開。
	平日献血キャンペーン	継続	献血者全般	通年	平日	塚口献血ルーム	各団体主催献血に際し、記念品を進呈。
	団体献血推進	継続	献血者全般	通年	通年	塚口献血ルーム	さんさんタウンの夏祭りに合わせて記念品(うちわ等)を提供し、地域事業の盛り上がり効果を担うとともに、献血ルームの存在を強く地域にアピールする。
	さんさんタウン夏祭り協賛キャンペーン	継続	献血者全般	8月	8月	塚口献血ルーム	確保の厳しい10・11月にキャンペーン展開。次回献血可能日が10月・11月の献血者に当該キャンペーンを告知、記念品進呈等を周知する。
	献血ありがとうキャンペーン	新規	献血者全般	10月・11月	2か月	みゆき献血ルーム	

血液の安定確保並びに採血計画の達成

冬の献血キャンペーン	新規	献血者全般	12・1・2月	3か月	みゆき献血ルーム	記念品を提供し、キャンペーンを展開。
------------	----	-------	---------	-----	----------	--------------------

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

奈良県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
目標数 ・10代 3,701名 (人口:57,824人×6.4%) ・20代 11,676名 (人口:139,000人×8.4%)	若年層確保イベント	新規	10代・20代全般 (主に高校生・大学生)	通年	4回	・母体及びルーム周辺の駅	定期的に最寄りの駅及び大学前等において、若年層を中心に記念品提供の入れ込みティッシュを配布し、母体、ルームの協力者数を増やす。 (ティッシュ持参者に、ポッキー等の記念品を提供する) 500個×@250円×4回=500,000円
	若年層確保イベント	新規	10代・20代全般 (主に高校生・大学生)	4月、5月、10月、11月	4回	・高校、大学等の学内	学内献血時に、若者の喜ぶ記念品を提供し、若年層献血者の増加を図る。 ・お菓子、手帳等のグッズを提供する。 (@250円×約1,700人(H24年度の学内献血協力者数)=425000円)

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回実施企業20社	企業複数回献血依頼	継続	単数回実施企業	通年	2	各企業	現在、年に1回のみの実施企業を年に複数回実施していただけるように依頼する。
企業紹介依頼10社	企業紹介依頼	継続	各関連企業	通年	1	各企業	現在、献血を実施している企業より、関連企業の紹介をしていただき、新規企業の獲得を目指す。
							上記の計画において、複数回実施・企業紹介をしていただいた献血者及び企業担当者に記念品を贈呈する。

奈良県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規登録者800名	会員向けイベント	継続	複数回会員登録者	通年	50回	固定施設	会員の方向けイベントに実施(マッサージ・耳つぼほか)未登録者も当日入会すれば参加可能とし、勧誘をする。 この計画での採血目標を5,000名に設定。
	パンフレット配布	継続	未登録者	通年	—	全施設・献血会場等	パンフレットを作成し、登録の勧誘をする。新規登録者年間300名確保。
会員登録者継続確保300名	会員ポイントキャンペーン	新規	複数回会員登録者	通年	—	固定施設	会員者にポイントカードの配布を行いポイント達成時に記念品を贈呈する。会員減数年間500名から200名に軽減する。 ※予定場所については検討中

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
各イベント毎 1日50名	季節のイベント	継続	成分・400mL献血者	通年	12回	固定施設	毎月季節に因んだイベント(ひな祭り・七夕等)プレゼントを贈呈する。
年間6,000枚 応諾率20%	献血サポーターキャンペーン	新規	固定施設での400mL献血者	通年	1回	固定施設	固定施設で400mL献血協力者に、専用はがきを渡し自分への献血メッセージの記入をしていただき献血期間が空いた時や血液不足時にはがきを送付して献血依頼を行う。
年間3,000枚 応諾率25%	誕生日献血	継続	固定施設での成分・400mL献血者	通年	12回	固定施設	固定施設で400mL・成分献血者に誕生日日に誕生日献血はがきを送付し誕生日プレゼントを贈呈する。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

和歌山県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 2,350人(6.4%) 36,956人×0.064%=2,365人	高校生献血促進	継続	献血者	通年	30	各高等学校	高校学内献血時、献血にご協力いただいた高校生を対家に参加記念品としノベルティグッズを進呈し、参加促進する。
	専修学生・大学生献血促進	継続	献血者	通年	30	各学校	学内献血時、献血にご協力いただいた学生を対家に参加記念品として、若者が喜ぶ記念品を進呈し、参加促進する。
	若年層献血セミナー	継続	学生	通年	5	各学校	血液センターで、または各学校へ出向き献血セミナーを実施する。参加学生には普段から献血に関心を持っていたく意味も込め、献血ノベルティグッズを進呈する。
	県学生献血推進協議会献血推進キャンペーン	継続	献血者	通年	16	各献血会場	同年代の若者に献血に応じていただけるよう、啓発及び接遇等に対し、アイデアを出し、献血推進キャンペーンを開催する。
20代の献血者及び献血率の目標値 7,200人(8.8%) 82,000人×0.088%=7,216人	はたちの献血ラジオキャンペーン	継続	リスナー	1月・2月	1	和歌山県内全域	冬季の献血者確保対策の一つとして、特に、はたちの若者を中心とした若年層を対象に献血への理解と協力を訴えるためにCMスポット放送を行うと共に献血推進特別番組を制作し、受血者の方の生の声を流し、献血協力を訴える。
	若年層献血セミナー	継続	学生	通年	5	各学校	血液センターで、または各学校へ出向き献血セミナーを実施する。参加学生には普段から献血に関心を持っていたく意味も込め、献血ノベルティグッズを進呈する。
	県学生献血推進協議会献血推進キャンペーン	継続	献血者	通年	16	各献血会場	同年代の若者に献血に応じてもらえるよう、啓発及び接遇等に対し、アイデアを出し、献血推進キャンペーンを開催する。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
対象企業献血率5%アップ	企業における献血意識向上	新規	献血担当者	通年	10	各事業所	優良事業所に対し、血液センター所長感謝状・記念品贈呈を行うことにより、事業所献血担当者及び従業員への献血意識向上を図る。

和歌山県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 全血・成分献血の複数回献血率を55%(平成24年度 52%)とする。	依頼ハガキ応諾者促進	継続	献血者	通年	1	各献血会場	ダイレクトメールの応募者に対しノベルティグッズを用意し、複数回献血者増に繋げる。
	年間複数回献血者促進	継続	献血者	通年	1	各献血会場	1年間に複数回の献血者に対し、ノベルティグッズを用意し、年間複数回献血を促す。
その他の目標値 複数回献血クラブ会員1,000人増	メール会員登録イベント	継続	献血者	通年	36	大口事業所及び学推献血推進キャンペーン会場	各会場にて献血者に対し、入会記念品を用意し、複数回献血クラブ会員増を目指す。
	メール会員促進用サイトスタンプ	新規	献血者	通年		各献血会場	各献血会場にてサイトスタンプを常設し、複数回献血クラブ会員増を目指す。
成分献血の血小板比率を現65%から70%に上げる。	成分献血確保キャンペーン	継続	献血者	通年		献血ルーム	献血者の少ない月曜日に「ハッピーマンデーキャンペーン」、その他「バレンタインキャンペーン」などの短期キャンペーン5回を行い、成分献血リピーターを確保する。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加児童40名	夏休み献血ふれあい体験学習	継続	小学生及び保護者	8月	1	和歌山県赤十字血液センター及び近畿ブロック血液センターの施設見学と献血セミナーを実施し、将来の献血者確保に繋げる。	
参加学生100名	県学生献血推進協議会研修会	継続	専修学生及び大学生	12月	1	研修施設	献血に関係のある講師を招き講演会を実施し、今後の献血推進活動のスキルアップに繋げる。
期間中750人(対前年度約105%)	「献血でエグザー」キャンペーン	継続	献血者	12月・1月	1	年末年始街頭献血会場	年末年始の街頭献血会場にて献血にご協力いただいた方に対し、たまご1パックを献血処遇品として進呈する。
3,000人(対前年同月約110%)の全血献血者確保	「献血・ポッキー」キャンペーン	継続	献血者	3月	1	各献血会場	「あと1回・あと1人の献血で助かるいのち」と題し、例年献血者の減少が大きい3月に移動採血にて献血にご協力いただいた方に対し、チョコスナック(大入り袋)を献血処遇品として進呈する。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

鳥取県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 1,406人 (平成22年国勢調査における16歳～19歳の鳥取県人口21,968人の6.4%) 21,968人×6.4%=1,406人 県下高等学校32校の1/3(10校)を目標に献血の推進を図る。 県下高等学校32校の1/3(10校)に参加いただくことを目標とする。	高等学校献血セミナー	継続	高校生	4月～3月	13回	高等学校 東・中・西部地区の大型ショッピングセンター会議室(各1会場)	1. 高等学校出前講座の実施 ・地方公共団体との連携の下、4月～3月に東部から西部地区の県下32校のうち10校の高等学校で2・3年生を対象に延べ1,000名に資料を配布し、血液の必要性を説明し推進を図る。 ・学校祭や献血実施前にリーフレットを配布し周知を図る。 ・記念品を配布し、献血参加意識の向上を図る。 2. 高校生セミナー及び呼びかけ協力体験学習の実施 高校生を対象に血液の必要性の学習を行うとともに献血呼びかけ体験を通じて献血意識の向上を図る。(参加者:1回5校30名を予定、3回延べ90名を予定)
	10代献血者確保	継続	高校生	4月～3月	随時	高等学校 街頭献血会場	セミナーを実施した高校を中心に献血を実施し10代の献血者を確保する。また、高等学校等に街頭献血日程等を掲載したリーフレットを配布し、固定施設や街頭献血会場で献血に協力いただく。
20代の献血者及び献血率の目標値 4,080人 (総務省統計局平成24年10月1日現在の鳥取県の20代人口51,000人の8%)	紹介献血	継続	大学生	5月～2月	7回	大学 専門学校 等	大学献血会場等で献血者紹介キャンペーンを実施する。具体的な内容としては、献血者の方に献血未経験者を誘ってお越しいただく、献血経験がある人からない人への拡大及び献血紹介者の複数回献血への誘導を行う。3人以上のグループ協力キャンペーンも併せ実施して献血者を確保する。
その他の目標値 520人以上の参加が得られることを目標とする。 (H24年度実績10回 327人)	青少年等献血ふれあい事業(献血セミナー)	継続	小学生 中学生	4月～3月	15回	血液センター 県内会議室	1. 献血おもしろセミナーの実施 ・平成26年度は内容の充実を図り、鳥取、倉吉、米子の3会場、小学生高学年を対象に血液センター及び移動採血車等の見学を実施し、300人を対象にスライドを活用した学習を行う。なお、周知については、県下の小学校高学年12,000人にチラシを配布するとともに、ラジオ局2社を活用する。 2. 小・中学校への出前講座の実施 ・いのちと俳句コンテストで受賞された学校へ出向きセミナーを実施する。小学校・中学校で延べ5校、220人に実施する。

-06-

鳥取県赤十字血液センター

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
26年度までに196社(国庫補助事業目標数)の普及を目指す。企業・団体が行う献血活動の普及・拡大を図るため、新規事業所を10社以上確保する。 (平成24年度実績10社)	献血協賛企業活動推進	継続	企業・団体	4月～3月	500回	県内の企業・団体	1. 献血サポーター募集については、献血広報資料に医療機関での使用状況をはじめ、サポーター事業所名や後援している内容を掲載し県内500事業所を対象に196社の参加を募る。 2. 市町村担当者と連携し新規事業所10社を開拓していく。
研修会を23回実施し、470人に推進を図る。 各献血推進団体主催の協力実績が50回を上回るよう推進を図る。 (平成24年度実績42回)	献血協力団体の育成	継続	ライオンズクラブ 天理教 商工会青年部 大学 等	4月～3月	50回	ライオンズクラブ 天理教 商工会青年部 大学 等	研修会を23回実施し、470人に推進を図る。また、献血推進団体主催の献血協力回数が50回を上回るよう推進を図る。 1. 天理教青年部対象セミナーの実施 ・東部、中部、西部の3会場で役員を対象に資料を配布し、血液の現状を説明する研修を実施し、夏季・冬季の献血者不足時に効果的な推進を図る。 2. 赤十字ボランティア対象セミナーの実施 ・赤十字ボランティアを対象に資料を配布し、血液の現状を説明する研修や施設見学を実施し、夏季・冬季の献血者不足時に効果的な推進を図る。 3. ライオンズクラブ例会セミナーの実施 ・7月から10月に県内10クラブ150人を対象に資料を配布し、血液の現状を説明する研修を実施し、夏季・冬季の献血者不足時に効果的な推進を図る。 4. 学生献血ボランティア対象セミナーの実施 ・2ヶ月に1回程度、鳥取大学で献血推進サークル部員を対象に資料を配布し、血液の現状を説明する研修を実施し、夏季・冬季の献血者不足時に効果的な推進を図る。 5. 商工会青年部対象セミナーの実施 ・2月に青年会議所会員35人に対し、血液の必要性について研修会を開催し、献血者不足時に協力が得られるよう効果的な推進を図る。会場、鳥取市内の会議室を使用

-91-

鳥取県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 480名以上の複数回献血協力を得ることを目標とする。 新規登録者を700人確保する。 (平成24年度実績724人)	複数回献血協力者確保	継続	複数回献血クラブに登録されていない献血協力者	4月～3月	24回	移動採血(街頭献血等)固定施設	1. クラブ会員募集リーフレットを作成 ・大学や献血会場で説明員を配置し、リーフレットを活用して説明し、新規登録会員700名の確保を目標にH26年度もクラブ会員募集の周知を行う。 2. ダイレクトメールの要請 ・複数回献血クラブに登録されていない方には、ダイレクトメールで献血者2,400人を対象に要請を行う。(月2回200人を対象に依頼する。) 3. クラブ会員には、月2回程度情報提供し、献血協力を募る。
	複数回献血協力者確保	継続	献血協力者	4月～3月	48回	移動採血(事業所等)固定施設	献血依頼要請に応諾し来所いただいた方3,120人に記念品を贈呈する。 (葉書き応答率が約20%、クラブ会員11%で算出) 葉書き2,400人の2割(480人) メール2,000人×12か月=24,000人の11%(2,640人)

鳥取県赤十字血液センター

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
各種キャンペーンを実施し、2,500人以上の献血協力者を確保する。	献血者確保対策(各種キャンペーン)	継続	献血協力者	5月～2月	7回	固定施設	1. 広く県民への献血の普及啓発を図るため各種キャンペーン等を実施する。 ①サマー献血キャンペーン ②クリスマス献血キャンペーン ③年末年始キャンペーン ④バレンタインキャンペーン ⑤世界献血者デーキャンペーン ⑥愛の血液助けあい運動月間キャンペーン ⑦はたちの献血キャンペーン 2. 献血の現状やキャンペーン等について、さらに周知を図るため、視聴率の高い地元メディアを活用した広報を行う。
午前中の血小板成分献血者4,400人を確保する。	献血者確保対策(固定施設イベント)	継続	献血協力者	4月～3月	462回	固定施設	翌日製品化となる血小板成分献血者数を確保するためイベントを実施する。 母体朝所246日、ルーム開所216日(計462日)で午前中の血小板成分献血者を確保し、意識の向上を図るため、午前中の協力者に記念品を贈呈する。(4,400人を対象)
期間中に480人の協力を確保する。	献血ルームオープン5周年イベント	新規	献血協力者	10月上旬	1回	献血ルーム	ルームオープン5周年を祝って、日頃献血にご協力いただいている献血者の方々に5周年のお知らせ(チラシ配布)を行うとともに報道機関への事前告知、当日取材等に力を入れ広く県民の方々へイベントの周知を図る。また、長期に実施することで開設当初から来所いただいている方にこの期間を利用して、再来いただき再度周知ができる。期間中に来所いただいた方に感謝を込め、記念品を贈呈する。(オープン記念日を含めた前後の12日間実施)

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

島根県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血者数 1,652人 献血率 6.4%	若年層献血者確保キャンペーン	継続	10代の若年層	通年	200回	各献血会場	前年度のキャンペーン(期間中、全献血会場で10代の献血協力者に記念品を贈呈した。)を検証し、新たな企画を加える等により充実させ継続する。
	高校・高専献血セミナー	継続	高校生	通年	10回	各高校	高校及び高校JRC研修会等に出向き、若年層献血の必要性と献血の流れ・注意事項など正しい知識の普及啓発を図る。
	高校献血実施	継続	高校生	通年	10回	各高校	セミナー等で正しい知識を持ってもらった上で、高校の文化祭等に配車して高校生の献血を受け入れる。
20代の献血者及び献血率の目標値 献血者数 4,785人 献血率 8.7%	若年層献血者確保キャンペーン	継続	20代の若年層	通年	200回	各献血会場	前年度のキャンペーン(期間中、全献血会場で20代の献血協力者に記念品を贈呈した。)を検証し、新たな企画を加える等により充実させ継続する。
	学生献血推進ボランティア組織強化	継続	大学・短大	通年	2回	大学・短大	学生献血推進ボランティア組織加盟校を1校増加させ、学生献血推進ボランティア研修会を2回実施する。
	大学・専門学校献血セミナー	継続	若年層	通年	5回	大学・専門学校	大学、専門学校の献血実施時に合わせ、献血啓発ビデオの上映等により献血セミナーを実施する。
	若年層向け広報展開	継続	若年層	通年	5回	大学・各種学校等	母体紹介のパンフレットを新たに作成して新規献血者を確保する。TV・ラジオ・新聞等のメディア、フェイスブック、ツイッターによる若年層向け広報を行う。
その他の目標値 参加者 240名	小学生親子血液センター見学・体験教室	継続	小学校5・6年生	8月	8回	島根県赤十字血液センター	小学生を対象に親子で献血や血液についての学習や採血・供給の仕事を見学し、献血への関心と命の大切さを持っていただく。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポーター企業(団体)を5社以上増加させる。	献血協賛企業活動推進事業	継続	献血協賛企業(団体)	通年	20回	各企業(団体)	献血協賛企業に献血サポーターとして登録いただき、一層の献血推進活動の促進を図る。

島根県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 新規登録者 500名	複数回献血クラブ登録強化	継続	未入会の献血者	通年	随時	各献血会場	複数回献血クラブ入会募集パンフレットを作成し、固定施設(母体、ふれあい)や移動採血(大学・高専・街頭献血等)で随時案内を行い入会促進を図る。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
採血率1稼働50人以上、母体1稼働26.5人以上	献血協力者増強対策	新規	全年齢層	通年	120回	各会場	献血会場に献血者を動員、増強するための広報資料を作成し活用する。パンフ・紹介カード・移動採血周知チラシ・ダイレクトール等
参加者 110名	献血推進団体との連携事業	継続	各献血推進団体	通年	4回	各会場	ライオンズクラブ、天理教等との研修会を行い、連携強化と献血者を増加させる。
母体1稼働「26.5人」以上とする。	母体採血の強化	継続	全年齢層	通年	310回	島根県赤十字血液センター	毎月、母体誘導キャンペーンを実施して献血者を確保する。(誕生日、大学生、おてもなし他)

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

岡山県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 75,000×6.4%(推進計画2014) =4,800人	固定施設限定キャンペーン	新規	固定施設周辺の大学生・高校生・専門学生	4月～3月			学生連盟のキャンペーンとタイアップして固定施設の場所をPRするとともに、周辺の大学・高校・専門学校にポスター、チラシを持参して固定施設に誘導する
	高校献血	継続	高校生	4月～3月	12	県内各高校	近年減少傾向にある若年層の献血者を確保するため、出前講座による普及啓発と併せ積極的に校内献血実施を働きかける
	大学献血	継続	大学生	4月～3月	45	県内各大学	近年減少傾向にある若年層の献血者を確保するため、大学当局へ積極的に献血実施を働きかける
20代の献血者及び献血率の目標値 199,000×8.4%(推進計画2014) =16,716人	固定施設限定キャンペーン	新規	固定施設周辺の大学生・専門学生	4月～3月		血液センター 献血ルーム	学生連盟のキャンペーンとタイアップして固定施設の場所をPRするとともに、周辺の大学・専門学校にポスター、チラシを持参して固定施設に誘導する
	大学献血	継続	大学生	4月～3月	45	県内各大学	近年減少傾向にある若年層の献血者を確保するため、大学当局へ積極的に献血実施を働きかける
その他の目標値	赤十字出前講座	継続	高校生 他	4月～3月	30	県内各高校 等	実施にあたり、県支部とタイアップしてAED講習と併せて行う。高校のみならず、大学や地域イベント等での開催も視野に入れる
	夏休み親子見学会	継続	小学5、6年生及び保護者	7月下旬	14	血液センター	県内各小学校に参加依頼文・チラシを郵送し参加者の募集を行う。併せてHPによる参加者募集も行う

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
未実施団体に対し、15社新規登録を行う	献血協賛企業確保対策(未実施協力団体)	継続	未実施団体	4月～3月		県内各未実施団体	現在、献血未実施である団体を訪問し、献血への理解を頂くとともに、実施を依頼し協力企業数の底上げを図る
休眠協力団体に対し、10社に献血実施の依頼を行う	献血協賛企業確保対策(休眠協力団体)	継続	休眠協力団体	4月～3月		県内各休眠協力団体	現在、休眠状態である協力団体を訪問し、掘り起こしを行うことで協力企業数の底上げを図る

岡山県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値	メール応諾1,000名以上、新規会員2400名	継続	複数回クラブ会員	4月～3月			引き続き、血液不足時の献血要請だけでなく通常時にも協力いただけるよう定期的な依頼を行う
	ハガキ要請による応諾12,000人以上	継続	同一会場での過去献血者	4月～3月			同一献血会場での過去献血者へハガキによる要請を行い、20%以上の応諾を目指す
	年1回協力の10団体以上に対して複数回実施へ移行する	継続	年1回の協力団体	4月～3月			協力団体へ献血実施の依頼等で渉外活動を行う際、複数回協力いただけるよう要請する

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
固定施設での400mL献血者数を1,000名増加する	固定施設における全血献血の確保事業	継続	移動採血での400mL献血協力者、固定施設周辺の団体	4月～3月			ア. 固定施設限定キャンペーン及び移動採血時の固定施設への誘導チラシを配布し、持参された方対象のキャンペーンを実施し、固定施設での400mL献血者の確保に努める
血小板成分献血の実献血者を4,500人確保する	固定施設における血小板献血の確保事業	継続	固定施設周辺の団体	4月～3月			岡山市内の大学・専門学校等に血小板呼びかけのポスター掲示、チラシの配布を依頼し、必要に応じて送迎を実施し安定的な血小板献血協力者の確保に努める

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

広島県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血率6.4%(6,952人) (平成22年度国勢調査16~19歳人口108,632人)	献血セミナー	継続	小中高生	平成26年4月~平成27年3月	30回	各学校	広島作成の推進用DVDの視聴やクイズなどの演習を行い血液の重要性を感じてもらおう。
	高校学内献血	継続	高校生	平成26年6月・10月~1月	22回	高校	県内の高校で献血を実施することにより、献血の必要性の理解と協力を得る。
	学生献血キャンペーン	継続	街頭	平成26年8月・平成27年1月	2回	献血会場	JRC加盟校の学生の献血呼びかけにより、幅広い年齢層に献血の理解と協力を得る。
20代の献血者及び献血率の目標値 献血率8.4%(23,940人) (平成24年度20~24歳135,000人+25~29歳150,000人=285,000人)	献血セミナー	継続	大学生	平成26年6月・12月	2回	血液センター	学生献血キャンペーン実施前に献血セミナーを開催し献血への思想普及を図る。
	大学学内献血 (大学学内献血者による自分へのはがき記入)	継続	大学生	通年	50回	献血会場・各大学	大学内で献血を実施し、同世代(大学生ボランティア)から同世代への働きかけ(呼びかけ)により、献血の理解と協力を得る。また、学内献血時、次回学内献血400mL目標額に自分への要請はがきを記入してもらい次回実施時に血液センターから送付する。
	学生献血キャンペーン	継続	街頭	春3回・夏3回・秋1回・冬3回	10回	献血会場	大学生ボランティアの献血呼びかけにより、幅広い年齢層に献血の理解と協力を得る。
その他の目標値 ・夏休み親子見学会参加者500人 ・若年層の献血ルーム周知作品展示校 受入件数 2件	なるほど献血教室	継続	小学校高学年	7~8月	17回	血液センター	県内の児童を中心に「赤十字プラザ」において献血について見て触れて学ぶ見学会を開催する。
	アートフェスティバル(Art Festival)	新規	各種学校	平成27年2月~平成27年3月	1か月	本通出張所	学生の作品展示会を行うことで学生ら若年層の来所を促し献血協力へ繋げる。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規サポーター30団体確保	献血協賛団体確保対策	継続	協賛未加入団体企業	通年	随時	各企業	企業等において渉外活動時に加入をお願いし、協賛団体増加を図る。
各種ボランティア団体研修12回	各種ボランティア団体研修	継続	各団体、協会等	平成26年4月~平成27年3月	12回	血液センター等	ボランティア団体に対し、研修会を開催し献血の知識と重要性を再認識していただき、献血者確保への協力をいただく。

広島県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 ・複数回献血クラブ新規会員数 5,700人 ・突献血者数 77,000人	複数回献血クラブ「eハート」会員募集	継続	献血者	通年	随時	献血会場	複数回献血クラブ会員募集の広報活動を行うとともに、採血現場における会員募集を実施する。
	必要な献血への啓発対策として献血ポイント制度	継続	献血者	通年	随時	献血会場	献血者確保の総合対策として、複数回献血の促進のためのポイントカードを配布し、献血意欲を促進させ、年度内複数回献血者を増加させる。献血ごとの処遇品を廃止し、ポイント付与キャンペーンまたはイベント等により献血者処遇を行う。
その他の目標値 ・AB型有効登録者 1,965人 ・血小板献血要請応答率 28% ・2回目献血の応答率20% ・ルーム予約献血者数5,000人	AB型登録者確保	継続	2年以内献血者	通年	随時	献血会場	突献血者22,000人のうちのAB型有効登録者数を平成28年度までに2,800人とするを目標にAB型登録を強化する。
	誕生日要請	継続	血小板成分献血者	平成26年4月~平成27年3月	12回	献血ルーム	過去1年間の血小板献血者の誕生日に、メールを送付(はがき送付は廃止)し、献血協力者の再来を促す。
	2回目献血の推進	継続	初回・新規献血者	平成26年4月~平成27年3月	通年	献血会場	新規・初回献血者に次回献血可能時が近づくと血液センターからはがきを送付し、献血協力者の再来を促す。
予約献血の推進	継続	献血者	通年	平日	献血ルーム	平日、早期時間帯での血小板成分献血者の確保及び400mL献血者の確保を行う。	

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
1稼働あたり400mL献血者60人	1稼働あたりの稼働強化対策	継続	移動献血	通年	1147回	全稼働数	事前広報や渉外活動を強化、要請方法や団体からの各種団体の協力を得て特に過疎化が進む地域域献血の稼働率を注視して職域、学域献血と併せて進捗管理し、PDCAサイクルを回す。
はじめての複数回献血者によるメッセージ1,000点	県(県)民の献血(県)民による献血(県)民のためのメッセージ募集	新規	初回・最後の献血者 複数回献血者	通年	25回	紙屋町出張所	対象者ごとにテーマを設けたメッセージを募集し、メッセージ集を作成、献血推進団体、医療機関及び県民に向けた献血思想普及資料とする。
見学会来訪者 1,500人	「献血」がわかる！ 体験型見学会スペース「赤十字プラザ」の活用	継続	見学会グループ	通年	随時	血液センター	献血推進団体等グループ見学会を推進し、献血や輸血血液に関する知識や赤十字活動について楽しく学ぶことができる施設を県民に周知し、献血思想普及を図る。
栄養相談または健康相談 25回実施	献血者健康増進事業	継続	献血者	平成27年1月~平成27年2月	25回	固定施設 移動献血会場	管理栄養士、栄養相談医師による健康相談を実施する。
新規HLA登録者1,530人	新規HLA登録者の募集	継続	血小板成分献血者	通年	通年	固定施設	血小板成分献血者に登録を依頼する。
紹介献血者 180人	紹介献血の推進	新規	各団体、協会等	通年	通年	献血会場	各団体や協会等に「献血紹介カード」を配布していただき、その団体職員等からの発信により献血協力を促す。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

山口県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値: 6.4%(3,310人) (51,718人×0.064)	LOVE in Acion 山口 腕まくりプロジェクト	継続	10代・20代の献血協力者	通年	6,000	「腕まくりポイントカード」	献血終了後ポイントカードを発行し、次回献血日に記念品贈呈
					3,000	「腕まくりメール」	固定施設協力者に対してDMIによる要請。固定周辺居住者に対して期間限定で来場を誘導する。複数回登録者にはメールで依頼。
52回					「フエム山口」による情報番組	「腕まくりハートフルリレー」若年層リスナー向けの献血啓発番組。	
30校					腕まくり高校献血増加計画	高校献血実施校を30校まで増加させる。	
20代の献血者及び献血率の目標値: 8.4%(10,000人) (123,000人×0.084)	腕まくりプロジェクト	継続	10代・20代	通年	25回	腕まくり大学献血出店作戦	大学献血での献血者確保のため、学生ボランティア組織と連携し献血当日に手作り出店を設置し、学内献血の活性化を図る。
35回					各学校	各学校に赴き、「血液」「輸血」の知識を中心とした講座を開催。	
3日					血液センター	小学生を対象に「血液」「輸血」「献血」及び「赤十字の活動」に	
その他の目標値	献血出前講座	継続	小学生・中学生・高校生・大学生・その他学生	通年	35回	各学校	各学校に赴き、「血液」「輸血」の知識を中心とした講座を開催。
	赤十字一日体験教室	継続	小学性及び保護者	8月	3日	血液センター	小学生を対象に「血液」「輸血」「献血」及び「赤十字の活動」に
	献血読本作成・配布 「10代・20代いっしょに献血」キャンペーン	新規	中学生・高校生	2~3月	-	-	献血についての冊子を作成し、県内中学校、高校等に配布で来所された献血者のひとりが10代・20代の場合、記念品を贈呈。

山口県赤十字血液センター

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
150社	献血協賛企業活動推進事業 (献血サポーター募集)	継続	献血協力企業・団体	通年	200		①ホームページによる募集
					30		②推進担当者による協力団体への個別訪問
					500		③各協力団体への説明会・研修会での募集
					3	未定	④協力団体への文書による募集
		新規	献血協力団体	6~9月	3	未定	ライオンクラブ等協力団体との意見交換会

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 新規会員登録者数 1,500人	複数回献血協力者確保事業	継続	年2回以上の協力可能者	通年	25,000部		①クラブ情報誌の作成及び配布
					25,000部		②新規会員登録用リーフレット作成及び配布 ③血液不足時での緊急要請

山口県赤十字血液センター

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
	学生献血ボランティア育成事業	継続	大学生、専門・専修学生	通年	-	各会場	①献血ルームの実施 ②統一街頭献血キャンペーン ③学生献血推進協議会役員会開催 ④中四国学生献血推進協議会代表委員会及び役員会開催
400mL献血者数: 1,042人 1稼働当たりの400: 61.2人	「愛の血液助け合い運動」月間イベント	継続	献血者 県民	7~8月	13回	各会場	①県内13市に於いて地域に密着した献血イベント開催 ②イベント用ノベルティ(うちわ)作成 ③県栄養士会による健康相談実施
平成25年度実績を上回る ・400mL献血者数 ・1稼働当たりの400	「はたちの献血」キャンペーンイベント	継続	献血者 県民	1~2月	8回	各会場	①県内8地区に於いて地域に密着した献血イベント開催 ②県栄養士会による健康相談実施
平成25年度実績を上回る ・1稼働当たりの400 ・計画本数に対する400・成分達成率	クリスマス献血キャンペーン	継続	献血者	12月	2週間	全施設	クリスマスグッズ進呈
平成25年度実績を上回る ・1稼働当たりの400 ・計画本数に対する400・成分達成率	ゆく・くる年キャンペーン	継続	献血者	12~1月	2週間	全施設	年末年始グッズ進呈
	ラジオによる広報	継続	県民	通年	-	-	ラジオ媒体を利用した広報、スポーツ広告
	モーニング献血キャンペーン	継続	血小板献血者 新規献血者	夏・冬期(各2ヶ月)	2回	献血ルーム	平日の午前中の献血者確保。記念品進呈
事前予約率65%以上 ・計画本数に対する400・成分達成率	GWキャンペーン	継続	血小板献血者	4~5月	3週間	固定施設	血小板献血者に記念品贈呈
100%以上 ・計画本数に対する400・成分達成率	夏季キャンペーン	継続	血小板献血者 400mL献血者	8月	2週間	母体	お盆から8月末の平日献血者に記念品贈呈
100%以上 ・計画本数に対する400・成分達成率	夏場の献血者サービス	継続	献血者	6~9月	3ヶ月	母体	アイスクリーム提供。
100%以上 ・計画本数に対する400・成分達成率	バレンタイン献血キャンペーン	継続	血小板献血者 400mL献血者	2月	2週間	固定施設	チョコレート進呈
平成25年度アンケート認知度 24.3%以上 ・計画本数に対する400・成分達成率	世界献血者Dayキャンペーン	継続	献血者	6月	2週間	固定施設	アンケートを実施、世界献血者Dayの認知を図る
100%以上 ・計画本数に対する400・成分達成率	20万人達成キャンペーン	新規	献血者 県民	未定(10月)	1ヶ月	献血ルーム	ルーム20万人達成にあわせ広くPRする

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

徳島県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血率を8.4%にする	学内献血	継続	高校生	学校行事に合わせて	20回	各高等学校内	学内献血実施校数を増やし10代の献血者を確保する。
	マチ★アソビ	継続	若年層	5月、10月	2回	阿波銀プラザ	アニメイベント参加者に献血協力をいただく。
	JRC 献血キャンペーン	継続	若年層	3月	1回	JR徳島駅前	JRC部員による献血キャンペーンを実施し、同世代の献血者にPR
20代の献血者及び献血率の目標値 献血率を8.7%を維持する	キャンパス献血	継続	大学生	各大学の行事に合わせて	1大学5回位	各キャンパス	キャンパス献血により若年層を確保する。
	クリスマス献血 キャンペーン	継続	若年層	12月	1回	献血ルーム、移動採血	学奉による献血キャンペーン
	バレンタイン献血 キャンペーン	継続	若年層	2月	1回	献血ルーム、移動採血	学奉による献血キャンペーン
その他の目標値 ゼミナール参加者220名以上 セミナー回数15回以上	血液ゼミナール	継続	小学生・保護者	夏休み期間中	12回	血液センター	センター近隣の市町村の小学校に、募集チラシを配布し参加者を募集し、センター見学及び学習会を実施
	献血セミナー	継続	小・中・高校生	学校行事に合わせて	15回	各学校にて	若年者を対象とし献血の重要性を伝え、今後の献血予備軍とする。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠企業・団体等を10社増やす。	献血協力企業・団体増加対策	継続	企業及び団体	通年		各事業所等	新規事業所の開拓及び休眠企業・団体等の掘起こしを行う。
献血サポーター企業・団体を5社増やす。	献血協賛企業推進対策	継続	献血協賛企業	通年		各事業所等	献血に協力いただいている企業・団体を訪問し、献血サポーターへの参加を依頼する。

徳島県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 モバイル登録者を累計3,000名とする。	複数回献血者確保事業	継続	未登録献血者	通年		主にキャンパス内	会員募リーフレットを活用し、新規登録者数増加を図る。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
応諾率33%を目標とする。	移動採血先DM	継続	移動採血先地域住民	通年	12回	主に地域を予定	移動採血場所にて以前協力してくれた献血者に対して、葉書依頼を行う。
30クラブ全クラブの献血協力を目標とする。	ライオンズクラブ(8・9R)合同献血研修会	継続	ライオンズクラブ会員	7~9月	1回	徳島市内ホテル	各ライオンズクラブの会長並びに環境・保健福祉・アラート委員を集め、献血の現状の説明及び実績の良いライオンズクラブより事例発表を行う。
平成25年度の献血者数以上を目標とする。	広報事業	継続	一般	7月、1月、2月	3回	各報道機関	「愛の血液助け合い運動」と「はたちの献血」キャンペーン時にTV、ラジオ、新聞等の広報を実施。
奉仕団員数の増加を目標とし活動の活性化を図ること、また、各キャンペーンにおける若年層献血者増につなげる事を	学生奉仕団総会	継続	学生奉仕団員	3月	1回	血液センター会議室	今年度の活動報告及び反省と来年度の目標並びに役員のリニューアルを行う。
応諾率16%を目標とする。	誕生日献血	継続	地域住民	通年	12回	主に固定施設近隣地域	献血履歴がある献血者に対して、誕生日ごとに献血者を1,000名程度検索し、依頼葉書を発送する事により成分・全血献血者の確保を図る。・要請に応諾し来所献血協力をいただいた方に記念品を贈呈する。
移動採血車においては1稼働50人以上を目標とする。 ・献血ルームにおいては昨年度の人数以上を目標とする。 移動採血車においては1稼働50人以上を目標とする。 ・献血ルームにおいては昨年度の人数以上を目標とする。	春の献血キャンペーン	継続	一般	4月	1回	献血ルーム及び量販店等移動先	献血ルーム及び移動採血車でキャンペーンを実施、学生献血ボランティアによる献血PR、献血者の誘導、接遇等を行う。
移動採血車においては1稼働50人以上を目標とする。 ・献血ルームにおいては昨年度の人数以上を目標とする。	夏の献血キャンペーン	継続	一般	9月	1回	献血ルーム及び量販店等移動先	献血ルーム及び移動採血車でキャンペーンを実施、学生献血ボランティアによる献血PR、献血者の誘導、接遇等を行う。
平成25年度の固定施設での献血者数357名以上を目標とする。	世界献血者デーキャンペーン	継続	一般	6月	1回	固定施設	各報道機関へニュースリリース配信を行うとともにキャンペーン期間中、固定施設にて献血いただいた方に記念品を贈呈する。
日本ラクロス協会中四国地区での統一キャンペーンの可能性があり、その場合は統一の目標に合わせる。	ラクロス献血キャンペーン	継続	一般	交渉中	1回	徳島駅前周辺	徳島大学ラクロス部の学生がJR徳島駅前にて通行人に対しティッシュを配布し、献血を勧誘するとともに学生自身も合間を見て献血に協力してもらう。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

香川県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 2208人/34500人 6.4% (平成22年度国勢調査における16歳～19歳の都道府県別人口)	高等学校献血	継続	高校生	通年	10回	高等学校	県内公立、私立高等学校で400mL献血(目標450名)
	若年層献血セミナー	継続	高校生	通年	10回	高等学校	血液センター職員による出前セミナー(目標10校1000人)
20代の献血者及び献血率の目標値 7740人/86000人 9.0% (総務省統計局の20歳代の平成24年10月1日現在の都道府県別人口)	大学・専門学校献血	継続	大学・専門学校生	通年	30回	大学・専門学校	県内の大学、専門学校で400mL献血(目標1200名)
	若年層献血セミナー	継続	大学・専門学校生	通年	5回	大学・専門学校	血液センター職員による出前セミナー(目標5校500人)
その他の目標値	小中学校献血セミナー	継続	小学校、中学生	通年	10回	小学校・中学校	血液センター職員による出前セミナー(目標1000名)
	小学生親子見学教室	継続	小学校5,6年生、保護者	8月	7回	血液センター	7日間、140組280名

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血新規協賛企業・団体 +20	新規協賛企業・団体の推進	継続	献血ルーム及び移動採血場所の周辺の企業・団体	通年	随時	移動採血、献血ルーム	献血ルーム周辺及び移動採血場所周辺の企業、団体に対してFMラジオ等での献血協賛を募ることで、それぞれの1稼働増に寄与する(目標+20社)

香川県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者会員登録者の目標値 +1000名	複数回献血者の確保対策	継続	献血者	通年	随時	移動採血、献血ルーム	会員数を年間+1000名、特に若年層献血者への推進強化を図るため大学等の学域献血にイベントの専従職員を付ける
はがき、電話による献血依頼要請の応答率の目標値 25%	献血依頼要請事業	継続	献血者	通年	随時		はがき、電話による献血依頼の、応答率を25%を目標とする(平成24年度:22.5%、平成25年度上半期23.7%)

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
外部団体の血液センター見学10団体	血液センター見学受け入れ	継続	外部団体	通年	10回	血液センター	地区自治会等の外部団体の血液センター見学を受け入れ、献血セミナー、製剤部門、供給部門、採血バス内等の見学を実施する
献血ルームの1稼働数 53人	献血ルーム活性化事業	継続	献血者	通年		献血ルーム	献血ルームで年間を通してイベントを開催し、ルームの活性化を図り、1稼働53人を目標とする。
ライオンズクラブの協力回数130回、献血者数8500人、1稼働65人	団体連携強化事業	継続	ライオンズクラブ	通年	130回	移動採血、献血ルーム	県内全35のライオンズクラブと協力して献血推進を図り、協力回数130回、献血者8500人、1稼働65人を目標とする
1日センター所長、高松市民献血の日行事の献血ルーム献血者数90人	行政連携強化事業	継続	行政機関	7月、8月と1月	3回	県庁舎、商店街	優秀な献血協力団体・推進団体の表彰伝達式、1日血液センター所長行事、高松市民献血の日イベントを行政機関と連携して実施することで、献血啓発・推進を図る

受付人数80名以上と献血者65名以上を目標とする。	青年赤十字奉仕団 献血キャンペーン	継続	献血者	1月	1回	フジ夏目店	大型店舗において移動採血車1台により青年赤十字奉仕団員により献血協力を呼び掛ける。ポケットティッシュや風船を配付しながら県民に夏場の献血協力を呼び掛ける。
献血ルーム月間目標約38人×12ヶ月=460人	HLA登録者確保	継続	献血者	4月~3月	通年	献血ルーム	月38名目標とし年間460名以上の登録者数となるよう推進する。
平日午前中採血目標本数5,600本	モーニングサービス	継続	献血者	年間通して平日実施	平日	大街道出張所	翌日製造分(血液送り便目(12:30)までに血小瓶計画数を可能な限り確保する必要があり献血者の皆さんに午前中での協力を願うために実施する。
水曜日前午前中採血目標数1,070本	クイックマッサージ	継続	献血者	年間通し毎週水曜日実施(四半期ごとで実施曜日変更)	週1日	大街道出張所	一週間の中でも血小瓶計画数が多い水曜日が商店街休みで人通りが少なく確保に苦慮するため水曜日限定サービスで実施し血小瓶計画数確保につなげる。
400mL献血者200名(月100名)	400mL献血強化キャンペーン	継続	献血者	10月~11月	1回	大街道出張所	献血ルームで献血して頂いた方へは依頼ハガキを送付、メール会員へはメールにて400mL献血での協力を呼びかける。協力頂いた方へはキャンペーン粗品をお渡しする。
実施2日間で400mL献血者110名。	母の日献血	継続	献血者	5月	1回	大街道出張所	母の日にキャンペーンを実施。ホームページ・複数回会員へのメール配信・ポスター掲示・事業所へチラシ配布による広報実施。母の日にちなんだ粗品を推進することにより献血者を募り月間計画本数確保につなげる。
実施2日間で400mL献血者110名。	父の日献血	継続	献血者	6月	1回	大街道出張所	父の日にキャンペーンを実施。ホームページ・複数回会員へのメール配信・ポスター掲示・事業所へチラシ配布による広報実施。父の日にちなんだ粗品を推進することにより献血者を募り月間計画本数確保につなげる。
400mL献血者110人、成分献血者50名 内若年層400mL30名、成分献血20名	クリスマス献血キャンペーン	継続	献血者	12月24日~12月25日	1回	大街道出張所	クリスマスにキャンペーンを実施。ホームページ・複数回会員へのメール配信・ポスター掲示・事業所・ルーム周辺各種専門学校へチラシ配布による広報実施。クリスマスにちなんだ粗品を推進することにより献血者を募り月間計画本数確保につなげる。
年末年始9連休運用割り当て分の確保	干支配布キャンペーン	継続	献血者	12~1月	1回	大街道出張所	年末年始における血小瓶献血者確保及び400mL献血者確保を目的とし実施。
400mL献血者35人、成分献血者25名	おしるこサービス	継続	献血者	2月	1回	大街道出張所	赤十字奉仕団の方の協力を頂き寒い時期の献血者減少を抑え月間計画数確保につなげる。
400mL献血者150人、成分献血者80名 内若年層400mL45名、成分献血30名	バレンタインデー献血キャンペーン	継続	献血者	2月	1回	大街道出張所	バレンタインデーにキャンペーンを実施。ホームページ・複数回会員へのメール配信・ポスター掲示・事業所及び献血ルーム周辺専門学校へチラシ配布による広報実施。バレンタインデーにちなんだ粗品を推進することにより若年層献血者を募り月間計画本数確保につなげる。
400mL献血者150人、成分献血者80名 内若年層400mL45名、成分献血30名	ホワイトデー献血キャンペーン	継続	献血者	3月	1回	大街道出張所	ホワイトデーにキャンペーンを実施。ホームページ・複数回会員へのメール配信・ポスター掲示・事業所及び献血ルーム周辺専門学校へチラシ配布による広報実施。ホワイトデーにちなんだ粗品を推進することにより若年層献血者を募り月間計画本数確保につなげる。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

高知県赤十字血液センター

7. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的なかつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 2,222人 献血率 8%	学内献血	継続	学生・一般	通年	15回	実施校構内	学域の入学時に移動採血車を配置し、学生ボランティアと啓発と献血を実施。(事前広報の強化)
	はたちの献血	継続	学生・一般	1月~2月	1回	ショッピングセンター	県庁医事業務課・学生ボランティアとともに啓発と献血を実施。
	バレンタイン献血	継続	学生・一般	2月	バス1回 献血ルーム1回 (2月~5日間)	ショッピングセンター 献血ルーム	移動採血は、学生ボランティアによる啓発と献血を実施。献血ルームは、依頼ハガキを送付し、協力者に記念品を推進。
	学生ボランティア育成 出前講座・セミナー	継続	学生	9月	適時	移動採血 学域等	学生ボランティア組織の活動強化と継続のための動員と育成
	学びのバス旅	新規・継続	小中学生親子 高等学校生徒会	7月~8月	2回	BBC見学	各年代の学生に対して出前講座・セミナーの機会を設け献血啓発を行う 25年度実施した小学生と親子ツアーを拡大し、小学生と中学生いずれかの親子による見学ツアー、また、新規として高等学校生徒会メンバーを募集し同様のツアーによる献血についての学習を目的
	初回献血者確保	継続	学生・一般	通年		大学・各種専門学校 各献血会場	学域を中心に初回献血者の確保を強化。(事前広報等) 初回者献血キャンペーンの実施。 初回者中心の献血実施。 初回者・初回者の紹介者に記念品進呈。 広告宣伝等の広報活動の実施。 高等学校等での出前講座を実施し、卒業後の献血推進強化を図る。
20代の献血者及び献血率の目標値 6,700人 献血率 11%	(上記10代の事業と同じ)						
	初回献血者確保	継続	学生・一般	通年		大学・各種専門学校 各献血会場 (企業・各事業所等をきむ)	学域を中心に初回献血者の確保を強化。(事前広報等) 初回者献血キャンペーンの実施。 初回者中心の献血実施。 初回者・初回者の紹介者に記念品進呈。 広告宣伝等の広報活動の実施。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的なかつ詳細に記載すること)
新規登録企業・団体5団体開拓	献血協力団体との連携強化	継続	県内事業所等	通年		移動採血に係る団体	渉外活動において、登録団体の確保と新規5団体の開拓に努める。
ライオンズクラブ協力率20% 献血推進団体10団体との連携 献血協力団体・事業所等の社会貢献度を公にし継続的な献血と拡大を目標とし、25年度以上の協力実績に繋げる。	献血推進団体との連携強化	継続	献血推進団体等	通年	3回	中央公園・各事業所等	ライオンズクラブ・ロータリークラブ例会、献血研究会に出席しての情報提供及び 献血推進強化を依頼。
	情報誌による広報	新規	購読者	通年			毎月発行される情報誌の1頁に年間を通して血液に関する情報を掲載し献血推進を図るとともに、献血協力団体・事業所等の協力実績や活動を紹介し継続した連携を図る。

高知県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
毎月誕生日を迎える300名にハガキ要請 応答率25%	誕生日献血	継続	各月に誕生日を迎える献血者	通年	12回	献血ルーム	毎月、誕生日に献血ルームから献血依頼ハガキを送付し、ハガキ持参者に 記念品を贈呈。
複数回メールクラブ登録者700名	複数回クラブ登録	継続	メールクラブ未登録者	通年		全献血会場	全献血会場にて、複数回メールクラブの呼びかけを強化し、メールクラブ登録者に記念品を贈呈。
期間中1500枚ハガキ要請1カ月30人の新規複数回登録者	サマーキャンペーン	継続	献血者	7月～9月	3ヶ月	献血ルーム	献血ルームにおける夏期の献血者確保対策として献血者にアイスクリームを贈呈し、複数回献血者の確保に繋げる
要請ハガキ1000枚 応答率25%目標	クイックマッサージサービス	継続	献血ルームでの献血希望者	11月～2月	1回 (延べ40回)	献血ルーム	献血ルームにおいてクイックマッサージを実施、複数回登録に結び付ける

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
1稼働50人 期間中400人の献血者確保	ゴールデンウィーク献血	継続	献血希望者	バス 4月中旬 献血ルーム (4月29日～5月6日)	バス 1回 献血ルーム 1回(8日)	献血バス (ショッピングセンター)	(献血バス)学生ボランティアによる啓発及び献血キャンペーンの実施。 (献血ルーム)献血依頼ハガキを送付し、献血協力者に記念品を贈呈。
ハガキ応答率20%	夏期献血者確保	継続	献血希望者	7月～9月	3か月間	献血バス (ショッピングセンター) 献血ルーム	(献血バス)学生ボランティアによる啓発及び献血キャンペーンの実施。 (7月～1回、9月～2回) (献血ルーム)献血依頼ハガキを送付し、献血協力者にアイスクリームを贈呈。 地元、地方新聞への無料掲載での広報。地元情報誌への有料広告。
充足率108% 400構成比96%	冬季献血者確保	継続	献血希望者	11月～2月	4回	献血バス (ショッピングセンター)	(献血バス)冬場の血液不足を補うために学生ボランティアによる啓発及び全国統一スローガン、資材を活用しクリスマス献血キャンペーンを実施
需要に応じた安定確保	(減少期対策) 血小板確保	継続	ルームでの成分既献血者	随時(通年)		献血ルーム	血小板の減少期にハガキによる献血依頼を実施し、確保の強化に努める。 依頼ハガキにより協力いただいた方に、記念品を贈呈。
主要報道機関への取材要請を行い県民への献血広報する	1000回献血記念	新規	1000回到達献血者	9月ごろ	1回	未定	献血1000回到達者に対する感謝の意を表すとともに、県民への献血広報
移動献血車による全血確保割合80%の確保を目指す	ラジオによる広報	新規	ラジオ聴取者	通年			地元ラジオ局2社による放送で移動献血バスの献血実施場所及びイベント・通不足状況を放送する

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

福岡県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 12,194人 6.4%	広報	継続	高校・専門学校・大学生	10～3月	6	福岡・北九州市内	フリーペーパーによる献血の呼び掛け
	キャンペーンの強化	継続	10代	8～3月	10	福岡県内	キャンペーン献血実施時にプロスポーツ団体のマスコットキャラクターによる献血呼び掛け
	高校献血推進	継続	高校生	4～3月	1	福岡県内	随時職員による高校の徹底的な推進を行い、新規実施校を15校増加
20代の献血者及び献血率の目標値 46,559人 8.4%	広報	継続	大学生・社会人	10～3月	6	福岡・北九州市内	フリーペーパーによる献血の呼び掛け
	広報	継続	大学生	4～3月	1	福岡県内	大学の食堂や売店にエコ箸(箸袋に広告掲載)を設置し、献血を呼び掛ける
	キャンペーンの強化	継続	20代			福岡県内	キャンペーン献血実施時にプロスポーツ団体のマスコットキャラクターによる献血呼び掛け
	専門学校推進	継続	専門学校生				随時職員による専門学校の徹底的な推進を行い、専門学校生を献血ルームへ誘導
その他の目標値 73回	献血セミナーの開催	継続	小・中・高・大学生及び社会人	4～3月	73	福岡県内	献血セミナーを開催し、将来の献血者を育成するとともに、高校献血や企業の献血につなげる

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
5社	入社式や研修時の献血及び献血セミナーの実施	継続	親入社員等の若年層	4. 5. 9. 10月	2回	(株)ホンザキほか4社	入社式や研修時に親入社員等の若年層を対象とした献血や献血セミナーを行い、若年層の献血者を確保する

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 15,000名	複数回献血クラブ 新規登録強化	継続	未登録者 (大学・専門学校 生)	5、7、11月		大学及び専門学校献血会 場	左記の献血場所での接遇時に動誘員を1名増員し登録者 増加を図る。 次回の献血予定日が決定する登録者にメールにて要請す る。
	複数回献血ポイント	新規	固定施設献血者	通年		固定施設	複数回献血ポイントカードを作成し、献血種類・依頼応諾 などにポイントを付与し、特定ポイントに到達すると処遇品 を提供する。
	また来てねキャンペーン	継続	大学・専門学校学生	10月～3月		大学及び専門学校献血会 場	学内献血時にカードと処遇品(蛍光ペン1本)を渡し、複数 回の献血を促す。複数回献血時はカードを提示してもら い、処遇品(蛍光ペン2本)を渡し、複数回献血者を増加さ せる。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
180,80人	初回献血者紹介キ ャンペーン	継続	10～20代	4月～3月	1	大学及び専門学校献血会 場	学生献血推進協議会メンバーや献血者から献血経験のな い方を紹介してもらいキャンペーンを実施して、初回者半 10代を64%⇒70%、20代を19%⇒25%まで引き上げる
14大学→18大学	ボランティア組織の 拡充(大学)	継続	大学生	4月～3月	1	大学	学生推進協議会等のボランティア組織を拡充する
0校→4校	ボランティア組織の 拡充(専門学校)	継続	専門学校生	4月～3月	1	専門学校	学生推進協議会等のボランティア組織を拡充する

-112-

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目 標値 6.4% 16歳～19歳人口 34,560人×6.4%=2,212	高等学校における 献血セミナー	継続	高校生	通年	10	学内	県・教育委員会と協力し実施校及び未実施校に開催の働きか けを行う。
	大学・短大等におけ る献血セミナー	継続	大学・短大生等	4月・10月・12月	8	学内	学生ボランティアと協力しながらチラシ等の配布を行う。また、 けんけつちゃんの着ぐるみを活用して大学生等が献血しやす い雰囲気を作る。
	若年層献血キャン ペーン	継続	10代の若年層	年2回	2	献血プラザさが・移動採血	若年層をターゲットにキャンペーン期間を設定し、特別記念品 を配布する。
	広報における献血 啓発 日赤佐賀支部との コラボ	継続	10代の若年層	通年	2	献血プラザさが・移動採血	啓発番組作成及びCMによる広報、啓発用リーフレット/作成
20代の献血者及び献血率の目 標値 8.4% 20歳～29歳人口 79,000人×8.4%=6,636	高等学校における 献血セミナー	継続	大学・短大生等	4月・10月・12月	8	学内	学生ボランティアと協力しながらチラシ等の配布を行う。また、 けんけつちゃんの着ぐるみを活用して大学生等が献血しやす い雰囲気を作る。
	若年層献血キャン ペーン	継続	20代の若年層	年2回	2	献血プラザさが・移動採血	若年層をターゲットにキャンペーン期間を設定し、特別記念品 を配布する。
	広報における献血 啓発 日赤佐賀支部との コラボ	継続	20代の若年層	通年	2	献血プラザさが・移動採血	若年層をターゲットにキャンペーン期間を設定し、特別記念品 を配布する。
	日赤佐賀支部との コラボ	継続	20代の若年層	通年	12	未定	各種講習会に併せての献血啓発活動
その他の目標値 学生ボランティア新メンバー5名 以上の確保	若年層献血セミナー	継続	大学・短大生等	4月	1	学内	大学・短大生を対象に新学生ボランティア勧誘のための献血 セミナーを血液センターで行う。

-113-

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
年間4回	協力団体並びに推 進団体の紹介	継続	企業及び団体	4月・7月・10月・1月	4回	-	佐賀県の赤十字情報誌に各企業等の献血活動紹介や献血担 当者の声を掲載する。
献血サポーター新規登録企業 10社以上の確保	献血協賛企業活動 推進事業	継続	企業及び団体	通年	-	各企業・団体	各企業及び献血協力団体へパンフレット・規約等を持参して推 進する。
各企業での献血者数を前年比 5%以上増加させる。	献血協賛企業活動 推進事業	継続	企業及び団体	通年	-	各企業・団体	各企業及び献血協力団体等の担当者に血液事業の現状等を 説明して推進を行う。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

佐賀県赤十字血液センター

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 1,900名	複数回献血協力者 確保対策	継続	複数回献血者	通年	—	献血プラザさが	複数回献血クラブ会員登録方法を記載したパンフレットを複数回献血協力者で未登録の方に配布する。サイトスタンプを利用促進して登録の簡便化を図る。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者30%増	複数回献血協力者 確保対策	継続	献血者	通年	—	献血プラザさが	複数回献血クラブ会員あてに献血者減少期を中心に複数回献血への協力を呼び掛ける。処遇時に次回献血可能日をお知らせして年2回以上来ていただけるよう推進する。
献血紹介カードの活用 1,000枚配布、10%以上の確保	献血紹介カード普及事業	新規	献血協力団体	通年	—	献血プラザさが・移動献血	献血協力団体の方々に献血紹介カードを活用していただき、献血紹介先の団体実績に計上する。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

長崎県赤十字血液センター

7. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 6.4%	高校献血の推進	継続	高校生	6月～2月	34	高等学校	17歳からの400mL献血を積極的に取り組み、献血セミナーの実施も増やしていく。私立高校(男子校)に比較し公立高校の実施率が低いため、学校訪問を積極的に実施し、学校側の理解を得るよう推進を図る。また行政との連携を図りながら、一緒に学校訪問を実施する。
	献血セミナー	継続	中高生	4月～3月	5	学校又は献血会場	県内小学校396、中学校209、高校79、大(短)学10校あり、平成25年度は、献血セミナーを小学校4校、中学校1校、高校4校、大学3校で実施または予定しているが、引き続き献血セミナーの開催を増やすため、高校献血推進時には、校内献血に併せ献血セミナーの実施も含めて積極的に実施していく。
	献血セミナー	継続	大学及び専門学校生	4月～3月	2	学校又は献血会場	学生ボランティアの育成強化を行う。キャンパス内での献血協力やボランティア募集のためのチラシ配布を行う。西九州地区で佐賀センターとの合同ボランティア研修会を今後も継続していく。
20代の献血者及び献血率の目標値 8.4%以上	大学献血の推進	継続	大学生	4月～3月	—	大学、短大	キャンパス献血では、専用の若年層用のポスター、チラシを作成し若年層へ献血を訴えていく。また大学内部に献血推進組織を立ち上げ、大学と連携しながら学生への献血推進を図る。SNSを利用し若年層に献血啓発を図っていく。
	専門学校等	継続	専門学校生等	4月～3月	—	専門学校、教育機関等	ビジネス専門学校、警察学校、看護学校、自衛隊教育隊等移動献血車を配車して積極的に献血の協力を呼びかけ、
その他の目標値 22.7%以上	10代、20代の献血 構成比率の向上	継続	警察学校等	4月～3月	—	学校又は献血会場	平成25年度上半期10、20代献血者の構成比率は、21.7%であり、平成24年度の22.7%と比較して年々減少傾向にあるので、自衛隊、警察学校等の教育訓練期間中の学生への献血推進を強化していく

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
30社以上	新規又は掘り起し 団体への献血推進	継続	企業又は団体	通年	—	固定施設及び移動採血	献血未実施企業・団体へ積極的に訪問し、血液の必要性や献血の方法について訴えていく。また、消防団等の訓練時に合わせた献血の実施についても推進していく。
50団体以上	献血協賛企業活動 推進事業	継続	企業又は団体	通年	—	—	献血実施いただいている企業、団体等にさらに登録をお願する。今後も継続して献血支援を頂くために事業活動を続けていく。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 研修会の参加人数を60名以上参加させる	複数回献血協力者 研修会	継続	複数回献血登録者	10月～11月	2回	日赤長崎県支部 佐世保出張所	ビデオ上映「ありがとう！っていい言わせて」、赤十字 健康生活支援講習(生活習慣病予防について)及びAED 講習を開催する。
	献血感謝の集い	継続	複数回献血登録 者及び献血協力 者	11月～2月	2回	シアター	献血協力者(複数回登録者)200組(400名)を映画上映 に招待し、献血セミナー実施後、映画上映を行う。
その他の目標値 年間の実績献血者で年間2回以上 の複数回献血者の割合を 33%以上にする	複数回献血協力者 依頼要請	継続	複数回献血登録 者及び献血依頼 対象者	4月～3月	随時	—	キャンペーン期間、冬場等献血者確保が困難な時期を重 点的に1年以上に協力頂いた献血者に対し、献血の依頼 を行う。年間を通じて2回以上献血する実績献血者の率を 33%以上にする。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
月10台1車平均50名以上	休日献血の拡大	継続	献血者	通年	年間120回	商業施設、お祭り等	商業施設や企業、地域のイベント等に合わせた休日献血 を拡大していく。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血率目標値⇒6.4% 献血者数⇒4,601人 (平成22年国勢調査16～19歳 人口 71,887人×6.4%)	「はじめよう献血」 キャンペーン	継続	16～19歳の方(主 に400mL献血・成 分献血対象者)	平成26年11月1日～ 平成27年4月30日	1回	全献血会場	400mL献血・成分献血にご協力いただいた方にオリジナル グッズを配布。 県内の高校生及び専門学校生を対象に、リーフレット(献 血 推進及びキャンペーン告知)を制作し、学校から全生徒に 配布をしてもらい初回献血者確保と併せて推進を図る。ま た、大学生には学生献血推進協議会を通じ、学内献血等 での周知を図る。 更に、若者向け情報誌、公共交通機関へのポスター掲示等 を行う。
	献血セミナー	継続	高校生	通年	18回(献血と 併せ18校)	県下高等学校	献血未実施校の開拓、献血セミナーを通じ採血車の配 車及び献血ルームでの献血協力を図る。
20代の献血率目標値⇒8.4% 献血者数⇒14,532人 (平成24年10月1日現在都道府 県別20～29歳人口 173,000人 ×8.4%)	「はじめよう献血」 キャンペーン	継続	20歳代の方(主 に400mL献血・成 分献血対象者)	通年予定	1回	全献血会場	400mL献血・成分献血にご協力いただいた方にオリジナ ルグッズを配布。 若者向け情報誌、公共交通機関へのポスター掲示等によ り周知を図る。また、ダイレクトメールを送付し、キャンペ ーン周知を図る。
	新成人への周知	継続	新成人	1月	1回	県下成人式会場	リーフレットを作成し、市町村を通じ新成人に配布。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポーター企業新規20社	献血協賛企業活動 推進事業	継続	企業・団体	通年			献血協力企業・団体への依頼や、情報誌等でのサポ ーター募集を通して参加団体を増やす。
県下全ライオンズクラブ研修会 (58クラブ会員120名)	献血協力団体増加 対策	継続	ライオンズクラブ 会員	9月	1回	血液センター内	献血の現状や必要性を伝え、ライオンズクラブ全体で今後 の課題や更なる推進に取り組んでいただく。
県下全保健所管内会議(参加:10 保健所、43市町村、30支所、企業 80社献血リーダー、30団体。)平 成26年度400mL目標:57,600人	献血協力団体増加 対策	継続	企業・団体	2月～3月	10回	各保健所	保健所主催により、管内の市町村及び企業の献血リー ダー・団体の献血担当者に対し、献血の現状を説明する と共に、翌年度の400mL確保目標を提示し、確保に向け更 なる推進に取り組んでいただく。

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値:平成 24年度における複数回献血協 力者30.4%⇒平成26年度 は、34.4%とし、約2,000人の複 数回献血者増を目指す。	One More 献血 キャンペーン	継続	400mL献血・成 分献血にキャンペ ーン期間中、2回以 上協力された方	平成25年10月1日 ～平成26年9月30日 平成26年9月1日 ～平成27年9月30日	1回		期間中、全献血会場において400mL献血・成分献血の協力毎にキャンペーンカ ードを1枚渡し、キャンペーンカードを2枚(献血協力2回)持参した方にオリジナ ルグッズを配布する。 生活情報誌、ラジオ等メディアを通じて周知を図り、「はじめよう献血」 キャンペーンと連動させ若年層献血者確保にもつなげる。
複数回献血クラブ会員の増 強。 平成25年度3,102人見込み⇒	複数回献血クラブ 増強キャンペーン	継続	大学生及び一般	平成26年4月～6月	10回		期間中、学内献血会場において専任職員を派遣し、学生献血推進協議会と協働の もと募集チラシ配布を行い、積極的な声掛けによる会員の新規募集を行う。また、他 献血会場においても、重点的に声掛け等を行い会員募集を行う。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

大分県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 2,848人(6.4%) ※献血可能人口 44,506人	ニュードナー献血キャンペーン	継続	主に若年者層	通年	1	献血バス・ルーム	主に若年者層を中心としたキャンペーンで、初回献血者と紹介者に記念品を贈呈する。
	献血セミナー	継続	高校生	通年	10	各学校	県内の高校を行政担当者で訪問し、献血の必要性和校内献血の実施をお願いする。
	若年層献血キャンペーン	継続	高校生・大学生等	通年	8	献血実施校	高校生・大学生等が好む処遇品を贈呈する。
	高校生リポートプロジェクト	新規	高校生	通年	1	献血バス・ルーム	高校在学中に献血2回以上協力頂いた生徒に感謝状、記念品を贈呈することにより、充足感向上と将来の献血に繋げる。
20代の献血者及び献血率の目標値 9,072人(8.4%) ※献血可能人口 108,000人	ニュードナー献血キャンペーン	継続	主に若年者層	通年	1	献血バス・ルーム	主に若年者層を中心としたキャンペーンで、初回献血者と紹介者に記念品を贈呈する。
	学推協献血サポーター	継続	学推協加盟の学生	7月	1	サッカードーム他	大分トリニータのホームゲーム時に、ピッチにてサポーター(約1万人)に向けて献血の呼びかけを行う。
	二十歳の献血街頭広報	継続	成人者	1月	1	成人式会場	成人式会場に献血に関する展示ブースを設け、新成人に献血啓発を行う。
	クリスマス献血キャンペーン	継続	学推協・地域住民	12月	1	大分BC	大分BCの敷地内にて、学推協が主催して、献血の啓発と同時に献血を実施する。また、支部や病院も参加し、赤十字事業の紹介や体験を実施する。
その他の目標値参加者100名	親子けんけつ教室	継続	小学生親子	8月	2回	献血ルーム・九州BBC	献血ルームや九州BBCを見学し、献血の必要性を理解頂き、将来の献血者の確保に繋げる。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポーターロゴマーク50社配布	献血者安定確保	継続	献血協力企業(団体)	通年	週1回	県内	地方紙の夕刊に、献血協力団体へお礼のメッセージを週1回掲載する。協力企業の社会貢献PRと、企業のイメージアップにも繋がっている。
県内企業30社参加	協力企業献血担当者九州BBC見学・研修会	新規	協力企業担当者	10月	1	九州BBC	献血をより深くご理解いただくために開催する。今後の献血者確保に期待できる。

大分県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 新規会員100名増 複数回献血者2,000名増	広報紙発行	継続	会員・年1回献血者	6・9・12・3月	4	大分BC	広報紙を年4回発行し、会員及び年1回の献血者に送付することにより、献血の理解を深め次回の献血に繋げる。
	会員募集	継続	複数回献血者	通年	-	移動献血・ルーム	QRコード入りの募集チラシを献血者へ配布する。
	献血協力依頼	継続	既献血者	通年	-	移動献血・ルーム	同献血会場での過去3年の献血者へ、DMIによる献血依頼を実施する。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血バス1車当たり400mL献血49.1人確保	ライオンズ献血セミナー及び研修会	継続	ライオンズ会員	7月・1月	2	市内会議場・九州BBC	県内ライオンズクラブ献血推進と拡大、会員の献血知識の向上と必要性の理解を図る。
献血バス1車当たり400mL献血49.1人確保	献血者安定確保キャンペーン	継続	移動献血バスの献血者	通年	5	移動献血全ての献血団体	献血者が減少する4月・9月・12月・1月・2月に献血者確保のため、通常記念品にプラスして処遇品を贈呈する。
献血バス28,420人、献血ルーム225,730人確保	マスメディアを利用した献血広報事業	継続	移動献血・ルーム	通年	12	大分県民	年間をとおしてテレビ・ラジオにより献血をPRする。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

宮崎県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 2,915人 6.4%	高校校内献血	継続	高校生	5月～2月	20回	各高校	高校における集団献血の実施
	大学校内献血	継続	大学生	4月～1月	20回	各大学	大学における集団献血の実施
	専門学校校内献血	継続	専門学校生	4月～2月	10回	各専門学校	専門学校における集団献血の実施
20代の献血者及び献血率の目標値 8,378人 8.8%	大学校内献血	継続	大学生	4月～2月	20回	各大学	大学における集団献血の実施
	専門学校校内献血	継続	専門学校	4月～3月	10回	各専門学校	専門学校における集団献血の実施
その他の目標値 2,000人 献血セミナー 高校1,500人 大学専門学校500人	献血セミナー	継続	高校生・大学生他	4月～3月	25回	高校・大学・専門学校	高校15回、大学5回、専門学校5回

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
400mL献血者 1,200人	町、総ぐるみ献血参加運動	継続	地域住民	4月～3月	20回	市町村・総合支所他	献血推進における行政(保健所・市町村)との連携の再構築を通じて献血者の増加を図る。 宮崎県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 11,000人	ハガキ要請	継続	献血者	通年	50回	献血ルーム・街頭献血	献血ルームと街頭献血会場でご協力をいただいた献血者に同会場での献血実施の際にハガキ要請を行う。
	献血ありがとうポイントカード	継続	献血者	通年		献血ルーム	献血ルームの献血者を対象にポイントカード(5回献血)で特別記念品を進呈。
その他の目標値 複数回献血者クラブ新規会員 600人	新規会員募集	継続	献血者	通年		献血ルーム・街頭献血	献血ルームと街頭献血会場でご協力をいただいた献血者に複数回献血クラブへの募集を実施する。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
PCHLA登録者240人	PCHLA登録者募集	継続	血小成分板献血者	通年			献血ルームでの血小成分板献血者を対象にPCHLA登録の推進を図る。

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

鹿児島県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値(6.2%)	ヤング献血フォーラム	継続	10代、20代	11月	1	薩摩川内市	若年層の献血推進イベント・献血トーク&ライブ
	オーカリストオーデショ	継続	若年対象者	6.7.8月	3	血液センター	地元ラジオ局とタイアップしオーデション参加者へ献血講座を実施
	高校出前講座	継続	高校献血実施校等	6月～翌年2月	21	高校献血実施校他	高校献血実施校を中心に県内の高校へ出向き献血講座を実施する
	SNSを活用した推進	継続	若年対象者	年間			SNSを活用し若年層を中心に献血会場・イベント等の案内、推進を図る
20代の献血者及び献血率の目標値(6.2%)	ヤング献血フォーラム	継続	10代、20代	11月	1	薩摩川内市	若年層の献血推進イベント・献血トーク&ライブ
	オーカリストオーデショ	継続	若年対象者	6.7.8月	3	血液センター	地元ラジオ局とタイアップしオーデション参加者へ献血講座を実施
	大学・専門学校出前講座	継続	若年対象者	4月～翌年3月	5	献血実施校	専門学校を中心に献血実施校へ出向き講座を実施する
	SNSを活用した推進	継続	若年対象者	年間			SNSを活用し若年層を中心に献血会場・イベント等の案内、推進を図る
・2回開催(310名)	キッズ献血	継続	小学4年～6年生及び保護者	7月～8月	2	血液センター 市町村	小学高学年に対し献血模擬体験といのちの授業を実施、将来の献血推進に繋げる
・20市町実施(1稼働52名)	ヤング&ハート献血	継続	若年層	4月～翌年3月	20	県内市町	市町村国保との協働による若年層献血者確保と検診を目的とした事業
・12校実施	職場体験学習	継続	中学3年生	7月～翌年1月	12	血液センター・献血ルーム	献血可能年齢を目前に控えた中学3年生を対象に献血等の重要性を学習する

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
1稼働52名の採血	県内の事業所等	継続	事業所等	年間		県内各事業所	献血実施事業所の会場に於いて1稼働52名の採血計画で実施する
保健所単位での1稼働52名採血	保健所単位での献血セミナー等	継続	献血団体、事業所等	年間	2	地方市	保健所単位での1稼働52名の採血を確保するため、団体、事業所の代表者等へ対し献血推進を図る

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

鹿児島県赤十字血液センター

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
一稼働50名の採血	抽選会	継続	数回献血クラブ会員	献血者減少月(11月~)	6	母体・ルーム	抽選会を実施(複数回クラブ会員へは、事前メール)
一稼働70名の採血	ネールサービス	継続	数回献血クラブ会員	毎月(土曜日開催)	20	母体	(ネール)定期的に実施することにより固定献血者を確保する
50名の参加	健康講話	継続	複数回献血クラブ会員	年度末	1	母体	複数回献血クラブ会員への感謝の集い

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
一稼働55名の採血	めっ茶抹茶DAY	継続	献血者	毎月	12	ルーム	HHPと関連させた茶道を実施することによりPC・400献血者を確保する
一稼働55名の採血	ネイルケア・ハンド マッサージ	継続	献血者	10・11・12月	12	ルーム	必要血液の確保PC・400

-122-

(別紙資料5)

平成26年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための具体的な対策

沖縄県赤十字血液センター

ア. 若年層献血者確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血者及び献血率の目標値 献血率 6.4% 66,177人×6.4%=4,235人	高校献血教室	継続	高校生	通年	40	県内各高校	生徒、教職員および保護者対象の献血セミナー。献血基礎知識、受血者体験談、DVDの上映等。
	就業体験受入	継続	高校生	通年	15	沖縄県血液センター	就業体験の積極的な受け入れ。
	高校献血実施	継続	高校生	通年	40	各高等学校	若高校における献血の実施。17歳男子400ml献血の推進
20代の献血者及び献血率の目標値 献血率 8.4% 159,000人×8.4%=13,356人	大学、専門 献血実施	継続	大学生、専門学校生	通年	80	県内各大学、専門学校	各学校における献血の実施。
	大学、専門 献血教室	継続	大学生、専門学校生	通年	15	県内各大学、専門学校	学生対象の献血セミナー。献血基礎知識、受血者体験談、DVDの上映、学生ボランティア呼び掛け等。
	大学、専門 献血実施	継続	大学生、専門学校生	通年	80	県内各大学、専門学校	各学校における献血の実施。学推協の呼び掛け協力。
その他の目標値 小・中学献血教室を3回以上 就業体験受入を5校以上	小、中献血教室	継続	小、中学生	通年	3	県内各小中学校	生徒、教職員および保護者対象の献血セミナー。献血基礎知識、受血者体験談、DVDの上映等。
	就業体験受入	継続	中学生	通年	5	沖縄県血液センター	就業体験の積極的な受け入れ。

イ. 企業等における献血の推進対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血団体 20	新規献血団体訪問 及び献血実施	継続	献血未実施団体	通年	30	各事業所	献血未実施団体を訪問し、献血への理解、実施協力を依頼する。
休眠献血団体 10	休眠献血団体訪問 及び献血実施	継続	3年以上献血休眠団体	通年	15	各事業所	献血実施が3年以上途絶えている団体を訪問し、献血への理解、実施協力を依頼する。

沖縄県赤十字血液センター

ウ. 複数回献血協力者の確保対策

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の目標値 (3800名)	複数回献血協力者 確保	継続	登録者	平成26年4月~3月	6回以上	移動採血、ルーム	年間を通し、緊急時、不足時及び夏場、冬場の血液不足の時期にメール等で協力依頼する。

エ. その他

平成26年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)

-123-

平成26年度の血液製剤の安定供給に関する計画（案）
について

- ・ 諮問書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ・ 平成26年度の血液製剤の安定供給に関する計画（需給計画）（案）・・・ 2
- ・ 平成26年度に配分される原料血漿の標準価格の考え方・・・・・・・・ 9

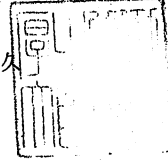
<参考>

- ・ 平成26年度需要見込関連表・・・・・・・・ 14
- ・ 血漿分画製剤の自給率の推移（供給量ベース）・・・・・・・・ 15
- ・ 原料血漿確保実績（H23年4月～26年1月）・・・・・・・・ 17
- ・ 原料血漿価格（日米）の推移・・・・・・・・ 18
- ・ アルブミン製剤の供給量（遺伝子組換え型含む）と自給率・・・・・・・・ 19
- ・ 免疫グロブリン製剤の供給量と自給率・・・・・・・・ 20
- ・ 血液凝固第Ⅷ因子製剤の供給量（遺伝子組換え型含む）と国内血漿
由来製剤の割合・・・・・・・・ 21
- ・ 需給計画の状況（平成24年度～平成26年度）・・・・・・・・ 22

厚生労働省発薬食0225第62号
平成26年2月25日

薬事・食品衛生審議会会長
西島正弘 殿

厚生労働大臣 田村 憲久



諮 問 書

平成26年度の血液製剤の安定供給に関する計画を定めることについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第25条第5項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

平成26年度の血液製剤の安定供給に関する計画（需給計画）（案）

平成 年 月 日
厚生労働省告示第 号

本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（以下「法」という。）第3条に規定する基本理念に基づき、血液製剤（法第25条第1項に規定する血液製剤をいう。以下同じ。）の安定供給を確保することを目的とするものである。

これにより、血液製剤の需要と供給等の動向を把握し、本計画に沿った製造、輸入等が行われることを確実なものとするとともに、供給等の実績をきめ細かく把握し、適時、適切に対応できる体制を構築するものとする。

なお、本計画において、次の各号に掲げる血液製剤は、それぞれ当該各号に定めるものとする。

- 1 アルブミン 加熱人血漿たん白、人血清アルブミン及び遺伝子組換え型人血清アルブミン
- 2 組織接着剤 フィブリノゲン加第XIII因子及びフィブリノゲン配合剤
- 3 血液凝固第VIII因子 乾燥濃縮人血液凝固第VIII因子及び遺伝子組換え型血液凝固第VIII因子
- 4 乾燥濃縮人血液凝固第IX因子 乾燥人血液凝固第IX因子複合体（国内で製造されるものに限る。）、乾燥濃縮人血液凝固第IX因子及び遺伝子組換え型血液凝固第IX因子
- 5 インヒビター製剤 乾燥人血液凝固第IX因子複合体（輸入されるものに限る。）、活性化プロトロンビン複合体、乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体及び遺伝子組換え活性型血液凝固第VII因子
- 6 トロンビン トロンビン（人由来のものに限る。）
- 7 人免疫グロブリン 人免疫グロブリン、乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン、乾燥スルホ化人免疫グロブリン、pH4 処理酸性人免疫グロブリン、乾燥 pH4 処理人免疫グロブリン、乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン、ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン及び乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン
- 8 抗HBs人免疫グロブリン 抗HBs人免疫グロブリン、乾燥抗HBs人免疫グロブリン、ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン及び乾燥ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン
- 9 抗破傷風人免疫グロブリン 抗破傷風人免疫グロブリン、乾燥抗破傷風人免疫グロブリン、ポリエチレングリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン及び乾燥ポリエチレングリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン

第1 平成26年度に必要と見込まれる血液製剤の種類及び量

平成26年度において必要と見込まれる血液製剤の種類及び量は、血液製剤の製造販売業者等（製造販売業者及び製造業者をいう。以下同じ。）における供給見込量等を基に別表第1のとおりとする。

第2 平成26年度に国内において製造され、又は輸入されるべき血液製剤の種類及び量の目標

第1及び血液製剤の製造販売業者等における血液製剤の製造又は輸入の見込量を踏まえ、平成26年度に国内において製造され、又は輸入されるべき血液製剤の種類及び量の目標は、別表第2のとおりとする。

第3 平成26年度に確保されるべき原料血漿の量の目標

第2を踏まえ、平成26年度に確保されるべき原料血漿の量の目標は、92万リットルとする。

第4 平成26年度に原料血漿から製造されるべき血液製剤の種類及び量の目標

平成26年度に原料血漿から製造されるべき血液製剤の種類及び量の目標は、別表第3のとおりとする。

第5 その他原料血漿の有効利用に関する重要事項

1 原料血漿の配分

倫理性、国際的公平性等の観点に立脚し、国内で使用される血液製剤が、原則として国内で採取された血液を原料として製造され、海外の血液に依存しなくても済む体制を構築すべきである。このため、国内で採取された血液を有効に利用し、第4に掲げる種類及び量の血液製剤の製造等により、その血液が血液製剤として安定的に供給されるよう、採血事業者が原料血漿を血液製剤の製造販売業者等に配分する際の標準価格及び配分量を次のとおり規定する。

1 原料血漿の標準価格は、(1)又は(2)に掲げる原料血漿の種類ごとに、それぞれ(1)又は(2)に定めるとおりとする。

- | | |
|-------------|-----------|
| (1) 凝固因子製剤用 | 10,750円/L |
| (2) その他の分画用 | 9,830円/L |

2 血液製剤の製造販売業者等に配分する原料血漿の種類及び見込量は、それぞれ(1)から(3)までに定めるとおりとする。

- | | |
|----------------------|--------|
| (1) 一般財団法人化学及血清療法研究所 | |
| イ 凝固因子製剤用 | 20.0万L |
| ロ その他の分画用 | 14.0万L |
| (2) 日本製薬株式会社 | |
| イ その他の分画用 | 25.5万L |
| (3) 一般社団法人日本血液製剤機構 | |
| イ 凝固因子製剤用 | 32.5万L |
| ロ その他の分画用 | 3.0万L |

(注)

- 「凝固因子製剤用」とは、採血後6時間又は8時間以内に凍結させた原料血漿であって、血液凝固第Ⅷ因子を含むすべての血漿分画製剤を作ることができるものをいう。
- 「その他の分画用」とは、採血後6時間又は8時間以上経過した後に凍結させた原料血漿であって、血液凝固第Ⅷ因子以外の血漿分画製剤を作ることができるものをいう。

2 血液製剤の安定供給の確保のために望ましい在庫

平成13年3月に、遺伝子組換え型血液凝固第Ⅷ因子の出荷一時停止等の問題が生じたことを踏まえ、このような緊急事態に対応できるよう製造販売業者等は一定量の在庫を保有することが望ましい。

別表第1 平成26年度に必要と見込まれる血液製剤の種類及び量

血液製剤の種類	換算規格	需要見込量
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	6,000
組織接着剤	cm ²	12,779,400
血液凝固第Ⅷ因子	1000単位 1瓶	573,600
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	1000単位 1瓶	94,900
インヒビター製剤	延人数	30,100
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	1瓶	142,300
トロンピン	10000単位 1瓶	15,400
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,880,300
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	17,300
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍 1瓶	11,400
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	59,300
乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ	500単位 1瓶	421,400
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	300
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	40,000
乾燥濃縮人CI-インアクチベーター	1瓶	3,400
ヘミン	0.25g 1管	100

(注) 数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位(換算規格)に換算したうえ、四捨五入により100の整数倍で表示した。

別表第2 平成26年度に製造・輸入されるべき血液製剤の種類及び量

血液製剤の種類	換算規格	製造・輸入目標量				25年度末在庫量(見込)	供給可能量
		国内血漿由来	輸入血漿由来	遺伝子組換え	計		
アルブミン	25% 50ml 1瓶	1,804,100	1,345,400	0	3,149,500	593,400	3,742,900
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	8,200	-	-	8,200	1,800	10,000
組織接着剤	cm ²	5,825,000	6,700,100	-	12,525,100	2,578,700	15,103,800
血液凝固第Ⅷ因子	1000単位 1瓶	85,000	-	492,600	577,600	225,700	803,300
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	1000単位 1瓶	36,400	-	64,200	100,600	30,600	131,200
インヒビター製剤	延人数	-	5,600	22,600	28,200	10,100	38,300
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	1瓶	-	154,000	-	154,000	18,300	172,300
トロンピン	10000単位 1瓶	33,600	-	-	33,600	11,800	45,400
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,826,500	127,000	-	1,953,500	381,900	2,335,400
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	400	12,200	-	12,600	11,800	24,400
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍 1瓶	-	15,000	-	15,000	8,700	23,700
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	-	51,200	-	51,200	46,700	97,900
乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ	500単位 1瓶	442,800	-	-	442,800	89,600	532,400
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	0	-	-	0	600	600
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	39,700	-	-	39,700	12,200	51,900
乾燥濃縮人CI-インアクチベーター	1瓶	-	4,000	-	4,000	1,000	5,000
ヘミン	0.25g 1管	-	-	-	100	100	200

(注1) 数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位(換算規格)に換算したうえ、四捨五入により100の整数倍で表示した。
 (注2) 「25年度末在庫量(見込)」及び「供給可能量」の表は、参考である。

別表第3 平成26年度に原料血漿から製造されるべき血液製剤の種類及び量

血液製剤の種類	換算規格	製造目標量
アルブミン	25% 50ml 1瓶	1,804,100
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	8,200
組織接着剤	cm ²	5,825,000
血液凝固第Ⅷ因子	1000単位 1瓶	85,000
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	1000単位 1瓶	36,400
インヒビター製剤	延人数	—
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	1瓶	—
トロンピン	10000単位 1瓶	33,600
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,826,500
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	400
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍 1瓶	—
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	—
乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ	500単位 1瓶	442,800
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	0
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	39,700
乾燥濃縮人CI-インアクチベーター	1瓶	—

(注) 数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位(換算規格)に換算したうえ、四捨五入により100の整数倍で表示した。

血漿分画製剤の分類内訳表

種 類	内 訳
アルブミン	加熱人血漿たん白 人血清アルブミン 遺伝子組換え型人血清アルブミン
乾燥人フィブリノゲン	乾燥人フィブリノゲン
組織接着剤	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子 フィブリノゲン配合剤
血液凝固第Ⅷ因子(遺伝子組換え型含む)	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 遺伝子組換え型血液凝固第Ⅷ因子
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子(複合体及び遺伝子組換え型含む)	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体(国内製剤) 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子 遺伝子組換え型血液凝固第Ⅸ因子
インヒビター製剤	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体(輸入製剤) 活性化プロトロンビン複合体 乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体 遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅷ因子
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子
トロンピン(人由来)	トロンピン(人由来)
人免疫グロブリン	人免疫グロブリン 乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン 乾燥スルホ化人免疫グロブリン pH4処理酸性人免疫グロブリン 乾燥pH4処理人免疫グロブリン 乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン ホリエチレンジリコール処理人免疫グロブリン 乾燥ホリエチレンジリコール処理人免疫グロブリン
抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン 乾燥抗HBs人免疫グロブリン ホリエチレンジリコール処理抗HBs人免疫グロブリン 乾燥ホリエチレンジリコール処理抗HBs人免疫グロブリン
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン
抗破傷風人免疫グロブリン	抗破傷風人免疫グロブリン 乾燥抗破傷風人免疫グロブリン ホリエチレンジリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン 乾燥ホリエチレンジリコール処理抗破傷風人免疫グロブリン
乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ	乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ
乾燥濃縮人活性化プロテインC	乾燥濃縮人活性化プロテインC
人ハプトグロビン	人ハプトグロビン
乾燥濃縮人CI-インアクチベーター	乾燥濃縮人CI-インアクチベーター

(注) 安全な血液製剤の安定供給等の確保に関する法律施行規則に掲げる需給計画の対象となる血液製剤をその適応により分類した。

平成26年度に配分される原料血漿の標準価格の考え方

<基本的考え方>

日本赤十字社では輸血用血液の確保と原料血漿の確保が並行して行われているが、人員をはじめ施設、装置等は兼用されている。このため、これらを明確に切り分けることは困難であるが、採血関連業務の中で、原料血漿の確保のために必要と考えられる部分について費用を積算し、原料血漿の価格を計算する。【原価計算方式】

○血漿成分採血は、必要経費を積算。但し、献血全般に共通する事項や他の献血者にも同様に広く行われるサービスに係る経費を除く。

○全血採血及び血小板成分採血は、主として、赤血球製剤及び血小板製剤を製造するために行われることから、原料血漿の確保に係る費用の一部に限定して積算。但し、赤血球製剤の白血球除去の導入に伴い原料血漿の製造に生じた費用は含むもの。

1 凝固因子製剤用

(1) 原料血漿の確保目標量

92万リットル(A)とする。

(2) 価格の算定方法

原料血漿92万リットルの確保から供給までに必要な経費を積み上げ、この必要経費の総額を92万で除し、8%の消費税を加えて1リットルの単価(B)とする。

(3) 算定の根拠

日本赤十字社が提出したデータを使用することとし、材料費等(材料費、人件費、経費、管理供給費)の単価(C)については直近の実績である平成23年度及び24年度の平均を使用する。

(4) 採血方法別の原料血漿の配分量

各採血方法別の確保量の割合で92万リットルを按分し配分量(D)とする。確保量の割合は、平成26年度献血推進計画(案)に則り日本赤十字社が策定した平成26年度の事業計画(案)とした。

$$\text{計算式： } B = \sum (C_n \times D_n) / A \times 1.08 \quad (10\text{円未満切り上げ})$$

(nは採血方法を示す。)

2 その他の分画用

血液凝固第Ⅷ因子製剤が製造できない点を考慮して、凝固因子製剤用から所要額を割り引くものとするため、前年度価格に凝固因子製剤用原料血漿の価格改定率を乗じ新価格とする。(10円未満切り上げ)

積算する費用(凝固因子製剤用)

	採 血 種 別		
	全血(200及び400)	血小板成分	血 漿 成 分
材 料 費	血液バッグ代、製品表示ラベル		採血キット、製品表示ラベル、薬品費、止血・消毒用消耗品、検査用試薬
人 件 費	原料血漿の凍結・一時保管に係る製造職員		
			医師、看護師、検査職員(生化学等検査)、事務職員(受付等)
経 費	原料血漿の凍結・一時保管経費		
	白血球除去の導入に伴い新たに導入した採血装置に係る経費		登録者依頼経費、献血者処遇費、採血装置に係る経費、検査経費
管理供給費	原料血漿輸送・貯留保管経費		

材料費

全血採血及び血小板成分採血については、原料血漿として分離後の凍結・一時保管に関するものを積算する。血漿成分採血は全額を積算する。

人件費

全ての採血種別で原料血漿の凍結に要する費用を積算する。

血漿成分採血では献血者に対応する医師、看護師及び事務職員の人件費並びに血液検査の実施に係る人件費も積算する。

経費

全血採血及び血小板成分採血については、原料血漿として分離後の凍結・一時保管に関するものを積算する。血漿成分採血では、成分献血登録者に対する献血依頼経費、献血者に対する処遇費、採血、検査、製造(凍結)に関する経費も含めて積算する。

全血採血において、白血球除去の導入に伴い、原料血漿の製造に生じた経費(減価償却費、リース料等)も積算する。

管理供給費

原料血漿の搬送・貯留保管に要する経費を積算する。

1. 一採血当たりの経費負担額

区分	全血200	全血400	血小板成分	血漿成分	負担する費用	負担の区分
材料費	221.20 円	268.88 円	267.84 円	7,271.47 円	血液バッグ代 採血キット 製品表示ラベル 薬品費(成分採血の保存液、生理食塩水など) 止血・消毒用消耗品	全血、血小板成分採血のみ 血漿成分採血のみ
経費	21.78 円	41.36 円	36.94 円	3,582.32 円	白血球除去の導入に伴い生じた経費 凍結・一時保存経費(機器等保守料、減価償却費、光熱水料) 登録者への献血依頼経費、献血者処遇費 採血装置運賃料、減価償却費、保守料 検査検体送料 検査機器保守料、減価償却費、光熱水料	全血採血のみ 血漿成分採血のみ " " " "
人件費	55.30 円	106.13 円	96.90 円	8,424.37 円	製造職員(凍結・一時保管) 医師(検診) 看護師(検診・採血・採血前後の準備) 検査職員(生化学検査・感染症検査) 事務職員(献血者の受付、採血後の応対) 原料血漿輸送・貯留保管費用	全血採血のみ " " " " " "
管理供給費	154.76 円	296.60 円	270.79 円	580.31 円	1リットル当たり原価を1採血当たり単価に交換	血漿成分採血のみ " " " "
計	453.04 円	712.97 円	672.47 円	19,864.47 円		

1採血当たりの原料血漿量	0.116 ㊦	0.236 ㊦	0.210 ㊦	0.450 ㊦
合計(1リットル当たり単価)①	3,905.52 円	3,021.06 円	3,202.24 円	44,143.27 円

2. 原料血漿価格の計算(凝固因子製剤用)

原料血漿確保量②	29,808 ㊦	549,884 ㊦	175,076 ㊦	165,232 ㊦
確保費用計 ①×②	116,415,740 円	1,661,232,557 円	560,635,370 円	7,293,880,789 円
確保費用総計 ③		9,632,164,456 円		
原料血漿確保目標量 ④		92万リットル		
原料血漿標準価格 ⑤(③)÷④×108%		11,307.3 円/リットル		11,310 円

3. 原料血漿価格の計算(その他の分画用)

平成25年度原価計算方式に基づく算定(その他の分画用)⑥	10,230 円
平成25年度原価計算方式に基づく算定(凝固因子製剤用)⑦	11,190 円
原料血漿標準価格 ⑥×⑤÷⑦	10,339.7 円/リットル

平成26年度原料血漿価格(案)について

I 従来の原価計算方式に基づく価格(括弧書は平成25年度価格)

- 凝固因子製剤用 11,310円/L (11,190円/L)
- その他の製剤用 10,340円/L (10,230円/L)

II 原料血漿価格に関する議論等について

- 血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針(基本方針)(H25.7改正)

第八 その他献血及び血液製剤に関する重要事項

一～四 (略)

五 血液製剤の販売価格

- (略)
- 血漿分画製剤

血漿分画製剤については、製剤により状況は異なるものの、海外の血漿に由来する製剤(以下「輸入製剤」という。)に一定程度依存している。主な製剤であるアルブミン製剤の国内自給率が近年伸びないのは、輸入製剤の方が販売価格が安いという指摘があり、ここ数年は輸入製剤の販売量が若干増加している。国内の献血由来の製剤の販売量を伸ばすためには、輸入製剤と価格競争ができるよう努力する必要がある。そのためには、原料血漿価格の低減、製造コストの削減、製造規模の拡大などに取り組むことが重要である。

- 血漿分画製剤の供給のあり方に関する検討会最終報告書(H24.3.6公表)

第4 提言

- (1)～(2) (略)
- (3) 輸血用を含めた血液製剤全般のコスト構造のあり方について

① (略)

②アルブミン製剤など血漿分画製剤の価格等について

アルブミン製剤の国内自給率が低下している要因として、原料血漿価格を含む製造コストが高いことなどが考えられる。今後、国は、血液事業の運営に支障を来さないように配慮しつつ、原料血漿価格についても適正な価格の調整を考えていくべきである。(以下略)

- (4)～(9) (略)

III 調整案

- IIを踏まえ、Iにより算出した価格の△5%とする。(括弧書は平成25年度標準価格)

- 凝固因子製剤用 10,750円/L (10,640円/L)
- その他の製剤用 9,830円/L (9,720円/L)

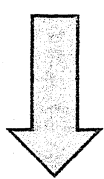
※ 米国の原料血漿価格 11,172円/L(平成24年)

日本赤十字社事業計画に基づく原料血漿の採血方法別確保目標量について

日本赤十字社は、平成26年度の献血の推進に関する計画における目標量に則り、全血採血で約143万リットル、成分採血で約62万リットル、合計で約205万リットルの血液確保計画を作成し、当該年度に必要な92万リットルの原料血漿を確保することとしております。

献血の推進に関する計画（案）

採血方法	全血献血	成分献血			合計
		血小板	血漿	小計	
血液量(L)	1,426,485	355,321	263,428	618,749	2,045,234



-日本赤十字社の事業計画について-
 全国の輸血用血液製剤の需要動向を踏まえて、採血方法別の必要血液量を算出します。
 当該年度の原料血漿確保目標量（92万L）については、輸血用血液として使用しない血漿と血漿成分献血で確保する計画としております。

日本赤十字社事業計画（案）における血液量

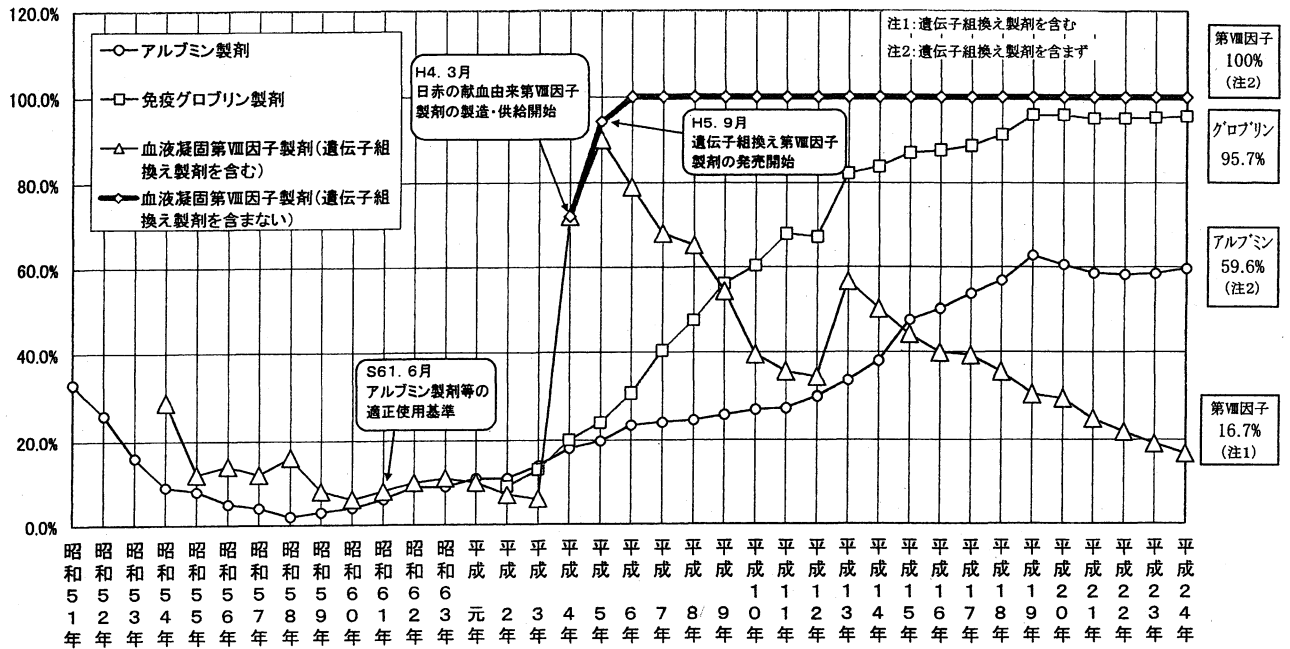
採血方法	全血献血			成分献血			合計
	200mL	400mL	小計	血小板	血漿	小計	
血液量(L)	67,847	1,358,638	1,426,485	355,321	263,428	618,749	2,045,234
輸血用血液量	31,316	690,378	721,694	173,053	87,129	260,182	981,876
原料血漿確保量	29,808	549,884	579,692	175,076	165,232	340,308	920,000
検査落・減損等	6,723	118,376	125,099	7,192	11,067	18,259	143,358

平成26年度需要見込関連表

種類	換算規格	A	B	C	D=B+C	E	F=D-E	G
		H25年度 供給見込(※)	H25年度末 在庫見込	H26年度製造 輸入見込量	H26年度 供給可能量	H26年度 需要見込量	H26年度末 在庫見込量	在庫量 (ヶ月分)
アルブミン	25% 50ml 1瓶	2,832,000	593,400	3,149,500	3,742,900	3,044,600	698,300	2.8
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	6,700	1,800	8,200	10,000	6,000	4,000	8.0
組織接着剤	cm ³	13,416,900	2,578,700	12,525,100	15,103,800	12,779,400	2,324,400	2.2
血液凝固第Ⅳ因子(遺伝子組換え型含む)	1000単位 1瓶	573,900	225,700	577,600	803,300	573,600	229,700	4.8
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子(複合体含む)	1000単位 1瓶	96,100	30,600	100,600	131,200	94,900	36,300	4.6
インヒビター製剤	延人数	32,300	10,100	28,200	38,300	30,100	8,200	3.3
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第ⅩⅢ因子	1瓶	129,700	18,300	154,000	172,300	142,300	30,000	2.5
トロンピン(人由来)	10000単位 1瓶	25,000	11,800	33,600	45,400	15,400	30,000	23.4
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,869,200	381,900	1,953,500	2,335,400	1,880,300	455,100	2.9
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	18,800	11,800	12,600	24,400	17,300	7,100	4.9
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍 1瓶	12,800	8,700	15,000	23,700	11,400	12,300	12.9
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位 1瓶	64,100	46,700	51,200	97,900	59,300	38,600	7.8
乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	500単位 1瓶	443,700	89,600	442,800	532,400	421,400	111,000	3.2
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位 1瓶	200	600	0	600	300	300	12.0
人ハプトグロビン	2000単位 1瓶	43,900	12,200	39,700	51,900	40,000	11,900	3.6
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	1瓶	2,000	1,000	4,000	5,000	3,400	1,600	5.6
ヘミン	0.25g 1管	100	100	100	200	100	100	12.0

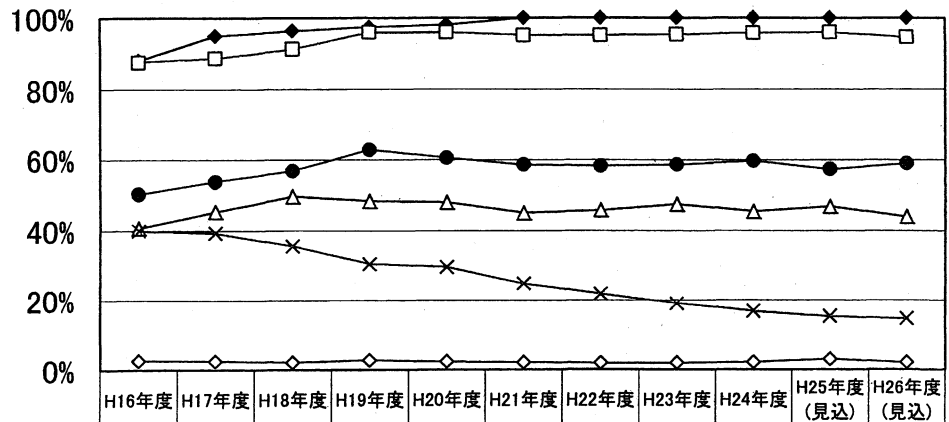
※平成25年4月～12月供給実績値より算出(×12月/9月)

血漿分画製剤の自給率の推移1（供給量ベース）



注) 平成9年以前は年次、平成10年以降は年度

血漿分画製剤の自給率の推移2（供給量ベース）



	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度 (見込)	H26年度 (見込)
◆ 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	88.0%	94.9%	96.3%	97.4%	98.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
□ 人免疫グロブリン	87.5%	88.6%	91.2%	95.9%	95.9%	95.1%	95.1%	95.3%	95.7%	95.9%	94.5%
△ 組織接着剤	40.7%	45.3%	49.6%	48.3%	47.9%	45.0%	45.7%	47.4%	45.4%	46.8%	43.9%
× 血液凝固第Ⅷ因子(遺伝子組換え製剤を含む)	39.9%	39.3%	35.6%	30.5%	29.6%	24.8%	21.8%	19.0%	16.7%	15.3%	14.7%
● アルブミン(遺伝子組換え製剤を含まない)	50.2%	53.7%	56.8%	62.8%	60.5%	58.5%	58.2%	58.5%	59.6%	57.2%	58.9%
◇ 抗HBs人免疫グロブリン	2.7%	2.6%	2.2%	2.8%	2.4%	2.2%	2.0%	2.0%	2.2%	3.1%	2.1%

※ H25年度(見込)は、平成25年4～12月の供給実績値より算出(×12月/9月)

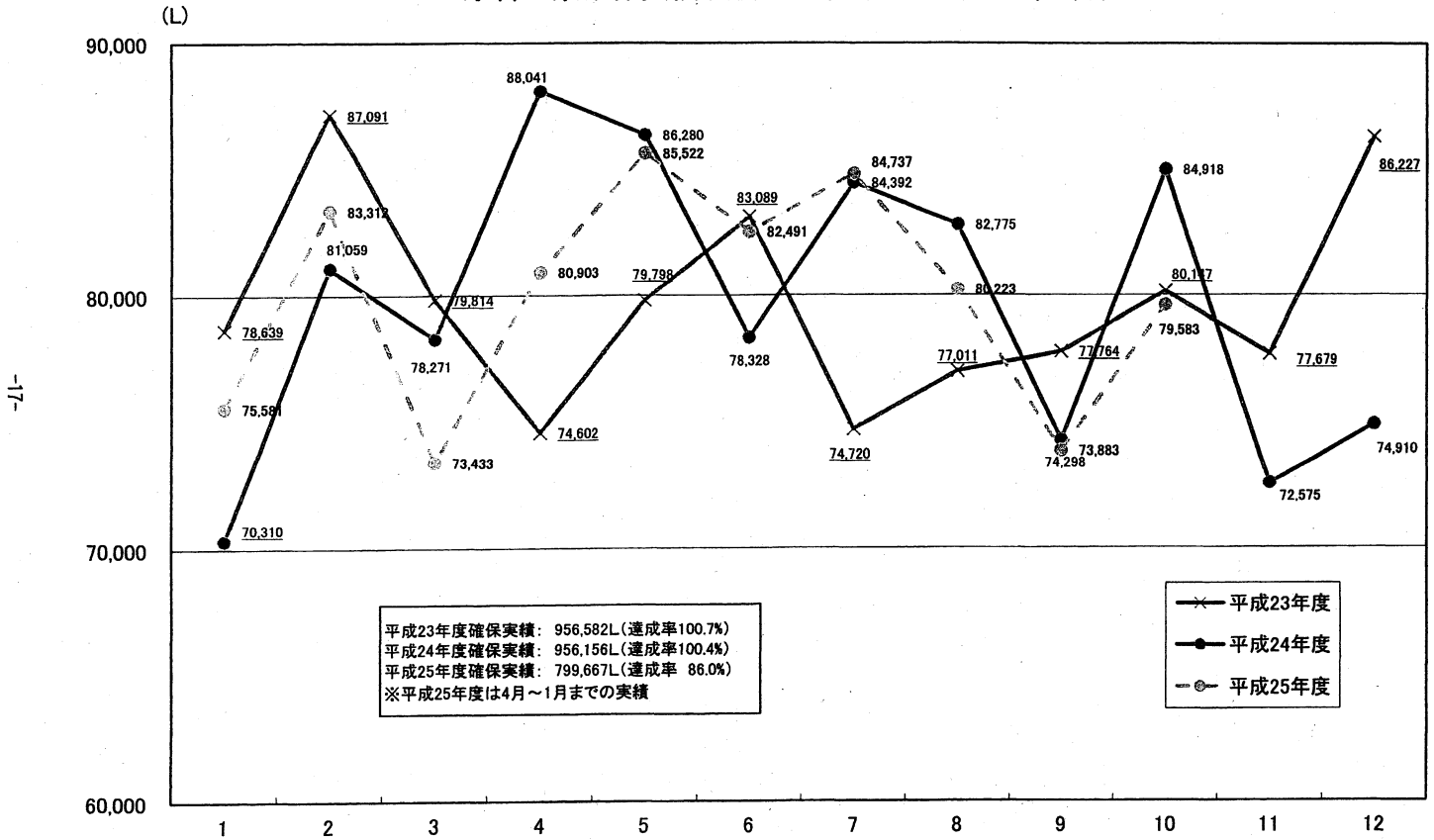
自給率100%のもの

乾燥人フィブリノゲン、血液凝固第Ⅷ因子(血液由来に限る)、乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子(複合体含む、血液由来に限る)、トロンビン、乾燥濃縮人活性化プロテインC、人ハプトグロビン、乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ

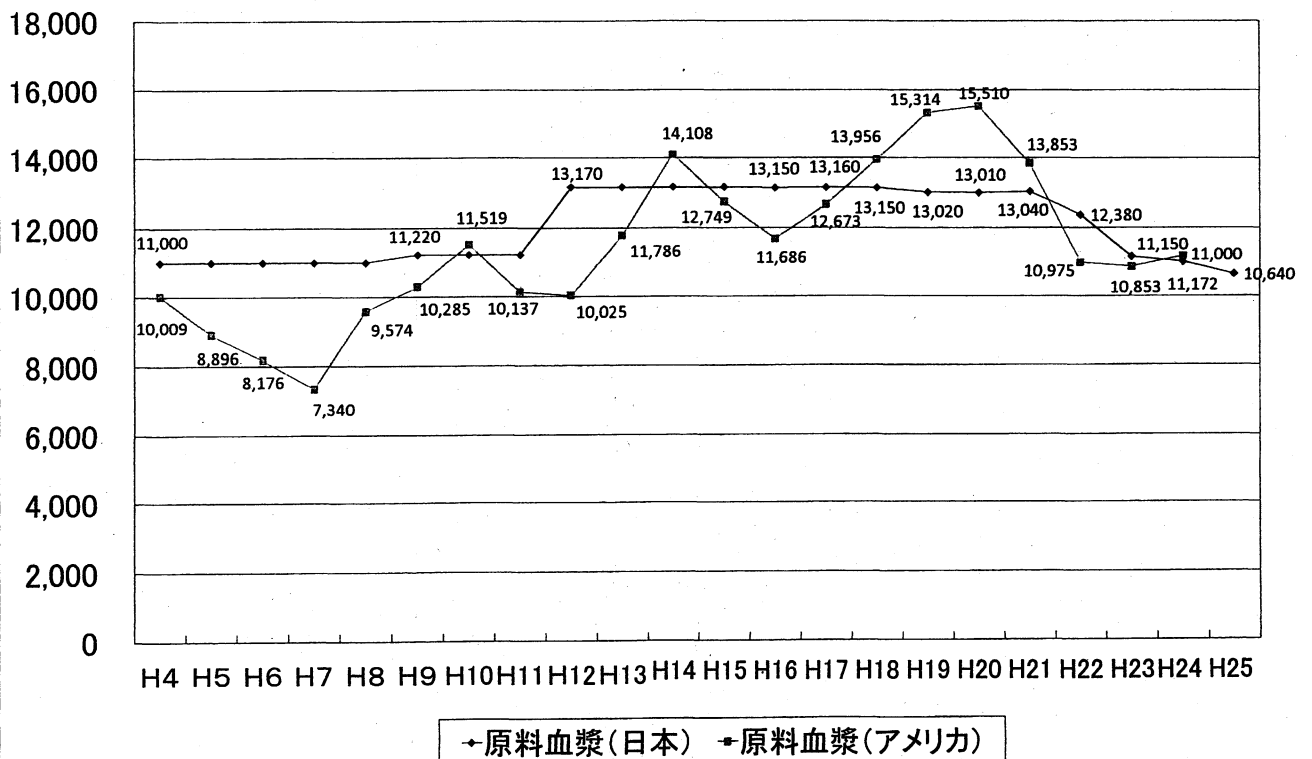
自給率0%のもの

インヒビター製剤、乾燥濃縮血液凝固第ⅩⅢ因子、乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン、抗破傷風人免疫グロブリン、乾燥濃縮人C1-インアクチベーター

原料血漿確保実績(平成23年4月～平成26年1月)



原料血漿価格(日米)の推移

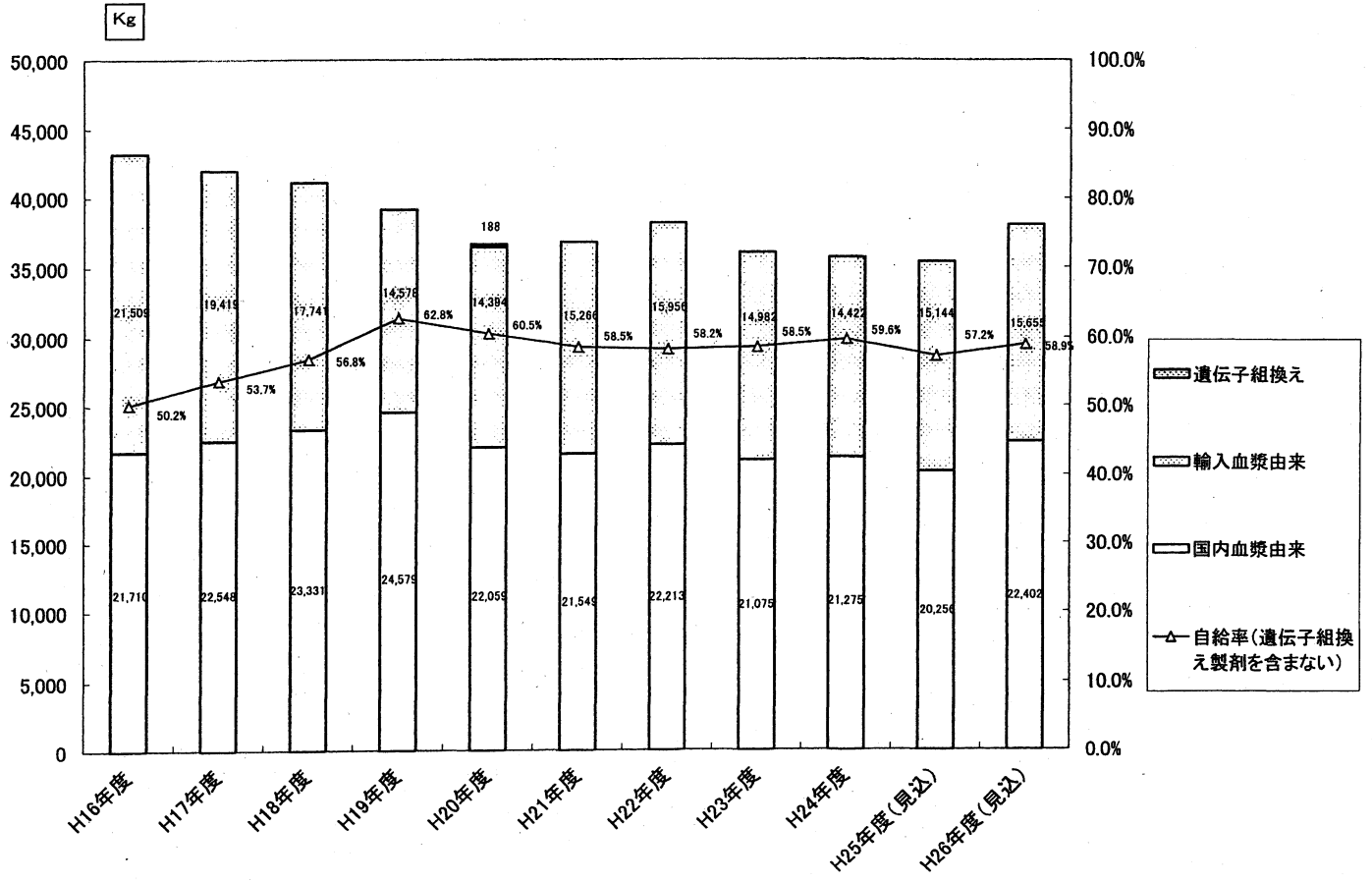


	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
米国の原料血漿価格(ドル)	79	80	80	78	88	85	88	89	93	97	112.5	110	108	115	120	130	150	148	125	136	140
為替レート(円/ドル)	126.7	111.2	102.2	94.1	108.8	121.0	130.9	113.9	107.8	121.5	125.4	115.9	108.2	110.2	116.3	117.8	103.4	93.6	87.8	79.8	79.8

米国における原料血漿価格はThe Plasma Fractions Markets in the United States (The Marketing Research Bureau Inc)より
 為替レートはIMF World Economic Outlook の指標を使用。

アルブミン製剤の供給量(遺伝子組換え型含む)と自給率

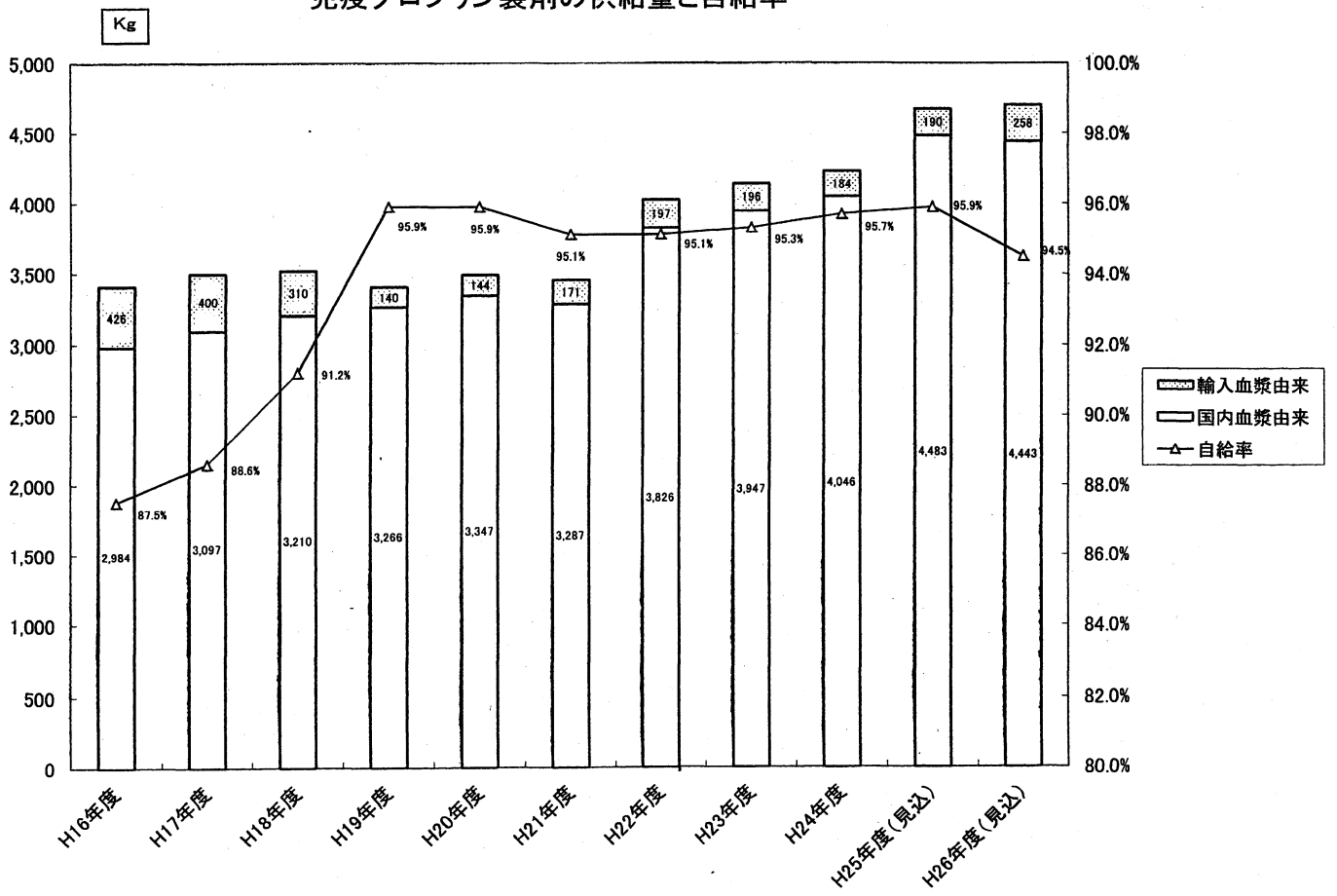
-19-



※H25年度(見込)は、平成25年4月～12月供給実績値より算出(×12月/9月)

免疫グロブリン製剤の供給量と自給率

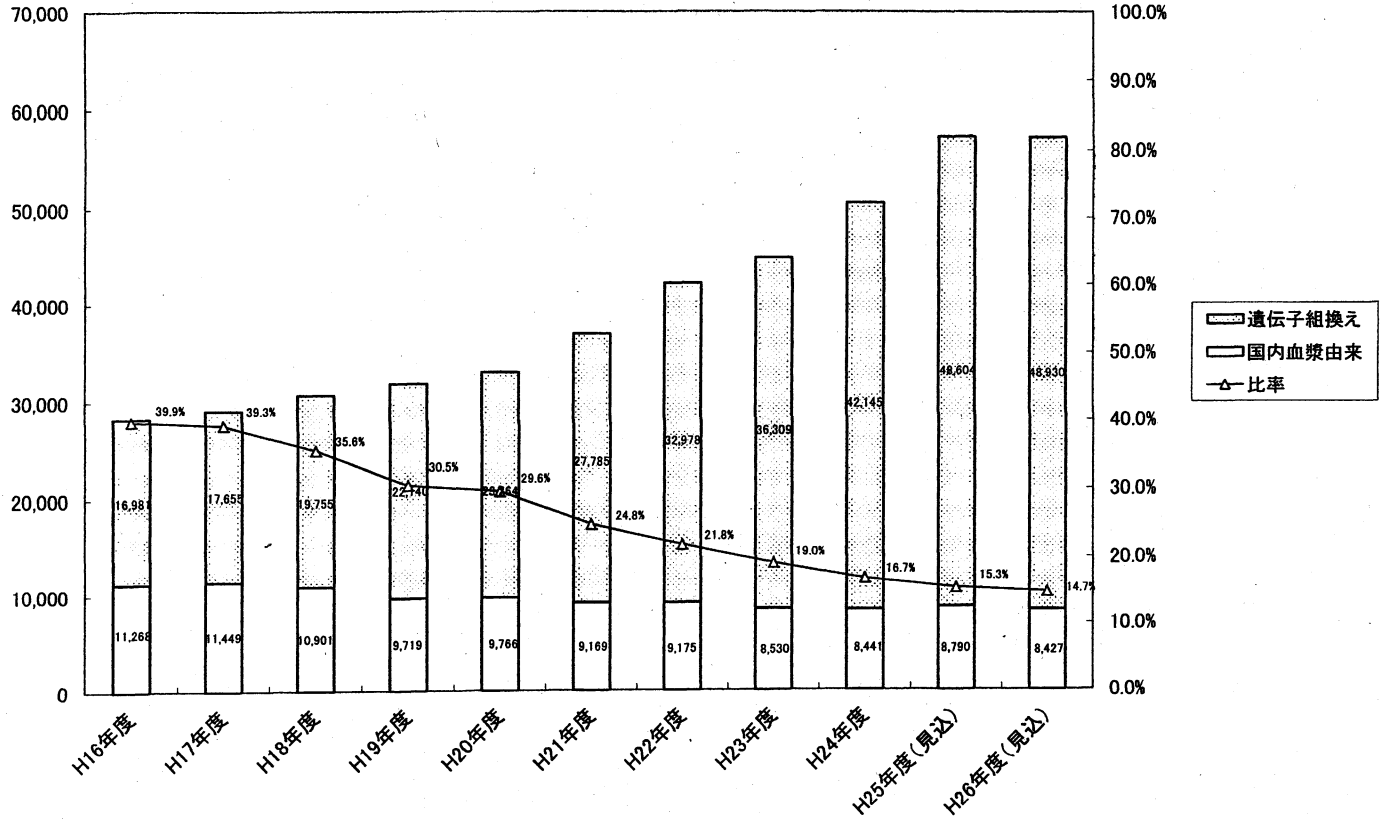
-20-



※H25年度(見込)は、平成25年4月～12月供給実績値より算出(×12月/9月)

血液凝固第Ⅷ因子製剤の供給量(遺伝子組換え型含む) と国内血漿由来製剤の割合

万単位



※H25年度(見込)は、平成25年4月～12月供給実績値より算出(×12月/9月)

需給計画の状況(平成24年度～平成26年度)

(平成24年度)

製剤名	換算規格	平成24年度									
		計画			実績						
		製造・輸入	国内血漿由来	供給	製造・輸入	国内血漿由来	供給				
アルブミン	25% 50ml 1瓶	3,193,400	1,924,800	3,171,100	1,815,200	57.1%	2,772,237	1,858,600	2,855,746	1,701,997	59.6%
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	5,500	5,500	5,500	5,500	100.0%	6,734	6,734	8,523	8,523	100.0%
組織プラスミン	1000単位 1瓶	12,848,200	6,090,000	12,248,500	5,383,500	44.0%	11,868,094	5,589,770	11,182,289	5,071,245	45.4%
血液凝固第Ⅷ因子 ※	1000単位 1瓶	449,700	78,300	419,800	84,400	20.1%	470,713	86,199	505,857	84,411	16.7%
遺伝子組換え血液凝固第Ⅷ因子 ※	1000単位 1瓶	99,200	46,800	82,000	38,700	48.4%	84,505	34,685	78,328	35,777	45.7%
遺伝子組換え血液凝固第Ⅷ因子 ※	1000単位 1瓶	18,300	0	17,500	0	0.0%	35,501	0	26,421	0	0.0%
トロンボリン	10000単位 1瓶	21,800	21,800	21,300	21,300	100.0%	17,225	17,225	21,880	21,880	100.0%
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,801,900	1,884,800	1,737,800	1,830,500	83.8%	1,723,397	1,681,822	1,692,185	1,618,579	95.7%
抗HbA1c免疫グロブリン	1000単位 1瓶	14,800	400	17,800	400	2.3%	15,088	627	18,224	364	2.2%
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	12,800	0	11,500	0	0.0%	18,748	0	11,888	0	0.0%
乾燥抗A免疫グロブリン	250単位 1瓶	79,000	0	87,300	0	0.0%	50,201	0	55,885	0	0.0%
乾燥抗B免疫グロブリン	250単位 1瓶	442,800	442,800	438,000	438,000	100.0%	403,148	403,148	409,062	409,062	100.0%
乾燥抗C免疫グロブリン	250単位 1瓶	300	300	300	300	100.0%	347	347	287	287	100.0%
乾燥抗D免疫グロブリン	2000単位 1瓶	39,400	39,400	40,000	40,000	100.0%	32,740	32,740	41,322	41,322	100.0%
乾燥抗E免疫グロブリン	1000単位 1瓶	3,200	0	2,800	0	0.0%	2,001	0	1,525	0	0.0%

(平成24年度原料血漿確保目標量:95万L) 確保実績:95.6万L

(平成24年度原料血漿配分量)

会社名	計画	実績	
(財)化学及血清療法研究所	凍結因子製剤	15.0万L	15.0万L
	その他の分画	14.0万L	16.8万L
日本製薬(株)	その他の分画	14.0万L	14.0万L
	中間原料PⅡ+Ⅲ	8.0万L(増産)	8.1万L(増産)
	凍結因子製剤	—	14.0万L
(株)ベネシス(社)日本血液製剤機構	その他の分画	26.0万L	26.0万L
	中間原料PⅣ-1	20.0万L(増産)	20.3万L(増産)
	中間原料PⅣ-4	5.2万L(増産)	5.7万L(増産)

(平成25年度)

製剤名	換算規格	平成25年度									
		計画			実績(平成25年4月～12月)						
		製造・輸入	国内血漿由来	供給	製造・輸入	国内血漿由来	供給				
アルブミン	25% 50ml 1瓶	3,070,900	1,835,700	3,028,200	1,785,100	58.3%	2,068,588	1,167,485	2,124,002	1,215,355	57.2%
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	7,500	7,500	8,500	8,500	100.0%	4,918	4,918	5,046	5,046	100.0%
組織プラスミン	1000単位 1瓶	13,558,700	6,320,000	12,482,100	5,333,000	44.2%	8,101,804	4,304,780	10,082,890	4,710,575	46.8%
血液凝固第Ⅷ因子 ※	1000単位 1瓶	598,700	90,700	504,500	92,200	15.2%	483,432	88,555	430,457	85,821	15.3%
遺伝子組換え血液凝固第Ⅷ因子 ※	1000単位 1瓶	96,300	45,800	88,000	40,200	45.2%	88,283	35,607	72,048	30,008	41.7%
遺伝子組換え血液凝固第Ⅷ因子 ※	1000単位 1瓶	23,900	0	26,800	0	0.0%	15,238	0	24,811	0	0.0%
トロンボリン	10000単位 1瓶	12,600	12,600	12,700	12,700	100.0%	27,308	27,308	18,740	18,740	100.0%
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,858,100	1,789,800	1,800,700	1,718,400	95.3%	1,274,278	1,216,378	1,401,881	1,344,880	95.9%
抗HbA1c免疫グロブリン	1000単位 1瓶	15,200	400	17,800	400	2.3%	7,048	0	14,131	431	3.1%
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	14,300	0	11,300	0	0.0%	8,252	0	8,008	0	0.0%
乾燥抗A免疫グロブリン	250単位 1瓶	81,800	0	87,600	0	0.0%	48,846	0	48,077	0	0.0%
乾燥抗B免疫グロブリン	250単位 1瓶	439,000	439,000	439,000	439,000	100.0%	215,107	215,107	332,740	332,740	100.0%
乾燥抗C免疫グロブリン	250単位 1瓶	0	0	200	200	100.0%	882	882	185	185	100.0%
乾燥抗D免疫グロブリン	2000単位 1瓶	46,400	46,400	40,000	40,000	100.0%	33,800	33,800	32,800	32,800	100.0%
乾燥抗E免疫グロブリン	1000単位 1瓶	4,000	0	1,400	0	0.0%	785	0	1,517	0	0.0%

(平成25年度原料血漿確保目標量:92万L) 確保実績:80万L(4月～12月)

(平成25年度原料血漿配分量)

会社名	計画	実績	
(財)化学及血清療法研究所	凍結因子製剤	19.0万L	19.0万L
	その他の分画	13.0万L	15.3万L
日本製薬(株)	その他の分画	13.0万L	13.0万L
	中間原料PⅡ+Ⅲ	3.2万L(増産)	3.2万L(増産)
(株)日本血液製剤機構	凍結因子製剤	35.8万L	35.8万L
	その他の分画	9.7万L	9.7万L

(平成26年度)

製剤名	換算規格	平成26年度									
		計画			実績						
		製造・輸入	国内血漿由来	供給	製造・輸入	国内血漿由来	供給				
アルブミン	25% 50ml 1瓶	3,148,500	1,804,100	3,044,600	1,782,200	58.3%					
乾燥人フィブリノゲン	1g 1瓶	8,200	8,200	8,000	8,000	100.0%					
組織プラスミン	1000単位 1瓶	12,525,100	5,825,000	12,779,400	5,605,000	43.8%					
血液凝固第Ⅷ因子 ※	1000単位 1瓶	577,800	85,000	573,000	84,300	14.7%					
遺伝子組換え血液凝固第Ⅷ因子 ※	1000単位 1瓶	100,000	0	94,000	0	0.0%					
遺伝子組換え血液凝固第Ⅷ因子 ※	1000単位 1瓶	28,200	0	30,100	0	0.0%					
トロンボリン	10000単位 1瓶	13,000	13,000	14,200	14,200	100.0%					
人免疫グロブリン	2.5g 1瓶	1,853,500	1,828,500	1,880,300	1,777,300	94.5%					
抗HbA1c免疫グロブリン	1000単位 1瓶	12,400	400	17,300	400	2.3%					
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000単位 1瓶	15,000	0	11,400	0	0.0%					
乾燥抗A免疫グロブリン	250単位 1瓶	51,200	0	58,300	0	0.0%					
乾燥抗B免疫グロブリン	250単位 1瓶	442,800	442,800	421,400	421,400	100.0%					
乾燥抗C免疫グロブリン	250単位 1瓶	300	300	300	300	100.0%					
乾燥抗D免疫グロブリン	2000単位 1瓶	39,700	39,700	40,000	40,000	100.0%					
乾燥抗E免疫グロブリン	1000単位 1瓶	4,000	0	3,400	0	0.0%					
ヘミン	0.25g 1瓶	100	0	100	0	0.0%					

(平成26年度原料血漿確保目標量:92万L)

(平成26年度原料血漿配分量(案))

会社名	計画	
(財)化学及血清療法研究所	凍結因子製剤	20.0万L
	その他の分画	14.0万L
日本製薬(株)	その他の分画	25.8万L
	中間原料PⅡ+Ⅲ	3.2万L(増産)
(株)日本血液製剤機構	凍結因子製剤	32.8万L
	その他の分画	3.0万L